

第 2 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録  
( 第 2 号 )



1 平成9年6月16日(月曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 25名

1番 辻 田 実  
3番 三 上 英 男  
5番 忍 足 利 彦  
7番 斉 藤 実  
9番 島 田 保  
11番 秋 山 光 章  
13番 脇 田 安 保  
15番 山 崎 雅 己  
17番 岩 村 勝 弘  
19番 川 名 正 二  
21番 山 中 金治郎  
23番 石 井 昌 治  
25番 飯 田 義 男

2番 本 橋 亮 一  
4番 小 幡 一 宏  
6番 鈴 木 順 子  
8番 増 田 基 彦  
10番 宮 沢 治 海  
12番 植 木 馨  
14番 永 井 龍 平  
16番 鈴 木 忠 夫  
18番 日 下 君 敏  
20番 神 田 守 隆  
22番 榎 本 春 光  
24番 福 原 勤

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

市 長 庄 司 厚  
収 入 役 永 野 修  
総 務 部 長 鈴 木 完 二  
経 済 環 境 部 長 小 沼 晃  
水 道 課 長 鈴 木 基 博

助 役 小 幡 清 之  
企 画 部 長 寺 嶋 清  
市 民 福 祉 部 長 渡 辺 富 雄  
建 設 部 長 鈴 木 信 一  
教 育 委 員 会 長 高 橋 博 夫

1 出席事務局職員

事 務 局 長 兵 藤 恭 一  
書 記 四ノ宮 朗  
書 記 加 藤 浩 一

事 務 局 長 補 佐 鈴 木 哲  
書 記 鈴 木 達 也  
書 記 松 浮 郁 夏

1 議事日程(第2号)

平成9年6月16日午前10時開議

日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時02分

◎議長（山中金治郎君） 本日の出席議員数25名、これより第2回市議会定例会第2日目の会議を開きます。

本日の議事は、お手元に配付の日程表により行います。

#### 行政一般通告質問

◎議長（山中金治郎君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の6月10日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序は、お手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

この際、申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあらうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。発言の方法は、最初の発言を20分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて30分以内といたします。

これより順次発言を願います。

3番議員三上英男さん。御登壇願います。

#### （3番議員三上英男君登壇）

◎3番（三上英男君） 都道府県レベルで全国初となる県の残土条例案が今6月の県議会に上程されるとのことです。それに先立ち、県議及び県職員の視察が6月11日、出野尾大砂地区でありました。これは既に新聞報道で御存じの方もおられると思います。目的は、残土による埋め立ての実情あるいは問題点の把握のためと聞いております。このように視察地に館山市を選んだのも、問題点の多いことと、自然保護団体等の根強い運動の成果ではなかったかと思うのであります。

さて、ここで出野尾大砂地区の埋め立ての概要を述べますが、ここは平成2年、市の土砂等による土地の埋立て、盛土及びたい積行為の規制に関する条例——以下、残土条例と言いますが、残土条例により、約2万1,000平方メートルの埋め立て許可が出されております。その後、3回にわたり事業期間が延長されました。そして、事業終了は平成9年11月とのことでありました。しかし、3回の期間延長にもかかわらず、面積には変更がありませんでした。そして、結果は10.7ヘクタール、10万7,000平方メートルの埋め立てが行われていたのです。新たに拡張した部分の8.6ヘクタールはどんな形で許可を出したのでしょうか。

さらに、8.6ヘクタール中の3ヘクタールは森林法の適用を受けた部分であります。この部分は、優良農地林地保全特別措置要綱に——以下、要綱と言いますが——従って開発行為をしななければならないわけでありました。要綱によれば、林地の開発に当たっては、市町村は開発行為者に

事業計画書を提出させ、これに当該市町村長の意見を添え、事前に開発行為の内容につき知事に協議させなければならないとなっております。すなわち、地元の審査機関として、市長は意見書を添えて県に進達しなければならなかったわけではありますが、その責務を今日まで果たしておりません。ここが要綱違反として指摘されたものと考ええるものであります。県は、平成8年11月13日、要綱に違反していると認めております。復旧工事の内容などを含めて御説明ください。

次に、ダイオキシンのことですが、3月議会で館山市のごみ焼却炉の排煙中のダイオキシン濃度を伺いましたところ、2炉中1炉は5.5ナノグラム、他の1炉は12.0ナノグラム、平均で8.75ナノグラムであるとのことでした。また、灰からは10ナノグラム出たということでした。この数値は、厚生省の暫定基準であると聞いております80ナノグラムからすれば安心できる数値ではありますが、将来的には0.1ナノグラムに基準値が設定されるようであります。とすると、現在の数値は87.5倍ということでありまして、現在の焼却炉と運転方法で0.1ナノグラムが達成できるでしょうか。このことを含めまして、ダイオキシン対策をお伺いいたします。

また、市中におけます小型焼却炉に対しての指導等は考えておりますでしょうか。

以上、お答えによりましては再質問させていただきます。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの三上議員の御質問にお答えいたします。

第1、優良農地林地保全特別措置要綱についての御質問でございますが、佐野地先の砂流出によります防災工事について、先月千葉県に対しまして当時の状況等を報告いたしましたところ、今後の対応といたしまして、関係機関相互の連携によります情報の交換、違反行為の早期発見と適正な対応等について協力を依頼されたものでございます。

復旧内容につきましては、部長より御答弁申し上げます。

第2のダイオキシン類対策についての御質問でございますが、ダイオキシン類の発生は、ごみの不完全燃焼が主たる原因とされております。館山市清掃センターでは、適正な燃焼管理を図ることによりまして、ダイオキシン類の抑制に努めているところでございますが、さらに今後ともごみの減量化、再資源化を促進することによりまして、ダイオキシン類の一層の削減を図ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 森林法及び優良農地林地保全特別措置要綱に違反をしたということで、県の方から指導がなされているその内容という御質問でございますが、植林等の緑化対策を指導された、このように伺っております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 三上さん。

◎3番（三上英男君） かねがね聞いておるところであります、数字的には私は 8.6と言いましたけれども、これに対して防災工事ということで埋め立てを行った、その中に森林法に触れる部分が3ヘクタールあったということですが、森林法に触れようと触れまいと、これは残土条例によって埋め立てをしなければならない、残土条例の許可のもとにやらなければならないということには変わりないと思います。そうしますと、防災工事でやったということであれば、これが市の残土条例もしくは他の法令の上位にあるものか、防災協定がこれらの条例もしくは法令の上位にあるものであるという見解をとっているのかどうか、その点をお伺いします。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） ちょっと数字の面で確認をさせていただきたいと思いますが、防災工事が 8.6ヘクタールという御質問でございますが、これは12月議会でもお答えをいたしておりますが、そのうちの2ヘクタールにつきましては、いわゆる残土条例施行前に実施をされた面積でございます、防災工事として実施された面積は 6.6ヘクタールということで、12月議会でお答えをしているところでございます。

今の御質問ですと、残土条例を適用しなかったのは上位法との関係かという御質問でございますけれども、この防災工事につきましては、これも本会議でお答えをいたしておりますけれども、かつて砂をとりました跡でございますけれども、その保全工事がされていなかったために、大雨によりまして土砂が流出して下流の農地を埋めてしまった。そういう中で、農業者の方、それから土地の地権者の方、さらに業者の方で防災工事を実施しようということで協定を結ばれて実施をした、こういうことでございまして、当然保全措置がなされておれば、そういう土砂流出というようなことも防げたのではないのか。それができなかったために、結局防災工事にゆだねざるを得なかったというようなことで、当時の判断として市の残土条例を適用することはなじまない、こういう判断があったということで聞いております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） そうすると、防災工事として認めるということであるわけですが、森林法によりますと、開発行為の中で知事の許可を受ける必要のないものということで、確かに防災工事は認められております。森林法第10条の2の2号、「火災、風水害その他の非常災害のために必要な応急措置として行なう場合」とあるわけですが、あくまで応急措置であって、現状はその域を出ていると思うが、いかがでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 防災工事で実施をしたということだけれども、その域を超えているのではないかと御質問でございますけれども、どこまでの工事が防災工事であって、それを超えている、超えていないという判断というのは、大変これは難しいわけでございます。市のサイドといたしましては、あくまでも防災工事ということで、これは民間同士のお話し合い、約束の中で施工されたことでありますので、地権者の方がそこまでのものを要求したとすれば、やはり現状のものであっても防災工事の範疇であるというふうに認識をいたしております。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） 私は、防災工事の範疇にあるかないかという判断は一概に言えないということは、それは理解はできますが、ただし現状を見た場合、森林法でも言っているように、応急措置ということを言っておる。応急措置ということは、世間一般で考えれば、形状はさほど変更はないというような形が応急措置であろうかと思います。それは判断がなかなか難しいということで、譲るといたしまして、この防災協定による開発行為が認められますと、これが前例になるおそれがあるわけですが、前例とすることを認めますか、それともこれはあくまでこれのみだということでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 当時の判断として防災工事というような判断をしたわけでございますけれども、社会情勢等も変化をしまっているわけでございますので、当然そういう価値観のものも変わってくるわけでございます。これを前例とする、前例としないということではございませんで、そのときの情勢に合わせて弾力的に対応してまいりたい、このように考えております。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） そうすると、ケース・バイ・ケースだということになりますが、そういうふうになりますと、先ほど私が質問した中で、市のいわば残土条例というもの、もしくはその上位法によって開発行為をする、あるいは埋め立て、盛り土の行為をするという以外にケース・バイ・ケースがあり得るということになりますが、どうでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） ケース・バイ・ケースということではございませんで、平成4年のときの防災工事を前例とするかという御質問でございましたんで、当時はそういう社会情勢の中、いわゆる背景の中でそういう判断が示されたということでございますんで、今後につきましては、やはりそういう社会情勢——当然これは変動していくわけでございますが、その時期に

合わせて適切な対応をしていく、こういう意味でございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） それでは、前例をつくらないというお答えに解釈いたします。

であるならば、あれは仕方がないことだったということで考えるわけですが、そういったことは余り許認可に対してはふさわしくないような表現じゃないかと思います。ですので、市の残土条例もしくは他の法令には違反しておったがということで解釈してよろしいでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 他の法令に違反していたかどうかという御質問でございますが、これは恐らく森林法等の手续をお示しのことだと思います。結果として、県の方が緑化を含める植林等の指導をしたということでございますので、そういう事実があったというふうに認識をいたしております。

◎議長（山中金治郎君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） そうしますと、この要綱に違反していた、それで植林等をするように——確かに去年からやっておるようですので、それはわかりますが、市としては審査の段階で県に進達の義務を怠ったということを書いてよろしいでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 森林法の許可ないしは同意の手续につきましては、事業者から県の方に申請が出されるわけでございます。それにつきまして、県の方から市の方に、こういう申請が出たことについて、何らかの影響なりがあるかどうか、そういう意見を求めているわけでございます。それによりまして、市が意見書を提出するということでございます。今回のこの件につきましては、県の方からそういう意見書の照会は受けておらない。要するに、県の方にそういう申請が出されていたかどうか。結論を申しますと、市の方にはそういう意見書の照会はなかった、こういうことでございます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） 大体今回の質問で様子が——第三者的にわかったかどうかはちょっと私も——私の質問が下手なのが原因でわからない場合もありますが、大体のことはつかめたと思いますが、そうしますと、一応市の方はいろんな状況下において適正ではなかったということを県から指摘されたのは事実でしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） いわゆる森林法等にかかわる市の対応について、不適切であっ



たという指摘をされたんじゃないかという御質問でございますが、これは5月にこの件につきまして、県の方に当時の状況ないしは経緯について説明をしてほしい、話をしてほしいという要請があって出県しているわけでございますが、その後、6月5日付の千葉県農林部長名の文書で、残土埋め立て等にかかわる林地開発行為の処理の適正化についてという文書はいただいているわけでございますが、これは県下80市町村すべてに通知をされたということでございまして、主な内容で申し上げますと、そういう手続がされないでいろいろ事業がされている。そのことについて、市町村において林地開発制度の啓蒙普及、それから市町村等を含めて関係機関相互の連携による情報の交換と事業者等への指導、それから違反行為の早期発見と適切な対応に特段の御協力をお願いしたい、いわゆる協力依頼の文書はいただいております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） 私が次に聞こうと思ったことを今言っていたんですが、特段の協力ということは確かにそうかもしれませんが、この発端となったのは、やっぱりこの館山市が発端じゃなかったかと思うんです。ですから、適正化についての通知があったということを心にとめて今後の行政に当たっていただきたいと考えるわけであります。

この文書はだれあてに――市長あてでしょうか、それとも部長あてでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 市長あてでございます。

◎議長（山中金治郎君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） そうしますと、あとは植林をして復旧工事をするということで指導されている。それに対しての今後の市の方の監督、その点はどう考えておりますか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 市の残土条例で許可いたしました部分と、それからいわゆる残土条例施行前の部分につきましては、市の方でそういう指導といいますか、実行していただくようにかかわってまいりたい、このように考えております。

ただ、森林法に係るいわゆる防災工事的な部分についてでございますが、森林法でのそういう指導がなされておるわけでございます。そうしますと、これは県の方が主体になって指導することになるわけでございますが、市といたしましても、連担している部分もございますので、市の方もそれなりの立場でかかわってまいりたい、このように考えております。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） じゃ、この1の問題は終わります。

次に、ダイオキシンのことなんですが、先ほどの御答弁の中にごみの減量化ということでありましたが、事実、多くなければ発生も少ないでしょうが、問題は塩化ビニール系のごみが多くなっているということで、家庭のごみの中でラップ類とかビニールの関係のものというのがかなりある。それなどの分別ということも必要ではないかと考えております。

それから、小型の焼却炉についてですが、千葉県も野田市あたりでは、学校の焼却炉は使わないようにしたとかということを聞いております。埼玉県あたりもそういう自治体があります。そういう学校 — 特に学校関係の焼却炉についての指導等、そういうこと。

それとあと、それらの灰の始末ですが、今度の最終処分場のかさ上げ工事等を含めまして、神余地区の人たちとの交渉の状況等を御説明願いたいと思います。

ですから、ごみの中のポリ塩化ビニール系統のものの分別と、あと学校関係の焼却炉、それからかさ上げ工事、この3つをお願いしたいと思います。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 御指摘のありましたとおりに、ダイオキシンの発生する原因の一つといたしまして、塩素系ビニール、プラスチック類の焼却という部分が大きなかわりを持っているということはそのとおりでございます。ただ、現在のところ、このビニール、プラスチック類の分別につきましては実施をしておりません。これは、容器包装リサイクル法でもそうでございますが、プラスチック類のいわゆる収集して再利用するというシステムは平成12年度からということでございますので、現在のところ、これを分別収集いたしましても、それをいわゆる再利用というルートに乗せるということとはできないわけでございます。したがって、集めても、結果的には焼却するか埋め立てるかという、そういう部分しかないわけでございます。ストックするということもあるわけでございますが、ごみに含まれておりますその系統の割合でございますけれども、量で申し上げますと、約18%ぐらいあるわけでございます。そうしますと、年間約3,500立方メートルぐらいのものが出るわけでございますので、ストックをするということは物理的にも大変困難かな、このように考えているわけでございます。したがって、なるべく燃焼管理を十分に行って、ダイオキシンの発生を極力抑制をしていく、ないしはごみそのものの量を、焼却量そのものを減らしていくという形の中でダイオキシンの発生を抑制していきたい、このように考えております。

それから、学校の件については教育長さんの方から御答弁がありますが — 最後の処分場の地元との交渉の経緯でございますけれども、神余地区の皆さん方のおおむねの御了解をいただきまして、これから県の方への手続を進めていく準備をしているところでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 学校におきます小型焼却炉の使用状況についての御質問でございますけれども、現在市内小中学校及び各施設につきましては、分別回収を主体にいたしながら、この焼却炉での扱いにつきましては、完全燃焼を図るよう指導しておるところでございます。今後さらに小型焼却炉の指導に当たりましては、完全燃焼に十分に配慮をいたしまして、関係する部署等の御指導を仰ぎながら、今後とも使用に当たっていきたいと思います。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） じゃ、これで終わります。

◎議長（山中金治郎君） 以上で3番議員三上英男さんの質問を終わります。

次に、20番議員神田守隆さん。御登壇願います。

（20番議員神田守隆君登壇）

◎20番（神田守隆君） 既に通告をいたしました5点について質問いたします。

まず第1点は、介護保険法と24時間ホームヘルプサービスの問題についてであります。昔は高齢の方が長く寝つくということは余りありませんでしたが、現在は1年以上寝ついて亡くなったという方は約3割、2年以上という方も2割あると言われます。同時に家族のあり方も変わり、核家族化が進むなど、家族の介護力も低下しております。介護の問題は、これまでの最期をみとるという短期の介護ということから、相当の長期間の介護ということが普通のことになってまいりました。最期をみとる短期の介護から生活、自立を支える長期の介護、そのための社会的な体制をどうつくるのかということが大きな課題となってきたのであります。

5月22日に介護保険法が衆議院を通過し、参議院に送付されました。しかし、残念ながら、この介護保険法は重大な問題点を持つものであります。私ども日本共産党は、国民が必要なときにだれでもが安心して必要な介護が受けられる充実した介護制度の確立が必要であると考えているところでありますが、この介護保険法は、こうした国民の願いとはかけ離れたものとなっているのであります。

その最大の問題点は、国が介護の基盤整備に当然果たすべき責務について果たそうとしていないことであります。介護を必要とする高齢者の4割しか給付を希望しないという前提にして整備計画がつけられているわけであります。このままでは、百数十万の要介護者がサービスを受けられないことが考えられます。

例えば、館山市老人保健福祉計画では、1999年の目標年において、ホームヘルプサービスの対象となる在宅介護サービスが必要になる在宅の寝たきり老人、ランクB 143人、同じくランクC 72人、要介護の痴呆老人 103人、虚弱老人 301人が見込まれるとし、寝たきり老人、要介護痴呆老人には週3回の派遣、虚弱老人については週1回の派遣を前提にホームヘルプサービスの目標

量を算出しておりますが、その目標はサービス必要量の4割相当とし、そこから必要なヘルパーの数を算出しています。家族介護を中心に据え、これに過大な期待をし、必要量の4割しか希望がないという前提に立っているのです。

介護保険が導入されますと、保険料を給料や年金から天引きされることとなりますが、それでも実際に介護の必要のある方々の4割程度しか介護希望がないということがあり得るではありませんか。むしろ、これまで家族の献身的な介護などによって顕在化してこなかった介護希望が介護保険導入を機に一気に顕在化してくるのではないのでしょうか。そのときにそれに対応できるだけの十分な体制がなければ、保険はあっても介護なしと言われるような深刻な事態が懸念されるのであります。

ホームヘルパー増員や各施設の整備など、介護の基盤整備について国の責任を明確にし、年次計画をはっきりとさせなければなりません。それとともに、実際に介護を行う保険者となる市は、介護の基盤整備を一刻も早く急がなければなりません。

そこでお尋ねをいたします。介護保険法の実施によっては、家族介護に依存していた潜在的な介護需要が顕在化し、急増すると思われるのでありますが、この介護需要の増大量の規模についてどのような認識を持っておりますか。サービスの目標水準をそのままにしたとしても、潜在的な介護需要が顕在化するだけで、ホームヘルパーの必要量は老人保健福祉計画の54人の少なくとも2倍以上になると思うのであります。また、介護の内容が週3回、6時間程度を前提にしたものから毎日の派遣ということになれば、さらにふえることになります。現行のホームヘルパーの目標値54人の数倍の規模になるのではないかと思うのでありますが、この点についてどのような認識でおりますか。

次に、ホームヘルパーには家事援助を中心とする3級のヘルパーと介護を中心に担う2級のヘルパーとがあるわけですが、介護保険導入で必要となるのは特に2級の介護ヘルパーであります。食事や排せつ等の介護を必要とする在宅の高齢者は、館山市老人保健福祉計画でも寝たきり老人で215人、痴呆老人で103人が見込まれるわけであります。館山市のホームヘルパーの現状は、介護を担う2級のヘルパーは何人おりますか。また、この2級のヘルパーの養成を急ぐ必要があると思うのでありますが、どのようにお考えでありますか。

次に、現在館山市は、ヘルパーの派遣について、土曜、日曜など休日も派遣をしているわけですが、介護の必要な方から見れば、中途半端な制度であります。県内でも既に24時間巡回型のホームヘルプサービスに取り組んでいる市もございます。館山市老人保健福祉計画では、既に平成5年時点で在宅の寝たきり老人は165人もおりました。そのうち60人は、ベッドから起き上がることもできない、食事、排せつなどの介護が必要とされるランクCであります。これらの介護は家族の大変な負担のもとで行われているのであります。こうした家族の負担の軽減を図る

ために、ホームヘルパーの派遣事業について、家事援助型中心ではなく、介護型の巡回24時間ヘルプサービスが必要かと思うのでありますが、この実施について検討をすべきだと思うのでありますが、いかがお考えでありますか。

次に、大きな第2点、乳幼児医療費助成制度の周知と手続の簡素化についてお伺いたします。館山市の乳幼児医療無料制度は、1973年に実施されて以来、既に24年の歴史があります。この制度は、全国的にも最も早い時期に制定された館山市として誇れるべき福祉制度でございます。

さて、この制度を市民が利用する上で、国保加入者の場合とそれ以外の場合とでは手続が大きく異なります。国保加入者の場合は、医療費の助成が受けられる場合は、その旨の通知が市から送られてくるわけでありまして。この通知書を市に持っていけば、助成が受けられるわけでありまして。これは、国保加入者の場合は、医療機関から市の国保に医療費の請求が来るので、この中から乳幼児医療助成の対象者と助成額を特定できるからであります。これに対して健康保険組合などの場合は、乳幼児が医療機関にかかって、医療費がたてかかったとしても、その事実は保護者から館山市に申請がなければわかりません。このため、国保以外の加入者の場合は、保護者が領収書を添えて市に申請するという手続が必要になるわけでありまして。保護者がこの制度の存在を知らなければ、それまでということになります。国保の方には市から通知が行くので、本来もらえる助成金をもらい忘れるということはないと思いますが、国保以外の方では、制度そのものを知らなかったり、また面倒がったりで、もらい忘れるというケースはかなりあるのではないかと思います。

そこでお尋ねをいたします。館山市の乳幼児医療費助成対象は小学校入学前までの就学前であります。この対象となる乳幼児の加入している医療保険は、国民健康保険、国保が2割ないし3割、それ以外が7割ないし8割だと思うのでありますが、助成対象となる乳幼児の国保とそれ以外の健康保険組合等の割合がどうなっているのか、お示しをいただきたいと思います。

次に、館山市の助成額とその件数において、国保と、またそれ以外の健康保険組合等の割合はどのようになっているのか、あわせてお示しいただきたいと思います。

次に、この制度は、常に市としても宣伝をしていかないと、なかなか周知するものではないと思います。対象となる方はどんどん変わっていくわけでありまして、それは当然のことだと思います。そこで、病院等の窓口には市の乳幼児医療助成制度のポスターを掲出し、制度解説のパンフレットを置かせてもらい、周知を図ることはできないでしょうか。また、助成を受けるためには申請書が必要になりますが、この申請書を市役所に取りに来て、これを病院に提出して書いてもらい、またそれを市役所に持ってくるというように、2度も市役所に足を運ばなければならないなど、手続も煩雑であります。申請書を病院の窓口にお置かせいただければ、市役所に来るのも申請のときだけで済むことになります。病院の窓口にお置かせてもらうということ

はできないでありましょうか。いかがでしょうか。

次に、大きな第3点、水道メーター談合問題についてであります。公正取引委員会は、東京都発注の水道メーター談合事件を摘発いたしました。東京高検は、愛知時計、金門製作所など、メーカー25社と34人を独占禁止法違反で起訴いたしました。水道メーター談合は、日本の水道メーターの主要なメーカーがすべて関与しておりました。こうした談合は、水道という公共事業を不当なもうけの食い物にしてきたもので、許されません。館山市の水道メーター納入業者は、金門、愛知など、東京都水道局の談合事件で起訴された業者と思われますが、館山市への納入価格について、他と比べて問題はないのかどうか、どうお考えになっているのか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、第4点、館山駅を高齢者等の利用しやすい駅にする問題についてであります。館山駅の橋上駅舎化の計画が進められておりますが、この計画では、高齢者や身障者にも利用しやすい駅舎にするためにエレベーターを設置するとされています。平成6年に高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築促進に関する法律が制定され、駅舎はこの法の対象となる特定建築物で、この法律に基づき千葉県条例も制定されました。これらの法や条例では、高齢者や身体障害者等がこれら建築物を円滑に利用できるようにするため、出入り口や廊下、階段、エレベーター、便所等について、設計上の基準が具体的に定められました。計画に当たっては、これらの設計、技術基準を完全にクリアすることは当然の前提でなければなりません。高齢者、障害者の円滑な利用に係る設計、技術基準についてどのように考えているのか、お聞かせをいただきたいと思います。

次に、第5点、那古閼伽井下排水路の整備の問題についてお伺いをいたします。昨年9月22日の台風は、大雨で各地に水害をもたらしましたが、那古閼伽井下排水路も、JR線路との交差部分を起点にして、那古大浜等に被害をもたらしました。閼伽井下排水路がJR線路との交差部分で水路の断面が狭くなっているため、ここがネックになって、上流部で溢水するのであります。このJR線路との交差部分の水路の拡幅改良について、既に平成8年度においてJRとの計画協議と基本設計が終わり、これから施工についての協議など詳細設計の段階で、順次整備を進めていくというのが3月市議会での御答弁でありました。JR線下の排水路整備について急ぐべきだと思うのでありますが、どこまで検討が進んだのか、今年度中は詳細設計を行うのかどうか、お聞かせをいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、介護保険法に関します第1点目、介護需要量の規模についての御質問でございますが、介護保険制度の導入によりまして、介護需要は増加すると予測されております。現在国は、介護支援業務に民間事業者が参入できるよう、規制緩和を推進しておりますので、事業の民間委託を含めまして今後検討してまいりたいと考えております。

第2点目の2級ヘルパーについての御質問でございますが、館山市には現在2級ヘルパーはおりませんが、介護ができる1級ヘルパーが3名おります。2級ヘルパーの養成につきましては、千葉県社会福祉協議会と、安房地域では鴨川市にごさいます医療法人が県の委託を受けて実施しておりますので、これらを利用して養成してまいりたいと考えております。

第3点目の24時間ヘルプサービスの実施についての御質問でございますが、民間委託も含めまして今後検討してまいりたいと考えております。

次に、大きな第2、乳幼児医療費助成制度についての1点目でございます。助成対象となります乳幼児の保険者別の割合についての御質問でございますが、国保加入者と社保その他の加入者の割合はほぼ1対3でございます。

第2点目の助成額とその件数の割合についての御質問でございますが、平成8年度助成額につきましては、国保は936万6,000円、41.9%、社保その他は1,300万3,000円で、58.1%となっております。件数につきましては、国保は5,280件、49%、社保その他は5,493件で、51%となっております。

第3点目、制度の周知についての御質問でございますが、制度が施行されて以来25年を経過しております。その間、館山市広報によります継続的な制度の説明、ファミリーノート、いわゆる市民便利帳の全戸配布、あるいは新規転入者についての交付等によりまして、ほぼ周知されていると認識しております。その他につきましては、御意見として伺っておきます。

次に、大きな第3、水道メーターの購入価格についての御質問でございますが、安房郡市内の水道事業体における使用メーターは口径13ミリメートルがほとんどでございます。その昨年度の購入単価は、最高で4,100円、最低で3,780円、平均単価は4,033円となっておりまして、館山市水道での購入単価は4,000円でございます。

次に、大きな第4、館山駅橋上駅舎等の建築についての御質問でございますが、現在詳細設計を実施中でございますが、国の高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律、いわゆるハートビル法及び千葉県の千葉県福祉のまちづくり条例、この趣旨を尊重し、高齢者等が利用しやすい施設整備を行ってまいりたいと考えております。

大きな第5、那古閼伽井下排水路の整備についての御質問でございますが、平成8年度に基本設計を実施したところでございます。JRの横断部につきましては、今後詳細設計を実施し、JRとの施工協議等を進めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 介護の問題についてお伺いいたしますけれども、現在館山市のホームヘルパーの中では、1級の方が3名、2級はいない、あとの方は皆3級のヘルパーだ、こういうことで、そうすると、実際には介護を担うというのはこの1級の方の3人ということで、全く心もとない状況だ。しかも、先ほど市長の御答弁では、介護需要は増加するという御答弁でありましたけれども、この増加の内容や規模という問題で、いわゆる館山市のホームヘルパーの体制は、現在22ですか、23ですか、そのほとんどは基本的には家事援助型の3級のヘルパーを中心にして、いるわけです。ところが、介護保険で介護が今後必要になるよということで考えると、これは全く対応できないんじゃないか——全くと言うと言葉がちょっとあれですけども、ほとんど対応ができないことになるんじゃないかということで、実際に非常に心もとない状況だ、こういうふうに思うんですけども、その辺はどういうふうにお考えになっておりますか。

◎議長（山中金治郎君） 市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 現在、ホームヘルパーは19名配置体制で行っております。先ほど市長が答弁したとおり、1級は3名、そのほかは3級でございますけれども、今年度予定として、3級の中から2級の研修をするということで予定をしております。今後徐々に——一気に研修という体制はできませんけれども、年次的に研修の体制をとっていきたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） 介護需要が今後増加するだろうということは一般的には言われるんですけども、実際にどれくらい増加するのかという問題を規模ということで考えなきゃならぬと思うんです。館山市は、老人保健福祉計画の中で、54人のホームヘルパーが今後必要になりますよというのを平成5年の計画の中で決めたわけです。この計画は、実際には介護が必要になるよという方の約4割の希望があるという前提に立っているんじゃないでしょうか。いかがですか。

◎議長（山中金治郎君） 市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 現在国会で審議中であります介護保険制度、これが導入されますと、ガイドラインが示される予定になっております。それに基づきまして、市民の要望はどうかんだという実態の調査をもとにこの計画を策定するという予定になっております。そういったことから、その段階で果たしてどの程度需要があるか、その実態を見きわめた上で今後の増員計画を図ってまいりたいというふうに考えております。

◎議長（山中金治郎君） 20番神田さん。



◎20番（神田守隆君）　そういうことを聞いているんじゃないくて、実際に介護が必要だというふうに算定した数の4割しか手当てしていないでしょう、この54人という目標は。そのことを聞いているんです。

◎議長（山中金治郎君）　市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君）　現在の館山市のホームヘルパー派遣の体制を申し上げますと、市民からの需要、要望にこたえるために、現在の配置、19名体制で行っております。現在は昼間の時間帯の派遣でございますけれども、現在のその体制の中では需要にこたえられているというふうに理解をしているところでございます。24時間ヘルパー派遣体制導入ということになりますと、それが果たしてどの程度――市民の具体的な要望、それにこたえるためのヘルパーの増員体制、それを総合的に検討してまいりたいというふうに考えております。

◎議長（山中金治郎君）　神田さん。

◎20番（神田守隆君）　そんなことを聞いているんじゃないんです。だから40%でしょうと言っているんです。というのは、老人保健福祉計画をつくったときには、基本的な考え方としては家族介護が中心なんです、はっきり言って。家族が大変な介護の中で苦労している、行政としてそれをどう援助できるかという視点でつくられたわけです。だから40%なんだろうと言っているんです。必要だと思われる介護量の40%相当はお手伝いが必要になりますよ、そういう認識のもとにつくられているんじゃないんですか。いかがですか。

◎議長（山中金治郎君）　市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君）　市として考えておりますのは、何%、何十%というとらえ方でなくて、市民の要望にこたえて派遣しているということです。まずこの事業の体制をとるためには、その実態を見きわめた上でその体制をとるんだという姿勢で行っておりますので、何%というとらえ方では考えておりません。

◎議長（山中金治郎君）　神田さん。

◎20番（神田守隆君）　そういうことを聞いているんじゃないんです。実際に必要があるかどうかという問題はまた別の問題であって、実際のこの老人保健福祉計画は、必要量がどれくらい出るか、何人ホームヘルパーが必要になるかという計算をしたんです。そのときに、どれくらいの介護の必要な方が出るのか。そうすると、それに週3回派遣をしますよということでやれば、どれくらいホームヘルパーが必要になるのか。しかし、実際には、その必要量、総量に対して40%相当が実際の希望としてつくって人数を出したということ、そのことを言っているんです。そのことは事実でしょうと言っているんです。いかがですか。

◎議長（山中金治郎君）　市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君）　今策定してございます老人保健福祉計画、これは国のガイドラ

インに基づいて算定をしたわけでございます。これを一つの参考としてとらえているわけでございます。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） 要するに、国の指導に沿ってつくったから4割なんです。当たり前の話を言っているんです。そんなくどくど、くどくど言う話じゃないんです。それは、介護保険法ができるということ——できていないです。まだ参議院がありますから、どうなるかわかりませんけれども、これができるということになりますと——従来の老人保健福祉計画のレベルでの考え方は、あくまでも6割は家族介護なんです。館山市の場合には、恐らく7割か8割ぐらいがまだ家族介護なんです。ほんのわずかなんです、まだ。でも、40%ぐらいになることを想定してつくってあるわけです。けれども、介護保険法ができて、介護が——この介護保険法の基本的な考え方は社会保険だということなんです。介護というのは社会保険としてやる。今の医療保険と同じです。だれでも介護を受けることは当たり前なんだという前提に立つんです。そうなれば、この介護需要というのは、少なくとも現在40%しか見ていないんだから、2倍以上にはなるでしょうということなんです。中にはうちは要りませんということも出てくるけれども、それは例外的なことになるんだ。話が逆さまになるということなんです。そういう意味で聞いているんです。だから、介護需要が一般的に何割ふえるとかというレベルの話じゃなくて、数倍の規模でふえることを考えなきゃならない重大事態だということを言っているんです。いかがですか。

◎議長（山中金治郎君） 市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 先ほど市長から答弁いたしましたとおり、この介護保険制度が導入されますと、恐らく増加するだろうということははっきり想定されるわけでございます。先ほど議員さんがおっしゃった、現在は家族介護で何とかやっているという、そういった状態の中でこの介護保険制度が導入されますと、そうではなくて、ホームヘルパーの制度の中で活用してもらいたいという状況が出てまいると思います。そういったことを、これから実態を調査した上で、しっかりした介護保険制度に基づく事業計画を策定してまいりたいということで御理解をいただきたいと思います。

◎議長（山中金治郎君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） この介護保険という問題は、非常にたくさん問題を持っていますから、まだどうなるかわかりませんが、しかし基本的な問題として大きなところは、介護が、家族介護を中心とした従来のあり方が変わるという点では、非常に大きな転換点になるという認識に立たなきゃいけないだろう。いずれにしても、それはそういうことになるだろう。そうすると、現在2級のヘルパーはいません、今年度3人養成しますとか、そういうレベルで考えていると——これから国のガイドラインがどうなるかという問題も当然あるんですけれども、相当の規模

を考えなきゃいけないし、むしろ国はこれを機に国庫負担をどんどん減らすという方向を出しているんです。とんでもない話なんです。国に対して、本当に今の数倍の規模で介護基盤を整備するための財政措置を要求するのが市の立場なんです。国から何かやってくれるというのではなくて、何考えているんだと。本当にこの介護保険の制度をやっていくためには——実際の現場に立たされるのは市町村なんですから、保険料は取られる、だけれども介護はできませんなんていって、その非難の矢面に立つのは市長です。そういうことになっちゃ困るわけです。だから、本当にこの法律をやるならば、国は従来の枠ではなくて、非常に大きな規模でこの問題についての財政措置がなければ実施は不可能じゃないですか、そういうことを言っているわけです。その点で、この規模の問題というのは相当重要な意味を持つんじゃないかと思っているわけです。市長さん、その辺いかがですか。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 強力な御支援ありがとうございました。

この介護保険の問題、これは今後のたくさんの課題を、しかも重要な課題を含むわけでございます。といいますのは、国がこれを行うんじゃなくて、御意見のとおりでございまして、実際に行うのは各市町村で、都道府県はこれを支援する、こういう形になっております。保険法の適用と同じ保険制度でございしますから、非常に大きな財政負担を伴ってまいります。特に今は、施設面は一応かなり——順調という言葉はどうか、進んでおりますけれども、人間の面におきまして全く手当てされておられませんし、これからマンパワーをどういうふうに充実させていくかというのは大問題です。そういう問題と、全国の地方自治体の財力の問題等々ございまして、私たち県下の市長会及び全国の市長会でそのような意見を——といいますのは、これに対して——保険制度でありますから、需要は増加する一方でございましょう。それに対して、マンパワーの面をどうするのか、財政的な面をどうするのか、十分考えてほしい。そういうものが実施されませんと、プログラムだけできて実態が伴わない、こういうことをお願いしているわけです。御意見ありがとうございました。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） まだ参議院での論議なんかもあって、どうも継続審議になるような動きでありますけれども、やはりこの法律には非常に大きな問題が市町村という立場から見てもたくさんある。

これは武蔵野市の市長さんですか、東京都武蔵野市の市長が全国の市長に介護保険について手紙を出したということで、読ませてもらいましたけれども、ここでは、市町村長は鬼になれというのかという——かなりきつい言い方ですけれども、この介護保険法を批判をした論陣を張っているわけです。確かに現場で介護が必要な方を——現実には介護が必要になっても、今のような体

制のもとでは実際に介護ができない。保険料は取られたけれども、介護はやってくれない。介護の体制がない。それをどんどん切っていく。おまえは介護必要ないということを — その矢面に市町村が立ってしまう。これは鬼になれということか、こういう話なんです。やっぱりそういうことになってはいけないわけです。本当に介護保険をやるには、それだけの基盤整備というものについてしっかりとつくっていくということで、市町村が声を大にしていくということが今求められていることだと思いますので、その辺を指摘しておきたいと思います。

同時に、いずれにいたしましても、館山市の現状は、巡回型のホームヘルプというような問題について、いわゆる介護を中心としたヘルプ事業、これが残念ながら非常に弱いということでありますから、この巡回型の24時間ホームヘルプ — これは始まったばかりの事業で、すぐに館山市でというわけにもなかなかいかないと思いますけれども、県内でも、佐倉市ですか、実施をしているというようなところも聞きますので、そういうところも参考にしながら、館山市でも一刻も早くそういうものをできるように検討いただきたいと思います。

次に、乳幼児医療の問題でありますけれども、先ほどの御答弁ですと、十分この制度は周知しているというようなお話でありました。確かにもう24年 — 25年ですか、非常に長い歴史と伝統を持っておりますので、そうなんですけれども、しかしどんどん保護者の年齢は — 6年たつと全く入れかわっちゃうわけですから、全く新しい人ということになっていきますから、常にこの制度の周知を図っていかないとなかなか難しいし、先ほどの御答弁の数字から見ますと、周知されていると言いながらも、どうかなというのが実態だと思います。国保と、それから国保以外の加入者の子供の数の割合は1対3だということでしたね。しかしながら、実際の件数で見ると、国保の方が5,280件ですか、そしてそれ以外が5,493件 — 数字がちょっと、聞き取るのであれだったわけなんですけれども、そういうふうに大体1対1、ちょっと社保の方が多いかなという程度でありますから、現実には、国保の場合にはまず漏れはない。社保の場合には、やっぱりこれはまだまだ — 加入者の数が1対3なんですから、3倍いるわけですから、件数で五分五分というのは、やはりまだまだ周知されていないと見るべきではないか。その辺、この数字についてどういうふうに思われますか。

◎議長（山中金治郎君） 市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） この3年ばかりさかのぼって助成の件数の推移を見てみますと、平成6年、7年度までは確かに国保の方が多かったわけです。そして、8年度へ入りまして、社保の方が多少上回ってきたという実態がございます。今議員さんの御指摘の、それでもなおかつ社保の方が少ないんじゃないかということでございますけれども、この少ない内容を分析したわけではございませんが、一つの理由として、社保等の保険の制度の中には家族療養付加金、この制度が実はあるわけです。この家族療養付加金によって、申請額は大した額にはならないという

実態が一つ理由としてあろうかと思います。そのほかの理由分析は別にしたわけではございませんけれども、それが一つの理由ではないかというふうに理解をしております。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） 確かに付加給付の問題等が考えられる。あるいは、家族の場合2割というようなことで、国保と自己負担分の比率が違ふとかいうような問題で考えられることだというふうには思うんですけれども、しかしそれにしても、1対3という全体の加入者の割合からすると、ちょっと大き過ぎるんでないかなというのが率直な感じで、周知を図っていくということと同時に、手続の面でも、一たん申請書を役所へ取りに来て、また病院に書いてもらって、そしてまた持ってくる。共働きで働いている若い御夫婦が役所に2回も来るといのは大変なわけです。実際には、共働きでなくて、専業主婦の場合だったら、そのことも大して問題ではないと思いますけれども、共働きも大変ふえているような現況の中で、手続的にも非常に厄介だというようなことから来ないとか、あるいはもちろん知らないということもあるかと思うんですが、そういう点では、病院の窓口申請書を置いてもらって、病院でそういうことができないかどうか。そうすれば、一々そのたびに来ることもないわけですし、さらにまた、できたら保険証のコピー等を含めて郵送で館山市が受け付けるというふうにすれば、市役所に来なくても申請自身ができるというような便宜が図れるんじゃないかなと。できる限りこういう制度が簡便に利用できるような方法を考えるべきじゃないかなと思うんですが、そういう点では病院等の協力をお願いというようなことがあっていいんじゃないかと思うんですけれども、いかがですか。

◎議長（山中金治郎君） 市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） この制度の大事なことは、周知徹底を図ることが基本にあるわけです。今まで広報等によりまして周知徹底を図ってまいりましたが、加えて病院の方にもひとつ御協力をお願いしたいということから、病院の方からも患者が来た場合にはこの制度があるということを伝えてほしいというお願いをしております。そういったことで、市の方の広報あるいは病院の方の対応によって周知の徹底が図られているものというふうに理解をしております。

手続の簡素化ということでございますけれども、どうしても――その制度があるということだけではなくて、用紙をもらいに来たときにその制度の内容あるいは申請書の記載事項等の細かい説明をする必要があるわけです。金品にかかわる問題ですので、そういった適正化を図るために、役所にどうしても用紙を取りに来てほしいというお願いをしているところでございます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） 役所に来てもらって制度の周知を図るというんですけれども、社保と国保と——国保の方については全くそういう手続はなくて、直接通知が来ますから、それだけで済むということで、それに準じて、社会保険の方もできる限り手続を簡便化していくという方向でぜひ検討をしていただきたいなと思うんです。現実には、市役所に来るといっても、1枚申請書を取りに来るんじゃないくて、10枚、20枚、申請書をまとめて持っていく方も多いというふうに聞いていますから、役所に置いておくだけではなくて、病院の窓口でということも私はそんなに——現実には病院の協力が得られればできるんじゃないかなと思いますけれども、市はなるべく制度の細かいことを承知してもらいたいとか、いろんなことがありますけれども、私が見ている限りではそんなに複雑な制度でもないですから、あと自分の口座振り込みの口座を記入するとか、今の若い人ならば、ちょっとした説明書をつけてあげれば十分やれるものであって、その辺の実情に沿って、簡便化ということを検討願いたいなと思います。

それから、次に水道メーターの談合問題に関してでありますけれども、館山市はこの水道メーターの談合問題で——公正取引委員会は、東京都の談合問題で、入札制度が非常に談合を生みやすくしていたということで、東京都に対して制度改善を求めたんです。一般競争入札ですか、そういうふうに制度改善をするということで、東京都は契約の方法について変更するということが報道されておりましたけれども、館山市の入札の制度というのはどういうふうになっているのか。また、こういう不明朗な、談合や何かが行われなような、できる限り透明性の高いものにしていくという点で問題はないのかどうか。いかがですか。

◎議長（山中金治郎君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木基博君） 館山市の契約方法についての御質問でございますが、今年度につきましては、5社の業者から見積もりを徴しまして、その最低価格者——口径別でございますが、その最低価格者との契約を行っておるところでございます。

なお、各自治体、事業体の様子を見ますと、安房で現在実施しておりますのは——3事業体はまだ今年度については契約をしておりません。5つの事業体が契約を既になしたところですが、そのすべてが見積もり合わせにより随契という形で行っております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） 見積もり合わせによる随契ということでありまして、5社ということですが、5社になったいきさつというのはいろいろあるんでしょうか。もっと多くの業者が参加できるような、そういうものにしていく必要はないのかどうか。その辺の透明性という点ではどうなのか。いかがですか。

◎議長（山中金治郎君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木基博君） 館山市に入札参加を申し出ておりますメーター業者は現在12社でございます。その中の過去の実績、また経営状況等を勘案した中で5社を選定したものでございまして、他の業者につきましては規模的に実績がない、そのように理解をした上で5社を選定したわけでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） 水道も料金値上げとか、こういう問題が出てきている中で、市民の目も、大変厳しくこういう問題についても見据えられている現況がございまして。したがって、なるべく透明性の高い水道事業ということで、今後検討していただきたいというふうに思います。

それから、駅の問題は、一言あれですけれども、駅はJRが全面に請け負って関連会社がやるというような、こういう形をとるわけです。ところが、国会でこれは問題になりましたけれども、JRに寄附という形で地方自治体が行うということが特例的に認められますよということで、東京都の立川駅のエレベーターでは――福祉のためということでエレベーターを設置するんです。その工事価格が一般の公共工事の施工単価の最高価格に比べて3倍なんです。これは国会で問題になったんです。こういうことで、JRが工事費を水増ししているんじゃないか、こういう問題が出てくるわけなんです。こうした地方自治体がJRにこういう委託をする場合の工事費について非常に問題があるんですが、そういう点について、どういうふうに市としてはチェックができるのか、できないのか。いかがですか。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） 橋上駅舎に当たりまして、今後の施工に当たってどうするかという御質問でございまして、現状ではJR関係の業者というようなことを伺っておりますが、その設計、施工に当たりましては、十分協議しながらチェックをしてまいりたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） 同じJRの問題ですけれども、関ヶ井下の排水路の問題について、平成8年度で基本設計をやりました。今後詳細設計を行いますよというのは、今後というのは、これは今年度でやる、こういうふうに理解してよろしいですか。

◎議長（山中金治郎君） 建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） 関ヶ井下の今後の工事の進め方でございまして、御指摘のように、JRとの施工協議、これにつきましては、現在基本設計に基づきまして計画の協議が終了したということでございまして、今後詳細設計をしていく中で施工協議に入っていかなければならぬ、

こういう考え方でございますが、時期は明確にできませんけれども、今後ということで御理解をいただきたいと思います。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） こういうものはやっぱり時期ものでありますから、基本設計が終わったら直ちに詳細設計をやって、どんどん進めていくというのが普通は考えられるわけです。ここでまた1年ないし2年ぼんと置きますよなんていうことはやっぱりやるべきことじゃないんじゃないか。住民の期待もそこにあるわけです。したがって、これは補正予算を含めて、今年度予算——当初予算に盛られていないんですけれども、補正で十分対応していくことを検討するということは言えないですか。

◎議長（山中金治郎君） 建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） 今後検討してまいりたい、このように思います。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 神田さん。

◎20番（神田守隆君） 今年度中に詳細設計、そしてJRとの協議という——施工協議ですね、これを進めて詳細設計という段階になって、できる限り早い時期にこの排水路の整備について解決をしていただきたいなというふうに思います。そういう点では、市長さんも予算——いろいろと工面が大変かと思いますが、よろしくお願いしたいと思います。

以上で終わります。

◎議長（山中金治郎君） 以上で20番議員神田守隆さんの質問を終わります。

次に、9番議員島田 保さん。御登壇願います。

（9番議員島田 保君登壇）

◎9番（島田 保君） 私は、さきに通告いたしました3点について御質問いたします。

まず第1点、農業問題について。基本構想策定後の市の農政の現況について伺います。農村は、食糧の生産だけでなく、国土、環境、資源、景観の保全、防災など、多くの多面的、公益的機能を持っております。産業の空洞化や高齢化社会の到来の中で、真に豊かな生活実現のために、このような機能が維持できるようにしなければなりません。物の豊かさに加え、心の豊かさを求める価値観の変化の中で、農村地域の農地や山林、そして水等、緑の環境資源として積極的に保全することが必要であります。

我が市でも、平成7年3月、館山市農業基本構想なるものが発表されまして、年収600万以上、年間労働1,800時間の一つの目安として、若い人材を育成し、後継者対策として認定農業者制度が設立されたわけではありますが、以前5名の認定農業者があるとお聞きしましたが、その後いか



がなものでございましょうか。将来に大いなる希望と、そして計画的な規模拡大、農地の利用集積に関し、市はどのような方針をお持ちなのか、お伺いをいたします。

農業を考える場合、集落を抜きにしては考えられないのであります。農村での兼業化や混住化の進む中で、世代間の意識の相違が非常に大きく変化して、従来からの農村社会を大きく変え、集落のいわゆる共同活動意識の低下が叫ばれているわけであります。兼業者や高齢者をも含めたいわゆる地域の合意を図り、幅広い地域の活動を活性化すべきときであると思います。移動不可能な土地とその地域の自然条件のもとで、一定程度占有して生産を行う産業でありますので、その中で集落との関係は度外視できないものであります。

農地の流動化には集落の力が大きく働いて、農地を担い手に預けようとしても、目に見えない大きな拘束力が働きます。実際にはなかなか実現できない場合もあります。次代に継げる魅力ある農業農村を創生するためにも、地域活性化のためにも、経営体として、水稻を中心とした集落単位の受託組合的共同体とか、あるいは現在あるような集落にある農家組合を機構改革しまして、館山市独自の農政を考えるべきではないかと考えます。可能なことでしょうか、お伺いをいたします。

現在、館山市農業協力員条例もございます。その大幅改正をして、いわゆる真の農業者の組織化をできないでしょうか、お伺いいたします。

前述のごとく、兼業者、高齢者を含めた集落の話し合い、合意と行政の適切な指導のもとに、補助金制度を含めたいわゆる一集落一農場制を現実に即した農業保全対策として、市当局のお考えをお伺いいたします。

次に、第2点、学校問題について。JRバスの減便による神余地区中学生の通学についてお尋ねをいたします。神余中学が館山二中へ統合され、はや17年。この間、社会情勢も大きく変わり、当時国鉄バスにより通学しておりましたが、10年前民営化に移行し、赤字路線の解消を標榜し、運転本数の大幅な削減により、地区住民は非常に不便な思いで生活しております。特に、二中通学の神余地区生徒及び保護者は大変な苦勞をしているのが現状であります。

たまたま去る4月に神余地区の一高校生から房日新聞に投書がありまして、苦しい胸中と実情、そして関係者への要望等の投書に私も深く感銘したところであります。私の質問は、この投書のとおりでございます。ここでその投書を読ませていただきます。これは、4月10日房日新聞掲載の投書でございます。

私の住んでいる館山市神余地区には数多くの問題がある。まず初めは、JRバスだ。神戸経由白浜行きや西岬方面は、普通30分に1本あるいは1時間に1本だが、豊房経由白浜行きは、1時間から3時間に1本と間隔もさまざまで、一本一本の間が長い。中学生は館山第二中学校へバスで通っている。不便きわまりない。特に、部活動がかかわってくる休日は、朝からの練習には間

に合わないので、直接先生に電話したりもした。帰るときにもバスの時間がなく、3時間どうしようかと思い、約9キロある道のりを途中まで歩いて帰ったときもあった。市から遠距離通学者は補助金をもらっている。定期券を買うためだろうが、使う機会が極端に少ない。豊房地区や西岬地区の自転車通学の人もらっている。結局、自分が4万5,000円を出して、そのままむだなお金がJRへ流れていく。バス代が高い上に、使う機会が少なく、多くの家庭は毎日学校まで親が自家用車で送迎している。大変な苦労だと思う。昔は1日三十数往復だったが、今はたった8往復しかない。神余中学が館山二中に統合するときの条件の一つは、朝夕必ずNTT前のバス停を通ることだった。4年前のダイヤ改正までは、辛うじて朝1本汐留経由だったが、結局3カ月通った後、7月からすべて南町経由になった。その日から、神明神社前など、学校から1キロのところまで歩いていかななくてはならない。普通に歩いて10分。乗りおくれて2時間も待ったときがあった。大体、二中学区が広過ぎるのが問題なのだ。東は畑から西は西岬まで、北は館山から南は神余まで、館山市の全面積の半分为学区だ。こんな苦労をしてまで行くことは不公平だ。最近先生がすぐに異動になり、余りわかってくれない。教育委員会もこの現状を把握しているのだろうか。これなら房南中の方が明らかに近い。自転車で10分弱で行けるだろう。豊房地区に属して、豊房小が二中だからという理由だけらしい。もっと慎重に考えてほしい。高校に入って、1学期の間は仕方なくバスで通ったが、ついに我慢できなくなり、毎日山（峠）を越えて通うことにした。まあ30分弱、バスとほとんど同じ時間か、それより早く行ける。そこでまた問題に気がついた。それはダンプカー。西長田と神余の境に砂取り場があり、そのために毎日十数台とすれ違う。これが大変迷惑だ。もともと道が狭い上に、大きな車が何台も続けて来て、とても危険。さらに、排気ガスを出し、勢いよく走ってくるので、強い風が悪臭となって吹きつけてくる。ハンカチで口と鼻を覆って通っている。これは自然破壊、環境汚染、立派な公害だ。もし今県や市に条例がないのなら、即条例を定めるべきだ。豊房の観光イチゴ狩り農園の前をあんな車が勢いよく走ってくるのはイメージダウンにもつながりかねない。市もこの現状をどう思っているのか。県よりも、まず今は市議会議員を全員選り直すべきだ。今のままでは何も変わらない。開発しているわけでもなく、ただ環境が悪くなるだけの不便な田舎でしかなくなってしまっている。早く改善されることを心から願っている。館山市神余、高二、16歳の方の投書でございます。

以上のとおり、神余地区中学生は、バスで通う人、親が送迎する人、自転車で通う人、それぞれ大変な苦労をしているのが実情であります。教育委員会はこの事実をどう受けとめるか、いかが対応策をお考えなのか、お伺いをいたします。

次に、第2点といたしまして、二中学区、房南中学区の再編見直しについてお聞きいたします。距離的に二中神余小間が9キロ、房南神余間が4.5キロ、佐野より峠越え農道では3キロで神余地区に入ります。近距離であり、館山南部地区の農村地帯で、自然環境が似通っているところで

あります。地域の交流も盛んな地区ではありますが、心身ともに伸び盛りの中学生が勉強に、部活に思い切り活動できることが望ましいと考えます。教育委員会の御見解を賜りたいと思います。ぜひ学区の見直しをお考えいただきたいと思います。

最後に、第3点、館山市複合リゾートカントリー整備計画についてお伺いいたします。この問題につきましては、各議員よりたびたび質問なされておりまして、重複することも多々あると思いますが、一昨年に引き続き再度質問させていただきます。

温暖な気候と恵まれた自然環境を生かした本計画の実現は、多くの市民が最も期待をしている一大事業であります。物を持つことから行うこと、そして感じること、楽しむことは、余暇ニーズの——自然との触れ合いの中で、最も健康的な現代感覚にマッチした大施設でございます。リゾート調査開始から9年たちました。計画も大分手直しされたようでございますけれども、館山市複合リゾートカントリー整備計画は民間業者あるいは県との三セクになるような感じもいたしますが、その概要についてお知らせを願いたいと思います。

また、検討委員会、あるいは企業の誘導等の計画もたびたび口にされるわけでございますけれども、将来の展望も開け、あすへの期待ができるようなリゾート開発を私どもは期待をし、そして協力するわけでございます。これらの点について市長のお考えをお伺いいたします。

この計画が早期着工、早期開場できますことを要望いたしまして、御答弁によりまして再質問させていただきます。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの島田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の第1点目、農業基本構想策定後の館山市農政の現況についての御質問でございますが、平成7年3月に策定いたしました農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想、これでは、すぐれた地域農業の担い手といたしまして、認定農業者の育成を掲げております。6月現在の館山市内の認定農業者数は7名でございますが、今後も規模拡大や経営合理化等に意欲のある農業者との話し合いによりまして、認定農業者の増加に努めていく考え方でございます。

なお、水稲作につきましては、環境保全等の公益的機能維持や優良農地保全面での影響も大きく、農作業受委託事業等の展開によりまして対応してまいりたいと考えております。

また、農業経営体の育成のための制度資金や農地利用面での支援措置につきましても、関係機関とともに取り組んでいるところでございます。

第2点目の一集落一農場の発想によります市独自の農政はできないかとの御質問でございますが、兼業化の進行や農業従事者の高齢化など、農業構造の急激な変化への対応が全国的な課題となっていることは御案内のとおりでございます。しかしながら、集落あるいは生産団体等の自主

的な改善への取り組み方や考え方、さらに営農状況もそれぞれ異なることから、今後も関係機関、生産者組織等と検討してまいりたいと考えております。

また、水稲作につきましては、前述のとおり、地域に即した農作業受委託事業等の推進を図ってまいりたいと考えております。

次に、大きな第2の学校問題、神余中の問題につきましては、教育長より御答弁申し上げます。

第3点目の館山市複合リゾートカントリー整備計画につきましては、部長より御答弁申し上げます。

よろしくお願いします。

◎議長（山中金治郎君） 高橋教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） 大きな第2の第1点目、J Rバスの減便による神余地区中学生の通学についての御質問でございますが、J Rバスの便数、経路については、合理化、民営化により、利用者にとって不便な面が出ていることは認識しております。現在、学校と連絡をとりつつ、通学方法につきまして検討しているところでございます。

次に、第2点目、二中と房南中の通学区域についての御意見でございますが、今後の課題といたしたいと思います。

なお、教育改革の進展に伴い、現在、児童生徒の生活実態等により、個々の申請があれば、区域外就学もあり得ると考えております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 企画部長。

◎企画部長（寺嶋 清君） 大きな第3の館山市複合リゾートカントリー整備計画の早期着工についての御質問でございますが、このウェルネスリゾートパーク計画につきましては、企業の参画が重要なポイントでございます。本年度予算化をしておりますM A N G A共和国事業化推進検討委員会が間もなくスタートする運びになっております。この検討委員会の中で、事業化の実現に向けまして問題点、課題点の整理、分析を行いまして、あわせまして企業参画の誘導を図ってまいります。この計画の早期実現に向けまして努力をしてまいります。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開といたします。

午前11時47分 休憩

午後 1時01分 再開

◎議長（山中金治郎君） 午後の出席議員数24名、休憩前に引き続き会議を開きます。

9 番島田さん。

◎9番（島田 保君） 先ほどの質問につきまして市長答弁をいただきまして、おおむね市の行政がわかったような気がしますけれども、少し再質問させていただきます。

まず、農業問題につきまして、いわゆる農政の現況について。いわゆる市の基本構想、新農政に基づくところの基本構想に――館山市も認定農業者制度あるいは利用集積の問題が主な農政の主題であるようにとらえますけれども、その点につきまして、前回、一昨年9月の私の質問のときに5人の農業者と出たわけでございますけれども、ただいまの市長答弁の中で7人というような答弁がございました。7人ということになりますと、農政としては少し少ないんじゃないか、そんなふうな感じがするわけでございますけれども、まずその点について――今7人で、とりあえずどんな方向でふやしていくのか、あるいはこのまま自主的に待つのか、そのあたりのお答えをひとつお願いしたいと思います。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 認定農業者についての御質問でございますが、先ほどの市長答弁で、館山市内に7人の認定農業者がおるという答弁を差上げたわけですが、それについて、今後どういう形でそれをふやしていくかという御質問でございますけれども、この認定農業者の位置づけでございますけれども、みずから経営改善計画を立てまして、その達成が確実に見込まれる者で、農用地の効率的、総合的な利用を図っている者ということでございます。これには男女、それから兼業、非農家も、また規模にも関係なく認定は可能ということでございます。したがって、行政がどういう形で誘導していくかというのはなかなか難しい部分もございますけれども、そういう動機をお持ちいただくような何らかの行政のかかわりといいますか、その辺を検討しながら、増加につながるような方策をお示ししていきたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 島田さん。

◎9番（島田 保君） そうしますと、いわゆる兼業者を含めた――規模に関係なくと言いましても、当然やっぱり規模拡大、あるいは将来の経営目標、計画についても――考えていく場合には、当然規模もある程度問題になってこようかと思えます。

私が農業委員会で調べた統計によりますと、千葉県で1,597人の認定農業者がいるわけでございますけれども、そのときには館山市は、このデータに載っている限りは5人でございます。そして、その中に、いわゆる千葉県80市町村の中に――浦安市は農業委員会がございません。あと79市町村の統計といいますか、79市町村の中で7市町村が認定農業者ゼロ。それは、県北が3市、県北は鎌ヶ谷市と流山市と、そして松戸市と、3市が入っておりまして、あとの4町村は、実は安房郡の鋸南町、それから富山町、それから白浜町と、あと天津小湊町が認定農家が入っていないわけでございます。というのは、どうしても館山、安房の農業がいわゆる小規模集約農業、ハ

ウス利用の小規模の経営形態が多い関係から、なかなかこの認定農業者というのは出にくい情勢にある。いわゆる館山市の農業がこの認定農業者によって左右されるほどの集約はなかなかできないんじゃないかというふうな気がいたしますけれども、一応当面の目標として何人ぐらいを大体お考えでしょうか。少なくともこの基本構想は、ある程度の目安としては、5年を目安にした一つの政策ということを考えておりますけれども、いかがなものでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 認定農業者の目標ということでございますけれども、一応館山市では89人という目標を設定してございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 9番島田さん。

◎9番（島田 保君） そうしますと、なかなか厳しい状態であると思います。

ただ、全国的なデータからしますと、私どもが去年秋、北海道の秩父別町へ農業視察に参りまして、そのときにまづびっくりしたのが規模の違いでございます。館山市の平均耕作面積が61.7アール、秩父別町が1戸平均10.2ヘクタールでございます。既に平均耕作面積で10町歩をつくっている。そして、しかも基盤整備が完備された——500メートルごとに碁盤の目のように道路ができているあの秩父別町の農業を見たときに、これと房州の農業を一緒にすること自体がかなり難しいんじゃないかな、そんな気がします。

また、安房郡内の小さいところでは、白浜町が農地保有合理化法人という法人組織をつくりまして、現に土地を借りて、そして優良農家に貸し付けるような制度をやっているわけでございますけれども、この方もかなり経営は厳しいと聞いております。白浜町が平均15.4アールですか、この規模の小さいところで農政といっても、なかなか難しいところがあるかと思います。

私はそこで、関連してきますけれども、一集落一農場——一集落大体15ヘクタールから30ヘクタールぐらいで、これを一つの農場として考えた、いわゆる補助金を含めた新しい農政、私はこれがこれからの館山市の農業のあり方のような気もするわけでございます。いろいろ市も大変でございましょうけれども、しかし市の1,500ヘクタールの農地を保持するために、認定農家、中核的担手農家といって大規模の方だけを相手にしても、なかなかまとまらない。みんなの共同の力で未来のことを考えることも一つの手だてとして考えるわけでございます。

そのような観点から、89人という今のお答えでございまして、かなり厳しい問題。もっと集約的な問題を考えるわけにはいかないかどうか。ちょっと説明が不足かもわかりませんが、その点をちょっとお伺いしておきます。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 平成7年の3月に策定をいたしました農業の基本構想の中でも、

いわゆる農業の経営体という中で、専業、兼業を含めた農家が協力をして、地域全体で農業を行う地域農業経営体という——経営体の中の一つにこれは位置づけてあるわけでございまして、この構想の中でも、水稲作につきましては、今御質問の集落単位の、そういう農業経営体での農業経営というようなものもうたっているわけでございますが、先ほど市長も答弁申し上げましたように、それぞれの、個々の農家、それから例えば生産団体、それぞれ農業の取り組みとか営農状況等の差異がある中で、どれだけそのコンセンサスが得られるかということがまず大きな、基本的な問題ではないのかな、このように考えるわけでございます。ですから、全くそういう方向に行政として目を向けていないということではございませんで、例えばそういう方向づけがお示しいただけるような、そういう集落があれば、そのような方向で行政といたしましても一応協議をしてみたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 9番島田さん。

◎9番（島田 保君） 今年度もいわゆるJA安房がライスセンターを建設する予定になっております。7億5,457万という大きな資金で、その半額が国、県、及び市も大変な負担をして、ある程度営業をする以上は、それなりの米が集まらなければ経営が成り立たないわけでございまして、200町歩を目標にしてその計画ができていますので、いわゆる認定農家がどうの、あるいはその担い手農家がどうのといっても、館山市の場合には、ある程度転作には協力する、国の政策に協力しながら、その中でいわゆる地の利、そして館山市の特性の農業を生かすべきだと私は考えるわけで、その点につきまして、もっと集落的な——先ほども申し上げましたように、農業協力員条例だとか、あるいは資材交付だとか、農業関係は市にもかなりお世話になっているわけでございますけれども、この補助金といいましても、本当は半分以上は公共事業なんで——公共事業というのは、例えば農道を、農家組合の道をつくっても、道路はだれでも通れるわけでございまして、我々のために自分たちがつくった道が、いざ道がよくなれば、だれしも、大きな車も通る、あるいはまた、犬の散歩もジョギングも通る、そんなふうなことで、公共事業は本当は環境保全課も建設課も農水産課も、みんなに出してもらえば安い補助金でできるわけでございまして、この集落のいわゆる維持管理についてはかなり多面的なものもあるわけで、少し御検討いただきたいと思います。

また、この補助金制度につきましても、ある程度行政指導は、ある程度の経済的な支援は絶対に必要でございます。その支援があったときに、集落は協力もし、そしていわゆる農地の保全あるいは環境の美化に協力できると私は思うわけでございまして、これからそのあたりを十分お考えをいただきまして、ひとつ行政面に反映をさせていただきたいと思います。

どうもありがとうございました。一応おおむね了解しました。

続いて、学校問題に入らせていただきます。教育長、答弁ありがとうございました。

ただ、さっき申しましたように、この神余地区の子供は非常に困っている。神余地区の子供だけじゃありません。住民がみんな困っているわけでございます。住民の中にも、実を言うと、白浜町へ通勤している人も、困っている人もいました。また、病院へ行く人も困っています。それは館山市ばかりでなく、白浜町の病院へ行く人も何人かいるのも事実でございます。

まず、この統合当時からの情勢の変化にいわゆる地域の人が困っていることについて、教育委員会もある程度は最初から把握していましたか、いつごろからわかりましたか、その点ひとつお願いします。

◎議長（山中金治郎君） 教育長。

◎教育長（高橋博夫君） このお子様の読者の声というものを私も一読させていただきまして、子供の素直な意見として私も耳を傾けたものでございまして、種々調査いたしましたところ、統合のときには確かにＪＲとの間に島原通りにバスを通すというお約束はあったと聞いております。しかしながら、私がかつて校長をやったとき、昭和50年の後半から60年の初めにおきまして、一時やはりそのバスが閉鎖になってしまいまして、大変困ったことがございまして、地区住民の方と一緒にその復活化についてお願いをいたしまして、バスの時間変更のときに一部それを修正をしていただきまして、朝夕のバスが通過するようにお願いしたこともあったわけでございます。しかしながら、その後、ＪＲバスの合理化ということがございまして、その都度その本数が少なくなってきたことは承知しており、現在におきましては、館山へ行っている本数が――当初17本あった館山駅のバスが7本に減っているということもございまして、部活動のお子さんたちも困っているという現状はいろいろと――学校側と常に話し合いながら、ＪＲのバスにつきましてもお願いなどを行っているところでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 9番島田さん。

◎9番（島田 保君） 教育長もかなり認識しておられるようでございますけれども、現実には地域の子供たちが、住民が困っていることだけは事実でございます。

実はこの投書を見まして、私はただこの投書だけに感動したわけではございませんで、地域の方といろいろ話をしました。特に学校問題については直接二中の生徒のいる家庭をとということでもって、実は親戚の方にお願ひしたところが、じゃ何日に来てくださいというような話になったときに、その近所の方が――多分隣近所へ言ったかと思ひますけれども、去年まで中学へ行った父兄もぜひ話させてくれ、あるいは今小学校に行っているから、やっぱりそういう話を聞くから、話を聞きたいというふうなことでもって、いろんな方から集まっていたかしまして――別に私は無理を言ったわけではなくて、ただ子供と直接話をしたいというようなことでもって、できれば保



護者もお話ししたいというようなことでお願いしたところが、そんなような状況から、いわゆる中学生2人の親子と、あと元中学にいた人だとか、これから行く人だとか、そのほかに元神余小学校のPTAの会長をやった人も来てくださいました。そして場所は、余りに多くなったんで、部落懇談会みたいになったんで、部落の青年館をお借りすることになりまして、区長も来ていただきました。その中で簡単に話をしようと思ったところが、あれだけ集まるということは、これほど困って真剣なんだということだけは身にしみて感じたわけでございます。それはまさしく、今安房高に通っている生徒なんですけれども、彼が言うとおりでございす。

そのいわゆる不便というのは、親が送れる人はまだいい。しかし、それもN T Tまで行けばいいけれども、神明神社から歩くのは大変だから、朝からもう全部送っていく人もいる。あるいは、自転車で通っている人もたしか1人いると思います。また、あのとき初めて聞いたのが、実はどうしても親の関係で迎えに来られない人が、部活が終わって待ち切れなくて、神戸線がバスが多いということで、神戸線で帰ってきて、佐野駅でおりて、そこへ親が迎えに来たり、時には自分が歩いたりすることもありました。佐野駅というのは房南中の真ん前です。あそこからすぐ神余地区へは山道を通れば帰れるわけなんで — あの事実があることを初めて私は聞きました。

これほど真剣な問題に対して市はいかに考えるのかということ — 私自身もあそこで話したときに随分要望されましたし、これはひとつ真剣に考えていただきたい。先ほどの答弁では検討しますということでございますけれども、どのような — もう少し具体的なお答えをいただければ — どんなふうにお考えでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 早急の問題といたしまして、今お子さんたちが一番困っているというのが帰りの部活の時間の問題で、非常に合わなくて困っているということでございますので、二中側の方がJ Rバスとの問題として、時刻を少しずらしてもらえないだろうかという事で、現状はその部面で、部活の方の終了時刻と合わせながら、そのバスの方をお願いをしている。ただ、J Rバスの方は、島原通りの方を通すという方面についての路線についてはなかなか難しいというお話は伺っております。そして、その次の段階としてただいま検討をしているということでございますけれども、お子様方に対して不便のかからないように検討を現在進めているということで、逐次準備の段階に入っているというところでございます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 島田さん。

◎9番（島田 保君） 大体わかりました。多分そのような方向ならいいかなと思います。ただ問題は、地元の人が納得するような方法をとっていただきたい。それが第一でございます。

ただ、実は4年前のダイヤ改正のときに、先ほど申しましたように、白浜町へ通勤している人

が、あるスーパーでパートで働いている人が、朝は白浜行きがある。帰りのバスがないから何とかしてくれというようなことがありまして、私も実は南関東バスの営業所長のところへ話に行きました。そのときに、どうしても赤字路線の解消ということでもって出せませんと。しかし、館山白浜間全部、6本、夕方、神余回りでなくても、1本だけ神余を通していただけないか、そんなふうにお願いしました。そのときに宮坂所長は、どうしても赤字で、将来乗る当てのないものは出せません。しかし、もしそう言うんだったら、11人の客があれば出しますという返事をいただきました。そういうふうなことを考えたときに、今教育長が言うように、時間の変更——できれば増便すればなおいいけれども、そんなふうな方向で検討したら何とか話し合いの糸口がつかめるんじゃないのか、まずその辺をひとつお願いしておきたいと思います。必ずできるような気もいたしますので、よろしくお願いします。

またあわせて、いわゆる学区の問題にも少し触れさせていただきますけれども、何はともあれ、二中学区が広過ぎるというのが多くの人の考えだと思います。これは、房南中がすぐ近くにある、そして神余の方もかなりいろんな面で交流もあるし、知っている人があるのも事実でございます。先ほど申しましたように、二中まで9キロ、房南中まで、うちの方を遠回りしても、4.5キロで神余小学校まで来るという至近距離でございますので、この辺はいいと思いますし、またバスの問題じゃなくて、中学生は自転車通学が十分できると思います。これはもう実際に中学の女の子でも、房南中だったら自転車で行くと言っています。しかし、今のままでは館山までは通えませんということも言っていますので、その辺のこともよく加味していただきたいと思います。

先ほど来、教育長の答弁の中にも学区の——自由に行かれるようなことをちょっと答弁いただきましたけれども、そのあたりのことをもう少し詳しくお話し願いたいと思います。ちょっと納得といいますか、理解ができませんので。

◎議長（山中金治郎君） 教育長。

◎教育長（高橋博夫君） この学区外の申請の件でございますけれども、これの起こりました大きな原因といいますのは、昭和62年に東京都でもって自殺事件が起こりまして、いじめ問題が多発したために、子供さんたちの一時的な避難、または少し子供たちの環境を変更するというようなことで、子供たちが別のところに通うような方法も一つの——お子さんたちをやはり救うという意味で、文部省が全国にそれを流しまして、学区外の指定変更というようなものが出てきているのが正式なものになっているわけでございます。その後、昨年度の12月か11月だと思いますけれども、文部省の方の中教審等の教育改革とも合わせながら、さらに通学路並びに学校区のいわゆる自由選択的なことが出たわけでございますけれども、これについてはいろいろメリット、デメリットがある問題で、一概には言えないわけですが、大きく言いますというと、お子さん方の身体的な理由とか、または家庭的な問題とか、ただいま申し上げたいいじめ等による子

供たちの救済措置とか、そういうような事情によりまして、私ども現在は、保護者の方々からそのような申請が出ている場合には、審査、検討をいたしまして、学区外通学というものを — 期間にしますと1カ月、長くて半年、そしてさらにそれが解消できない場合には、さらに申請をもって協議をさせていただいて、そのお子さんたちに負担のないような、家庭に負担の起こらないような方法で現在は認可しているという状況でございます。

◎議長（山中金治郎君） 島田さん。

◎9番（島田 保君） じゃ、この学区外も、特別の場合には — 今のところは期限つきの、要するに一時的な措置で、いわゆる正式な学区の見直し等は全然できないわけで、ただ、たまたま今の話の中にいじめの問題が出てきましたときに — 私が聞いた本人は確かに、いじめはありませんと言うから、ないと思います。ただ、うわさでは、神余の子供は随分いじめをやられて困って、小さくなっているということも聞いておりますんで — これは多分ないと思いますけれども、ただ、うわさにもそういう話が出るということは — 考えてみますと、小さい僻地の子供が行ったときには、かなり不利な思いをすることはあるなという気がするわけでございますんで、その点は重々また御指導のほどをお願いしたいと思います。

また — ちょっとこれは通告してありませんけれども、学力の問題についても、では二中と一緒になったら、いわゆる適正規模の大きな学校になったら学力が上がるのかなということになったときに、今考えていることは — これはほんの大ざっぱな考えでございますけれども、やっぱり大きい学校の方が平均的な学力はいいんですか。これはちょっと通告していないですから、できなければ結構です。

◎議長（山中金治郎君） 教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 大変微妙な問題でございますけれども、確かに学力のとらえ方というものにはいろんなものがありまして、ただ結果主義的なものでとらえるような形でいくか、それとも人間的な成長の過程の中でとらえての学力的な感覚でその価値を見出していくかもありますけれども、確かに大勢のところで大きな刺激がたくさんあるところにおれば、子供たちの潜在化されているような問題につきましては、刺激を受けることによって、その反応も教科という形でもって発揮できるということは一つあるように思います。しかしながら、反面、ただいま恐れています — 刺激が余りに大きいために、集団の中に入った場合に、それを受け入れるための — 包容性といいますか、お子さん方の今までの体験からくるものによって、非常に反応が強く受けられまして、今のお話のような懸念される部分もあるかとは思いますが、それにつきましては、学校におきましては、3つ4つの学校が入ってきたにしろ、何ら差し支えないように、教職員全体でその配慮はしているところでございます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 島田さん。

◎9番（島田 保君） そういうことになりますと、二中はとにかくいいとしても、逆に今度は房南中の場合を考えたときに、実を言いますと、かなり競争力があつた方がいいんだということになったときに、房南中が — ただいまは、市長さんのお計らいをいただきまして、立派な学校ができまして、ほかに自信を持って言える立派な学校ができまして、本当にありがとうございました。ただ、この中学が、施設がよくても、問題は内容がよくなるために、これからの問題点として、生徒数の減少が出てくるわけでございます。私が調べたところによりますと、ただいま房南中は1学年58人、全部で158人かな。とりあえず50人、60人いればいい。その後を調べてみますと、神戸小学校、富崎小学校を合わせて、今の6年生が66人、これはいい。5年生が41人、何とか2学級、4年生が45人、これも2学級。問題は、今の小学3年生が神戸、富崎合わせて37人、それから2年生が38人、1年生が34人。そうすると、今の3年生は、現在の神余小学校の7人を入れて、これが44人になれば2学級になる。また、2年生にしても、神余が10人いるんで、48人になるから十分 — そんなふうなことを考えたときに、少しふえると2学級になる、このままでいくと1学級にすぐなっちゃうような感じがあるんで、そんなふうな問題を含めましても、やっぱり適正規模じゃなくても — 二中だけが多ければいいんじゃない。房南中も4つのうちの1つの学校なんだとしたら、そのあたりの御配慮もお願いしたいなと思います。

◎議長（山中金治郎君） 教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 館山市全体のこと、また地域のこと、お子様方の学力問題について、大変御高配いただきまして、ありがとうございます。どこの学校に行きましても、職員がそれぞれの地域のお子さん方の力を上げようということで努力しているところでございまして、AがよくてBが悪いということは館山市にとってはないわけございまして、それぞれが頑張っているのが現状でございます。

ただいまのように、御承知のとおり、児童生徒数は今後もますます減少化の傾向をたどっていくことは事実でございます。ただいまの御意見のようなことで、いろいろな面が出てくるということは確かにございます。一人の教師が受け持つ数が少なければそれがいいのかという問題と、ある程度の人間がいることによって、集団の力によって切磋琢磨することによって、さらに力を伸ばす可能性も出てくる。いろいろの利点もあるわけでございますけれども、そんなことにつきましても — 今の御意見は貴重な御意見として伺わせていただきますけれども、これは館山市全体にとりましても、安房郡下におきましても、それぞれがやはり — 小学校はこれからは1学級に大体なってしまうとか、または中学校もそういうところも出てくるというのが現状で、いろいろの面で、私どもといたしましても、今後の行政面におきましても多く考えていかなければならないというふうに考えております。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 島田さん。

◎9番（島田 保君） 今そのまた下の幼稚園の年長組が、神戸の幼稚園へ神余地区から4人來ているわけなのでございますが、その4人の子供が来年神余小学校の1年生になるわけです。神余小学校の入学予定者は4人で、その4人の人が全部神戸の幼稚園へ來ているのが現状でございます。また、事実神戸小学校の剣道会にも神余の子供が何人か練習に來ているわけでございます。このように、地理的にも非常に近い中でありまして、いわゆる親近感を持った、自然環境も社会環境も似通ったところでございますので、ひとつよろしく御配慮のほどをお願いしたいと思えます。

また、遠距離通学費交付規則によりますと、かなり市も負担をしているわけでございます。バス賃も、実際バスは3カ月で神余から4万6,020円、一月1万五千何百円かかるわけで、もちろんこの規則に従いまして市でかなり補助いただいているんで、その辺のことについてはさほど父兄は言いませんけれども、しかしそれも余り乗らずに、かなりむだにしている面があるということとは強調していました。人によっては、いわゆる回数券を買って通っている人もあるようでございます。

そのようなことから、地区の方々の、住民の本当に日常生活で困った問題でございますので、行政として、教育委員会として、ひとつぜひとも — この地域の方々も同じ館山市民である以上は、平等の権利でもって、楽しい生活ができるように御配慮のほどをお願いいたしまして、私の質問を終わります。ありがとうございました。

◎議長（山中金治郎君） 以上で9番議員島田 保さんの質問を終わります。

次に、13番議員脇田安保さん。御登壇願います。

（13番議員脇田安保君登壇）

◎13番（脇田安保君） 既に通告してございます7点にわたりまして御質問申し上げます。

第1点目の財政問題から質問いたします。地方自治体におきます地方交付税の算定、配分について、政府ではいろいろな角度から検討されているようですが、当市としてはどのような算定、配分が望ましいと考えているのかという質問であります。

先ごろ政府は、複雑で地方自治体の放漫財政につながりやすいと批判が強い地方交付税の算定、配分方式について、人口や面積などの客観的な基準に絞り込む方式の検討に入ったと報道がありました。

御承知のように、地方交付税は、自治体が必要とする事務や事業の経費から地方税収見込額を差し引いた不足額を国税収入の一部から補てんする制度であります。現実的に言えば、自治体が公共事業などのために発行する地方債や過疎債の償還金の一部を必要な財源として交付税で穴

埋めをしているのが現状であります。自治体によってばらつきのある地方税収入の格差をなくし、なるべく均等にしていこうというのが政府のねらいのようです。このため、人口や面積基準を算定の中心に置いて、算定方法の簡素化を図ろうとしているのです。

しかし、人口や面積など客観的な基準を優先させると、税収に比べて行政サービスの水準が低い大都会に配分がふえる一方で、規模の小さい自治体は切り下げられるおそれがあるのであります。この件に関しては、政府と自民、社民、さきがけ3党の財政構造改革会議で具体策を詰めていく方向のようですが、この交付税の算定は、当市にとっても大変財政的に影響をもたらすものであります。

したがって、当市としてはどのような算定方式に立つのが望ましいのか。ただ天下り式に政府の固まり方を待つのではなく、もう一步自治体の独自性を強く持って、この算定方式について、当市の意向を検討して取り組んでいかれたらいいかなものかと考えるのです。この点について、市長のお考えをお聞かせください。

財政問題の2点目です。バブル経済崩壊から増加の一途をたどっている滞納住民税対策についてであります。県では今年度から、出先機関の支庁と市町村で構成する徴収対策会議を設置し、徴収強化に乗り出すようであります。この対策会議を県内15カ所に設置し、80市町村すべてを網羅するということです。

私は、住民に課せられる税金は、低いほど住民生活が楽になりますが、しかしそれが住民の義務として払う適正な税額であれば、適正な方法で徴収されるのが望ましいというように考えております。

そこで、当市の収納状況はどのようになっていますか。また、平成2年12月議会で、固定資産税の課税明細書の送付はできないかとの質問に対して、前向きに検討とのことでしたが、今年度から課税明細書が配布されていますが、どのような問い合わせがあったのか、お聞かせをください。

財政の3点目ですが、平成8年度の決算状況と、剰余金はどの程度見込まれるとお考えですか。ここはひとつ具体的にお答えを賜りたいと考えます。以上が財政問題に関する質問です。

次に、第2点目の環境問題についてですが、私は平成8年度、全国市議会議長会主催の欧州行政視察で5カ国を訪問させていただきました。そして、これらの国々の環境状況を視察したのですが、大変参考になりました。

5カ国すべてに共通していることは、台風や地震がないため、古いれんがや石づくりの建物が多く残され、古風な町並みであり、また新しく建築するものでも、古きよき時代の建築様式を取り入れているのです。さらに、建物の高さ制限や、形、色彩、看板、ネオン類に至るまで数多くの規制がされて、大変厳しく管理されています。電線、電話線はすべて地中化されており、電柱

等は一本もなく、テレビのアンテナもすべて有線化されて屋根の上に立っていません。また、路上や店舗前にたばこや飲料水等の自動販売機も一切置かれていない。さらに、表現し尽くされていることではありますが、公園や緑が非常に多く、草花が家々の窓に飾られており、心和む風景であります。また、ごみの減量化やリサイクルに力点を置き、スーパー等では紙袋は有料となっており、自宅から買い物袋を持参しています。特に、私が関心を持っていました分別収集が徹底されており、町中のごみ箱も分別回収箱となっています。さらに、ごみ回収は有料化が定着しているため、国民もごみ減量に努力していることがうかがえました。

このように、各国の進んでいる環境状況を念頭に置きながら質問を進めてまいりたいと思います。

まず第1点目は、容器包装リサイクル法が4月から施行されまして、その分別収集の成果はどうかという質問であります。このリサイクル法は、缶、瓶、ペットボトル、紙パックなどのように、容器の素材性の違うものを分別していこうというのですが、この事業は言うまでもなく、業者と消費者と自治体とがまさしく官民一体となって努力していかなければ功を奏しない事業であります。そのために、自治体はこれを円滑に進めていくためによりリーダーシップをとり得ていなければならない。消費者に対しても、常に住民に対しても、事業の大切さを呼びかけていかなければならないのであります。市はよりリーダーシップをとり得ているかという観点から、分別収集の現在の成果はどのようになっているのか、お尋ねしたいと思います。

2点目は、ダイオキシン対策についてであります。御承知のように、ダイオキシンはプラスチックの焼却や紙の漂白、金属の精練などによって発生する有機塩素化合物であります。1日の摂取量の安全の目安としては、昨年厚生省は体重1キロ当たり10ピコグラムとし、環境庁は5ピコグラムとしています。また、排出されるダイオキシン濃度について、厚生省はことし1月、ごみ焼却炉の新設炉の場合は1立方メートル当たり0.1ナノグラム以下としています。

この焼却炉からのダイオキシンの発生については、1977年に研究報告があり、欧米先進国はすぐに実態調査に着手をしています。スウェーデンでは、1986年に法律で排出基準を0.1ナノグラムと決めています。また、世界保健機構、WHOでは、ダイオキシンに発がん性の可能性があるとしていましたが、ことしの2月には、可能性があるのではなく、さらに危険な発がん性があるというように断定しています。厚生省が0.1ナノグラムと決めたのは当然だと考えます。

現在稼働している焼却施設を0.1ナノグラムにするには新しい施設にしなければならず、そのための改善の工事には費用と期間がかかるというのを見越して基準を甘くしているのであって、本当は今稼働している施設もこの0.1ナノグラムでなければ危険であるということを厚生省の基準は示唆しているのです。これからつくる施設は0.1ナノグラム以下でなければならないという指導がそのことを指しているのであります。

そこで質問であります、当市の施設から排出されるダイオキシンの数値は絶対に安全であるというような考えになっているのか、質問します。

3点目も同じくダイオキシン問題であります、市の施設ばかりでなく、民間の事業者がそれぞれの設備で焼却している廃棄物からもダイオキシンは検出されていると思うのです。設備が整っている事業所もあれば、不完全な事業所もあるようではありますが、民間や学校のごみ焼却のダイオキシン対策については、当局はどのように事業者に指導をしているのかという点を質問いたします。

さらに、環境問題の小さな4点目の太陽エネルギーの活用についての質問です。ことし12月に京都で気候変動枠組み条約第3回締結国会議が開かれ、2000年以降の地球温暖化防止の指針がまとめられることになっています。この会議は、1992年の地球環境サミットで地球温暖化の原因となっている二酸化炭素の排出量を2000年までに1990年レベルに戻そうと決めた各国の合意、その進展を問われる場でもあるわけで、こうしたことから、政府は新エネルギーの普及促進や技術開発に積極的な取り組みを見せ、ことし4月に新エネルギー利用等の促進に関する特別措置法を制定しました。

一方、地方自治体の多くは、国の動きを受けて、新エネルギー導入促進策などを検討しています。静岡県富士宮市が国の補助に住宅用太陽光発電設置費用の約16%を上乗せする補助を平成7年度から始めています。今年度からは長野県飯田市で無利子融資がスタートしています。これは政府補助を受ける人が対象です。同じく今年度から山口県下関市でも低利融資を開始することを決めています。また、文部省と通産省が協力して、太陽光発電システム設置などによる自然環境と一体化した学校施設を整備していこうというエコスクール構想もスタートしました。今後各地に太陽光発電設備がふえていきそうです。学校施設では、京都府船井郡の八木中学校で体育館にアーチ型の太陽電池を設置したところであります。

さて、質問であります、学校や市営住宅などの公共施設での活用と低利融資について、市長はどのように考えますか。

次に、5点目の空き缶ポイ捨て禁止条例についてですが、私は去る平成3年の議会で次のように述べています。地域美化に関する条例についてであります、これは捨てられる空き缶をなくして、きれいな環境を保つことを目的とした条例を制定したらどうかという質問です。最近、海に、山に、公園に、また心なきドライバーが道路沿いにと、人の集まる場所、人の通ったところ、ありとあらゆる場所に空き瓶、空き缶が山積みされています。これは、せっかくの自然の美観を損ない、また子供に対する道徳上からも、もはや見逃すことのできない問題になってきていると言えます。また、農村地では、田畑に投げ捨てた空き瓶、缶が農作業に支障を来すケースもふえてきております。それをリサイクル運動で回収すればとうとい資源に変わるのであります。



す、というように私は平成3年6月議会で述べています。

ところで、空き缶ポイ捨て禁止条例についてですが、さきの3月議会で鈴木順子議員に対し、先行している市町村と歩調を合わせて、制定に向け協議、検討していくと答弁をしていましたが、富山町においては、町独自で6月議会でポイ捨て禁止条例を発足させると聞いています。

そこで質問であります、当市では条例の制定は何年度からの実施を考えているのか、お答えをいただきたいと思います。以上が環境問題の質問であります。

次に、第3点目の水道の浄水処理についてですが、これは原虫クリプトスポリジウムによる集団感染病の防止にかかわる質問であります。昨年6月に埼玉県入間郡越生町で発生した集団感染事件は、国内で初めて水道水が感染源であると特定されました。このときの被害は町のほぼ全域にわたり、人口の約6割の9,000人が集団感染しました。米国におきましては、4年前に40万人が感染し、400人を超す死者が出たのであります。これは米国の話であります、当市の身近にある鋸南町においてもこの原虫が発見されたのであります。

昨年10月に厚生省がクリプトスポリジウム暫定対策指針を策定したことに伴い、同町は4月21日に町浄水場で採取した水の検査を実施しました。その際、クリプトスポリジウムと疑わしい検体が発見されたため、5月に3原水で再検査をしたところ、保田川から再度疑い検体が確認されました。そこで、同水源の検査を専門家に依頼した結果、汚染されていることが判明したというものであります。こうなりますと、この問題は決して対岸の火事というように楽観視はできないのであります。

水道水を川などから採取したこの時点で混入を見逃すと、広い範囲に被害が出る危険性があります。この原虫はかたい殻で覆われていて、感染力はかなり強く、塩素やオゾンなどの消毒にも強い抵抗性があり、原虫を殺す薬剤は今のところないのであります。したがって、水道の供給段階で水質を守ることが大切です。厚生省は、浄水処理で濁度を水質基準の20分の1以下にするよう求めています。

ところで、水道施設に濁度計の設置と、原虫クリプトスポリジウムの検査はいつごろから行っているのか。また、原虫クリプトスポリジウムによる集団感染予防についてどのような認識をお持ちですか、お答えをいただきたいと思います。

次に、第4点目の市役所周辺の整備についてであります、市役所は駐車場が狭いとか、市役所周辺は車の混雑が激しいという声をよく耳にします。特に毎年、年度末になりますと混雑するのが官庁街であります。確定申告のシーズンのために役所の駐車場は満車で、したがって役所周辺の空き地にも車があふれます。そのため、役所の駐車場で接触事故が起きたという例もあるようです。市役所を住民が気軽に訪れ、親しみやすい場所にするために、まず役所周辺の整備を根本から見直す必要があると思います。

そこで質問であります、役所裏の市道整備は進んでいますか。また、役所内や周辺の事故防止と渋滞をあわせて御質問いたします。

次に、第5点目の国際オープンウォータースイムレースについての質問に移ります。海の日、7月20日に北条海岸で第1回館山国際オープンウォータースイムレースが開催されることになりました。私はかねてから、海を利用してこうした大会を開くよう当市に要望してきたものであります。今回このような形で実施されるようになったことにつきましては、大変喜ばしいことでもあります。

主催は館山国際オープンウォータースイムレース実行委員会、後援が館山市、館山市教育委員会、館山商工会議所となっています。協力団体は、館山商店連合会、館山商工会議所青年部、館山青年会議所、館山市旅館組合、館山市民宿組合、館山海浜商業組合、館山市体育協会、館山市水泳協会、安房泳法会、館山船形漁協組合、JR館山駅となっています。

ところで、後援団体にも協力団体にも館山市観光協会が入っていません。館山の観光面から見ても大いにプラスになるイベントに観光協会が入っていないということは、どのような事情でそうなったのかは知りませんが、歯が一本欠けている感じがするのであります。このイベントの後援者として館山市が旗を上げているのでありますから、やはり側面から実行委員会を支え、励まして、これが円滑に行われるよう導いていく役割を館山市は担っていると考えます。

そこで質問であります、後援団体に観光協会が参加しないいきさつについてどのように考えますか。

また、このように民間がイベントを行うのは当市では初めてであると思います。既に500人近い申し込み人数があったと聞きますので、現在の時点では先行きが明るい見通しであろうと考えられます。

そこで質問であります、今後市長はこのような民間タイプのイベントを取り入れていく考えをお持ちかどうか。例えば、今回は海にちなんだものでしたが、山にちなんだイベントとか、いろいろ考えられると思いますが、市長のお考えをお聞かせください。

次に、第6点目の余裕教室の活用についてですが、千葉県内の小中学生は昭和60年ころから減少を始め、平成8年には10年前の3割減となる約56万人になりました。県教育庁は、当分は児童生徒数の減少が続くと予測しています。子供たちの減少と反比例して、学校では普通教室として使われなくなった余裕教室が年々増加をしているようです。

文部省は、平成5年4月に余裕教室の活用指針を策定し、有効な活用策を掲げています。指針では、地域の伝統に配慮した特色のある学校づくりや学校開放の促進などを示しています。恒久的に余裕が生じる場合は、防災備蓄倉庫など学校施設以外への転用も認め、平成7年には転用手続を簡素化しました。学校施設としての利用状況は、コンピュータ室やランチルーム等が増加し

ています。転用施設では、学童保育所が多く、デイサービスを行う老人施設や不登校生徒を指導する適応指導室なども設置されています。

さて、質問ですが、当市における余裕教室の実情と、どのように活用されているのか、その点について明らかにしていただきたいと思います。

最後に、第7点目の読書指導員制度に関する質問であります。この制度は袖ヶ浦市で実施しているものです。指導員の役割は、学校の図書室で常時生徒たちの読書の相談に乗ったり、低学年には読み聞かせを行い、児童たちの図書に親しむ心を養おうとするものであります。

時間でありますので、ここで終わりますけれども、その指導員についての検討をしてみたらどうかと思いますが、いかがなものでしょうか。

以上、7点にわたり御質問申し上げました。御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの脇田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の第1点目、地方交付税の算定、配分についての御質問でございますが、算定方法が簡素化されるということにつきましては、事務の効率化の観点から望ましいと考えますが、一方、地方交付税が従来から果たしてまいりました財源の均衡化を図るという機能につきましては、引き続き維持されていくことが必要であると考えております。

第2点目、市民税の滞納についての御質問でございますが、平成8年度の館山市における市民税の収納状況につきましては、前年度に比較いたしましてわずかに下回る見込みでございます。

また、固定資産税課税明細書に対する反応についての御質問でございますが、特に改まった問い合わせはございません。

第3点目の平成8年度の決算状況についての御質問でございますが、歳入でおおむね158億9,000万円、歳出でおおむね152億円という状況でございますが、その差引額につきましては、繰越明許費の財源として約1億4,000万円が含まれておりますので、実質的な決算剰余金は5億5,000万円程度となる見込みでございます。

次に、大きな第2の環境問題についての第1点目、容器包装リサイクル法に関します御質問でございますが、館山市におきましては、従来より分別収集を実施し、資源の再利用に努めているところでございます。容器包装リサイクル法の施行に伴いまして、今年度から新たに飲料用紙パックの収集を実施し、現在までに1.6トンが再資源化されております。

第2点目の焼却炉でのダイオキシン類対策についての御質問でございますが、平成8年度の測定結果は、国の基準値でございます80ナノグラムを下回っておりまして、先ほどの三上議員の御質問にお答えいたしましたとおり、今後とも適正な燃焼管理に努めるとともに、ごみの減量化、

再資源化を進め、ダイオキシン類のより一層の削減を図ってまいりたいと考えております。

第3点目、これも三上議員にお答えしたとおりでございますが、民間の小規模事業所における焼却炉のダイオキシン類対策につきましては、現在のところ指針は特に示されておられません。したがって、館山市におきましては、民間の事業所並びに学校等につきましてどのような措置がとれるのか、関係機関と連携をとりながら対処してまいりたいと考えております。

第4点目の自然エネルギーの活用についての御質問でございますが、御指摘のとおり、太陽光、風力、波力等自然エネルギーの活用は、環境対策、省資源対策上有効な手段だと認識しております。しかし、現段階では、コスト面等を勘案いたしますと、直ちに公共用施設に採用することは困難であると考えております。今後につきましては検討してまいりたいと考えておりますが、民間に対します補助並びに利子補給等の助成につきましては、現在のところ考えておりません。

環境の第5点目、空き缶ポイ捨て禁止条例の制定についての御質問でございますが、この条例につきましては、安房郡市の共通課題として現在協議しているところでございます。館山市といえども、他市町村との連携の中で、実効性のあるよりよい方策を見出すべく、検討を進めてまいります。

次に、大きな第3の水道水の浄水処理に関する御質問でございますが、濁度計につきましては、作名浄水場水質検査室に設置してございまして、原虫クリプトスポリジウムの検査につきましては、各ダム水の検査を千葉県薬剤師会検査センターに依頼してございます。また、集団感染予防といたしましては、厚生省水道環境部からのクリプトスポリジウム暫定対策指針に沿いまして浄水処理をしているところでございます。

次に、大きな第4、市役所北側の市道整備についての御質問でございますが、道路拡幅に当たりまして、地権者の方と交渉を行ってまいりましたが、現時点では了解が得られておりません。今後も関係者と協議しながら、引き続き交渉を行ってまいりたいと考えております。

また、市役所周辺の交通対策についての御質問でございますが、市庁舎の駐車場につきましては、利用状況に応じまして、公用駐車場を一般来庁者用に開放する、あるいは職員により誘導するなど、混雑の緩和や事故防止に努めているところでございます。また、市庁舎周辺の交通対策といたしましては、道路標識や区画線等の交通安全施設の整備を図っているところでございます。

次に、大きな第5、国際オープンウォータースイムレースについての御質問でございますが、このイベントの実行委員会から後援及び協力要請を受けまして、館山市を初め14団体がそれぞれの判断により支援しているところでございます。このような民間イベントにつきましては、イベントの内容や経済効果等を十分検討するとともに、住民並びに関係団体の理解と協力を踏まえまして判断してまいりたいと考えております。

次に、第6の余裕教室の活用及び第7の読書指導員制度につきましては、教育長より御答弁申

し上げます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 高橋教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） 大きな第6、余裕教室の活用についての御質問でございますが、現在小学校36、中学校24の教室を文部省の余裕教室の活用指針に基づき有効に活用しております。活用方法といたしましては、多目的室、児童生徒会室、教育相談室等でございます。

なお、平成8年度から小学校6校におきまして、防災備蓄倉庫として利用しているところでございます。

次に、大きな第7、読書指導員制度についての御質問でございますが、読書指導の推進は、館山市学校教育の重点施策の一つでもあり、平成7年度から5カ年計画で学校図書館図書の整備を推進しているところでございます。読書指導員制度については、貴重な御意見として参考にさせていただきます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 13番脇田さん。

◎13番（脇田安保君） それでは、財政問題から質問をいたしたいと思います。まず最初の問題はいいとしまして、決算状況からお聞きしたいと思います。

先ほどの市長の答弁で、今年度は158億9,000万ですか、歳入、歳出が152億、それで剰余金として5億5,000万という数字が示されましたけれども、私が調べてきましたところで見ますと、平成4年度、5年度、6年度と実質収支比率が—平成4年度が2%、平成5年度が1.7%、平成6年度が2%。それで、平成7年度になって比率が3.9%という数値に上がってきたわけです。それで、平成8年度は5億5,000万という、ちょっとまだ計算できないんですけども、3%ぐらいかな、3%を切るのかなと思います。それで、この実質収支比率の妥当な数値というんですか、これがやはり問題になってくると思うんですけども、過去においては2%とか1%という低い数字で抑えられていた。金額にしますと3億とか2億という数字で、収支比率がとまっていたんです。それが平成7年度になってから6億9,000万、平成8年度は5億5,000万ですけども、大分翌年に繰り越す分が多くなってきたわけです。ということは、市民から預かる、負託される税金が使われないで翌年、翌年と繰り越されていくということは、要するに事業の要望はあるけれども、それをやらずに繰り越していくような感じを受けるわけです。

それで、一つには実質収支比率に対してでありますけれども、3%がやはり妥当な線だろうというふうにあります。それで、黒字が多くなるのもちょっと問題なんだと。赤字になったら大変ですけども、黒字が多くなり過ぎれば、やはり住民の負担を軽減していくのが当然である、そ

のようにも言われているわけですがけれども、この数値に対して — 平成7年、8年とちょっと多くなってきているんじゃないかと思えますけれども、どうなんですか。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） ただいまの実質収支比率に関する御質問でございますけれども、実質収支比率はおおむね3%から5%が妥当な範囲内であると言われております。したがって、館山市におきます平成7年度の実質収支 7.3%、あるいは平成8年度の 5.7%という率は高目のものであるというふうに考えております。

◎議長（山中金治郎君） 脇田さん。

◎13番（脇田安保君） 今の答弁はちょっと高いということでありましてけれども、やはりそれだけ事業ができなかったという結果じゃないかなと思います。

数字を追いかけるわけじゃありませんけれども、財政面についてもう一点お聞きしたいのは、3つの財政指標という言葉があります。それは経常収支比率と財政力指数と起債制限比率、この3つの財政指標をもってその地方公共団体の財政力の判断をするんだという大まかな目安があるわけです。それが当市の場合には、この3つとも — 危険ラインを超えたところもあれば、だんだん、だんだん要するに — 例えば財政力指数は、私も75あるいは73ぐらいあればいいかなと思っただけですが、平成7年度で 70.00なんです。それで、昭和63年度で75.7。だから、10年近くで約6ポイントぐらい財政力が下がったわけです。その数字になるわけです。それと、もっと大変なのは、経常収支比率も — 町村にあっては70%、市にあっては75%が一応の目安ですよ。それで、80%を超えれば警戒ラインですというふうに言われているわけです。それが平成7年度で83.3%、これは非常に — 平成5年度が79%ですから、大分年を追うごとにこの比率が上がっているわけです。この数値だけ見ていきますと、まだまだ大変なところもたくさんあるわけですが、それともう一つ、起債制限比率 — 部長さんに全部数字を述べてもらうのはあれですから、私が言いますけれども、起債制限比率は館山市は12.4%、これは千葉県第3位なんです。一番悪いのは鴨川市、13.9%、その次が千葉市が12.5%、その次が館山市のわけです。この3つの財政指標の中でどこをとっても、これはいいという数字が見つからないんです。この点に対してどのように認識を持っているのか。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 館山市の財政についてでございますけれども、財政の弾力性の点から考えますと、非常に厳しい状況にあるということが言えるかと思えます。しかしながら、国、県からの特別な指導を受けるまでには至っておりません。現在の財政状況は一応健全性を維持していると言えますが、今後起債等に当たりましては慎重な対応が必要な状況にあらうかというふうに認識しております。

◎議長（山中金治郎君） 脇田さん。

◎13番（脇田安保君） この3つの指標の中で大変な数値を——ちょっと私もたまげたんですけども、何かしら一つぐらいいいところはあるのかなと思いましたが、実際にもう厳しいところにきている。ということは、これからやはり館山市としてはいろいろな事業をまだまだやっていかなきゃならないわけです。それが現時点ではこのような状態のわけです。そうしますと、これからいろんな事業を抱えているところへきまして、これでは先行き、見通しがまるっきり暗いじゃないかという——私の数値としてとるんですけれども。

そこで聞きますけれども、このまま経常収支比率が——1点聞きます。経常収支比率がこのままの推移でいくのか。ということは、経常収支比率というのは、御存じのように、主なものは人件費だとか扶助費、公債費とか、あるいは維持費だとか物件費になるわけですが、この問題は何かなくてもどんどん、どんどん上昇していくものなんです。ですから、市税収入が上がってこなければ、この比率はどんどん、どんどん上がっていくわけです。ですから、警戒ラインをもう超えているわけですから、もとに戻すにはどうしたらいいのか。また、これから先は見通しとしてはどうなのか。その点はどうですか。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 経常収支比率の先行きの見通しでございますが、現在83.3%という数字が出ております。これが二、三年後に88%まで上がりまして、その状態が一、二年続いて、その後、経常収支比率が公債費等の縮減によりまして落ちてまいるといような見通しを持っております。今後とも、公債費比率だけではなくて、全体の財政指標を健全な状態にいたしますために、一般的経費の削減等を含めまして財政運営に努めてまいりたい、そのように考えております。

◎議長（山中金治郎君） 脇田さん。

◎13番（脇田安保君） 二、三年後に88%といいますと、これは危険ラインをはるかに超えてしまうので——これだけ、1点だけとるとそうですけれども、事業を進めていけば起債制限比率も上がってくるわけです。やはり15%を超えると、公債費負担適正計画、要するに国の指導を受けるような状態になってくるわけです。そうなりますと、事業そのものは何もできなくなっちゃうわけです。ですから、そこら辺はやはりきちっとしたかじ取りが大事じゃないか、このように思いますので、その点を——細かい数字はまたの機会で行いたいと思いますけれども、この財政問題については、きちっとやはり行政側として対処していただきたいと思います。

じゃ、次に移ります。ダイオキシンの問題ですけれども、館山市の焼却施設は80ナノグラム以下に抑えられておりまして、操業している職員の腕がいいのか、あるいはうまくごみを燃やしているからこの数値が低く抑えられているのかというところはよくわかりませんが、このダ

イオキシンというのは昨年からいろいろと騒がれて、人体に入ると猛毒なんだということで、一番問題化されているのが埼玉県の新潟市でしたか、テレビ放送されておりました。このダイオキシンというのは、ベトナム戦争なんかで使われた枯れ葉剤に使用されたものだということで、奇形児が生まれたり、あるいは生命に危険があるような状態になってくるという問題になりまして、館山市だけがどうのこうのという問題じゃありませんけれども、やはり一つの自治体がきちっとこれを把握していかなければならないなと思います。

そこで質問ですけれども、ごみ焼却場ですけれども、今現在館山市は、准連続炉というんですか、間欠運転ですか、24時間じゃなくて間欠運転しているわけですから、それでごみを焼却しているわけです。それで数値は低いんですけれども、この指針を見まして、今後の恒久対策ということで言われているのが、ごみ処理の広域化と小規模な間欠運転を集約して全連続炉化するというふうな恒久対策が打ち出されているわけです。館山市としてはまだまだ今の状態で——これは一応10年、20年というサイクルがありますけれども、それを目途にして炉の改善あるいはごみの広域化を進めていきなさいという将来的な指針があります。これについてはどのように考えていますか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 館山市の現在の焼却炉は、御指摘のように16時間焼却ということで、准連続炉ということでございます。恒久対策の中で、平成5年度より前に稼働した焼却炉につきましては旧ガイドライン非適用というようなことございまして、当面は5ナノグラムまで抑制をなさいます。これは5年後に2分の1程度がそうなるだろう。さらに10年後には、いわゆる平成5年より前に稼働した炉については、すべてがその5ナノグラムを達成するという、そういう新しいガイドラインが示されているわけでございます。現在は、先ほどお話がございましたように、2つの炉の平均が8.75ナノグラムということで、いわゆる恒久対策で5年後、10年後に示しております5ナノグラムまでまだ下げなきゃいけないというあれがあるわけでございます。

現在検討しておりますのは、いわゆる燃焼管理——均質に完全燃焼させなさいという部分で、炉内の燃焼温度はおおむね900度ぐらいで燃焼しておりますので、これは新しいガイドラインの数値もクリアしているわけですが、電気集じん機の入り口におきまして、旧ガイドラインでは250度から280度の燃焼温度ということが示されているわけですが、実際的には249度前後で燃焼しておりますので、旧ガイドラインはクリアしているわけですが、新しいガイドラインでは200度未満に抑えなさいということになっております。したがって、その温度管理を——水を噴射することによって低下させることができないかというような検討を現在進めているところでございます。それからあとは、いわゆる連続運転ということも検討し



ているわけですが、現在の炉は一応准連続ということで設計がされておりますけれども、断熱レンガの厚さを除きましては全連続炉とほぼ同じ構造ということでございまして、ただ実際の運営に当たりましてはその辺に課題がございます。その辺を再度細かく検討してまいりませんと、今すぐ連続運転というのは難しいのかなと。それといま一つは、人員の確保というようなこともございます。当面は、その辺の全連続をにらみながら、踏まえながら、水噴射によりまして電気集じん機の入り口での燃焼温度を下げるということを考えてまいりたい。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 脇田さん。

◎13番（脇田安保君） 今の数値ですけれども、改良されなければならない点があると思います。一つには、ダイオキシンの集じん機の問題があるわけです。これは多分高価なものですから、おいそれとは交換できないと思うんですけれども、やはりその集じん機においてこの数値がもっともっと下がるんじゃないかと。先ほども私が言いましたように、厚生省は新炉に対しては0.1ナノグラムと言っているわけです。0.1ナノグラムじゃなければだめなだけで、既存のものは80ナノグラム以下でいいですよ。そこのところがニュアンスがちょっとあれなんですけれども。

そこで、焼却施設の周辺の問題についてちょっと伺っておきたいんですけれども、茨城県の利根町の城取清掃工場の周辺の土壌で高濃度のダイオキシンが検出されたと。摂南大学の薬学部の宮田秀明教授の多摩市で開かれた環境科学討論会での発表では、風下で焼却場に近いほど汚染度が高く、200メートルの地点では、環境庁が汚染されていない土壌の目安としている値の125倍もの高濃度のダイオキシンが検出されたという報道がありました。

これは目に見えないものですから、やっぱり心配な点もあるわけです。といいますのは、あそこに接している——スポーツ施設ですけれども、サッカーグラウンドがあるわけです。そのサッカーグラウンドを含めて、周辺の地質の調査というのは行ったことがあるんですか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼晃君） 周辺の土壌のダイオキシンについての調査はいたしてございません。

◎議長（山中金治郎君） 脇田さん。

◎13番（脇田安保君） そうすると、市のあれの発生そのものは、数値は少ないんですけれども、長年の蓄積ということもございますし、やはり市民が安心して使えるような状態にするには検査をする必要があると思うんです。ですから、ここは大丈夫ですよと市当局が太鼓判を押せるような——やっぱり調査だけはしておくべきだと思います。

それと、もう一つつけ加えまして、職員の健康管理の問題です。一番そばで浴びるというんで

すか、吸うのは、やはりそこに携わっている職員だと思います。この健康管理についてはどのように行っていますか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 直接作業に当たっております職員の健康管理でございますけれども、一般の職員と同様に健康診断、それから健康相談等を行っておるわけでございます。特にダイオキシンによる影響調査というようなこと——これはもしそういう影響が出ておれば、通常の検診等でもそれらが出てくるといような考え方をしているわけでございますけれども、いずれにしても、そういう事例が示されておりますので、今後はそういう——作業関係の安全管理だとか、またはそういう健康診断等につきましても、関係機関と相談をして対応してまいりたい、このように考えております。

◎議長（山中金治郎君） 脇田さん。

◎13番（脇田安保君） じゃ、ダイオキシンの問題はこれで終わります。

太陽エネルギー、この問題について少し議論していこうと思います。といいますのは、現在の日本の発電の割合ですけれども、火力が53%、原子力が40%、水力が7%であります。今回の東海村の再処理工場での火災、爆発で、核燃料の再処理が中断しているわけ。それで、これが滞留したために大きな問題となって、今後は原子炉そのものが運転停止に追い込まれる可能性もあるというようなことも言われております。

そこで、今私が提案した太陽光発電、ソーラーですけれども、昨年度は1,600戸の設置があったんですけれども、今度はその6倍の9,400戸というように——申し込み者は約5倍あるそうなんです。ですから、これは自分の利益のためではなく、いろいろな角度から皆さんが考えられて、やはりそういうような——太陽光発電というんですか、一般家庭では、約3キロワットを発電すると、そのときの電気量は維持される、それ以上の場合には東京電力に売るといようなシステムになっているそうですけれども、やはりこれは行政がある程度牽引力となって引っ張っていかなくゃならないと思うんです。まして、地球の温暖化ということも騒がれているし、資源というのも限りあるものであります。ですから、市民にやはり行政が示していくというのが大事じゃないか、私はそう思うんです。ですから、この制度についても融資あるいは補助も含めて検討をさらにしていただきたいということを要望しておきます。

次に、禁止条例ですけれども、3月と同じような答えでございましたので——私の質問とちょっと趣旨が違ったかなと思うんですけれども、何年度から当市で実施しようと検討されているのか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） ポイ捨て条例の関係でございますが、先ほど御質問の中で、富

山町が町単独で6月議会に提案するというようなお話がございました。この件につきましては、3月議会でもお答えしましたように、一つの市町村だけでは効果が余り期待できないだろうというようなことで、安房という地域の中で考えられないかということで、安房郡市の環境衛生担当課長の集まりの中でいろいろ協議いたしまして、やはり地域として進めるべきだという共通認識になったわけでございます。その中で、内容的には相互に一応情報交換をしましょう、ただし条例の制定はそれぞれの市町村において行っていくということです、まず最初に富山町が6月という方向を打ち出したわけでございます。館山市につきましても、遅くとも年度内というようなことで現在考えております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 脇田さん。

◎13番（脇田安保君） 館山市に対してのこういう話をちょっと私はこの前ある人から伺ったんですけれども、ある町の町民から伺った話ですけれども、館山市が先に実施しないと我が町は何でも実施できないという話を聞かされたんです。といいますのは、この問題なんです。ポイ捨て禁止条例じゃないです。目の見えない人に付き添って歩くガイドヘルパー。私がある盲人の方と話したときに、館山市、要するに安房郡の中心の市が実施しないから我が町はまだまできないよ、そういう話を聞かされたんです。ということは、安房の中でやっぱり館山市が——各町村、館山市がやればうちの町も、うちの市もというように話をされて——その盲人の方が私に言っておりました。このガイドヘルパーに関しては、きょうはまるっきり違うところですからしませんが、そういう例を言われると、なるほどなと。この問題もやはり各町村——4市町村ですか、行った、端と端がやりましたけれども、真ん中の館山市がまだ検討しているんだという状況でありますけれども、今言ったように、やはり安房のリーダーシップをとっていくのは館山市だと思うんです。ですから、いろんな問題も含めて先陣を切っていくような体制であっていただきたいと思いますけれども——再度伺いますが、何年度からやるんですか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 先ほどもお答えいたしましたとおり、遅くとも年度内に条例の制定をいたしたい、このように考えております。

◎議長（山中金治郎君） 脇田さん。

◎13番（脇田安保君） その条例なんですけれども、内容的に——後からやる市は、各市町村の条例のいいところだけを全部集めてやるのが普通——後追いという感じだと思うんですけれども、せんだって新聞で発表になった我孫子市の野鳥広報ということで、釣り糸、釣り針等も含めて——条例の名前がさわやかな環境づくり条例という——ポイ捨て禁止条例みたいにかたいんじゃないくて、防止条例というもので、罰則もきちんとつけてあります。その中に車のアイドリング

も入っているんです。だから、ありとあらゆるものを網羅してつくったのが我孫子市の条例。館山市が年度内に策定するのはいろんなものを参考にされると思いますけれども、これよりももっとすばらしい条例をぜひともつくっていただきたいと思いますので、それは要望しておきます。

次に移ります。水道の問題を1点だけお聞きしたいと思いますけれども、濁度計の設置はされたようでありますので、よろしいんですけれども——検査ですけれども、検査をどこの——千葉県薬剤検査場で行うそうですけれども、こういう問題が起きて、大分その申し込み者が殺到して、なかなか検査できないという状況であるそうでありますけれども、検査の対象地域、対象のところ、例えば今のダム、あるいは——地下水は問題ないと思いますけれども、前にくみ上げていた女堰ですか、豊房の、等の表流水が一番問題なんです。ダムの水よりもやっぱり流れてくる表流水、そのあたりが問題ですけれども、どの程度のところまで検査をしようと考えているんですか。

◎議長（山中金治郎君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木基博君） その検査の対象ということでございますが、現在薬剤師会検査センターにお願いしたのはダム3カ所でございます。議員の申されました表流水等につきましては、今後の検査体制の整備を見まして検査依頼を検討してまいりたい、このように考えます。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） ちょっとここで、先ほどの財政問題に関しまして、追加で答弁をさせていただきます。

財政の弾力性を示します指標でございます経常収支比率でございますけれども、ちょっと詳しくお話をさせていただきますと、平成7年度83.3%、これは議員お話しのとおりでございます。先ほどお話ししましたように、平成10年、11年、12年、この見込みが88%台でございますけれども、平成13年から下がり始めまして、平成17年には、ちょっと先の長い話でございますけれども、80.2%という見込みが出ております。これらの経常収支比率——平成10年、11年と高い指標を示すわけでございますけれども、上水道の出資債でありますとか、今後見込まれます橋上駅舎にかかわる経費、そのほか下水道等の経費を見込んだの将来の収支見通しでございます。これだけつけ加えさせていただきます。

◎議長（山中金治郎君） 以上で13番議員脇田安保さんの質問を終わります。

次に、1番議員辻田 実さん。御登壇願います。

（1番議員辻田 実君登壇）

◎1番（辻田 実君） 通告をいたしました3項目について御質問を申し上げます。

最初に、東京湾アクアラインの開通とリゾート計画の見直しについて御質問をいたしたいと思います。県民の待望であった東京湾横断道路は、4月の21日に木更津川崎間15キロが一部開通し、

盛大な式典が行われ、年内には全線が開通する予定でございます。その名称もアクアラインに決まり、この上なく喜ばしいことだと思います。そして、この計画は昭和62年に決定された四全総の目玉であり、同時にリゾート法、東関東自動車道館山線も決まり、房総の幕あけとなる大プロジェクトとして歓迎されたわけでございます。その内容は、南房総にも大きなインパクトとはかり知れない経済効果をもたらすと期待されておったわけでございます。

そこで、今どのような経済効果が館山市に生まれているのか、わかりやすく説明を願います。また、どのような対策を考えておられるかもあわせて教えていただきたいと思うのでございます。

2番目に、東関東自動車道館山線も木更津まで開通し、非常に便利になりました。そして、東京湾横断道路の開通に合わせ、木更津富津間を残し、館山までの道路も急速に進んでおるとのことでございます。

そこで、先取りをするかのように道の駅が――三芳村土のめぐみ館、富浦町枇杷倶楽部ができて、大成功をしているようでございます。また、道の駅鋸南、鴨川オーシャンパークが最近完成し、建設省に道の駅として登録されたそうでございます。この道の駅は、21世紀の自動車時代を迎え、館山市の玄関となり、顔となるものと思われまふ。平成7年に宮沢議員が質問していますが、その後どのようなになっているのか、教えていただきたいと思うのでございます。

また、東関東自動車道館山線に合わせ、館山市の活性化をどのように考えておられるのか、お尋ねを申し上げます。

3番目に、鳴り物入りでスタートしたリゾート計画も、バブルの崩壊で全国的に行き詰まりを見せており、見直しがなされております。館山市も、南たてやまマリンパーク計画、太陽海岸平砂浦計画が重点整備地区の指定を受け、業者も決まり、事前協議も調い、事業認可に至る段階まで進んでいたわけでございます。しかし、リゾートの目玉であったゴルフ場が申請の期限切れとなり、みなし取り下げとなってしまったわけでございます。この結果、企業も撤退を余儀なくされ、挫折状態にあることは御案内のとおりでございます。

市長は平成6年3月の議会で、この問題で私の質問に、重点整備地区は、それぞれ地区の特色を考慮し、リゾート地にふさわしい地区として設定されたもので、見直しとか白紙撤回ということはございませんと答弁をされております。その後も三上、増田、神田の各議員から同じような質問がなされ、同じような答弁がなされておるわけでございます。

そこで、改めてお伺いをします。今もリゾート計画の見直し、撤回をする気持ちはありませんか、質問いたします。

また、この点については、市長は平成7年6月の議会で、今後も千葉県と業者との協議をして対応していきたいと答弁をなされているわけでございますが、その協議の内容と結果についてはどのようなものであったのか、お聞かせを願いたいと思うのでございます。

4番目に、リゾート計画で重点整備地区に指定された区域の土地の買収、借り受けされた土地の現況がどのようになっておられるのか、お伺いをしたいのでございます。計画面積、買収された面積、借り受けた面積を項目別にお示しを願いたいと思います。

大きな2番目、商工業の振興と観光物産センターの建設についてお伺いをいたします。この問題は、平成7年12月議会で本橋、宮沢両議員から同じ質問がなされております。その後1年半が経過したわけですが、状況はさらに悪化をしておりますので、この点について質問を申し上げたいと思うのでございます。

銀座通りの商店街において閉店が急速に進んでおりますが、この現状にどのように対応してきたのか、また今後どのようにしようとしているのか、具体的に教えていただきたいと思います。

さらに館山市は、購買力から見て、過当競争により共倒れが当然起こることが予想されます大型店について、最近急速に進出が進んでおります。この対策はどのようにしてきたのか、そして地元商店の保護をどのようになされてきたのか、具体的に教えていただきたいと思うのでございます。

また、唯一の市の政策であると思われる大型店進出対策資金の利用が平成6年に1件で、その後はないようではございますが、この点をどのように見ておられるのか、お伺いをしたいのでございます。

3番目に、観光物産センターの建設についてお尋ねいたします。この問題につきましては、平成7年度に請願書が採択されておりますが、どのように対応されたのか、教えていただきたいと思っております。

このたび、商工会議所の代表が市長に促進の陳情をなされたようではございますが、会議所ニュース4月号によると、「市、近く委員会設置へ」と大見出しで書かれております。これは、3月議会に配付された根幹事業実施計画書の中に平成9年、10年度の検討ということが書かれておるわけではございますけれども、これとはどのような関係になるのか、教えていただきたいと思っております。

そして、根幹事業計画では平成11年度に事業調査を行う予定になっておりますので、この根幹計画でまいりますと、観光物産センターの完成は早くても5年先になると思われるわけではございますけれども、この点についてはどのようにお考えになっておられるのか、お教えをいただきたいと思うのでございます。

大きな3番目、ウエルネスリゾートパーク計画とMANGA共和国の事業化の見通しについてお伺いをいたします。リゾート法の制定以来、館山市は画期的なリゾート都市を目指し、総力を挙げて取り組みをしてまいりました。その結果、全国でも屈指の重点整備地区の指定を受けたわけではございます。この民間主導のリゾート計画をさらにグレードを高めるために、ウエルネスリ

ゾートパーク計画ができたものと思います。しかし、民間企業が撤退した現在、館山市はリゾート計画の見直しを迫られているわけですが――現在進められておりますところのMANGA共和国の事業化は非常に大切であります、非常に難しい問題もあらうと思うわけでございます。

そこで私は、実現に際しまして3つの点について、どうなっておるのか、質問をいたしたいと思うのでございます。1つが、国の240兆円に達する財政赤字とレジャー産業の不振は危機的な状態にあることが言われております。このようなときに、総事業費560億円を予定するリゾート計画が実現できると思うのでしょうか、市長の所信をお伺いする次第でございます。

2番目に、ウェルネス計画の土地取得は55.3%に達したと言われております。しかし、その実態は虫食いの状態で、部分的な利用としても不可能でございます。したがって、目的別に、ゾーンごとには買収はできないものなのでしょうか、お伺いをする次第でございます。

また、買収の面積が毎年減少していますが、これでは平成11年の目標年度までには買収は困難でございます。土地買収ができなければ、MANGA天国も夢の夢になってしまうわけでございます。この点の見通しについてどのようにお考えになっておるのか、お伺いをする次第でございます。

3番目に、さらに買収価格でございます。3月議会で、平成3年10月に不動産鑑定評価をしたということでございます。そして、その後そのままこの価格が継続されているという答弁でございました。時間切れになりましたので、改めて質問を申し上げます。

財産管理審議会は、毎年その都度対象財産の評価をせずに答申をしておるのでしょうか、この点についてお伺いをする次第でございます。

地方自治法、さらには館山市の財務規則の中におきまして、2,000万円以上の財産の取得、処分については、審議会の議決、さらに議会の承認を得るというふうになっているわけですが、すけれども、この点について欠落はないのかどうか、私は指摘をしておきたいわけでございます。

さらに、県は昨年秋に宅地基準地価評価の調整を発表いたしました。これは3年ごとに行われているものでございます。それによると、平成6年度対比で館山市は43%の値下がりをしているわけでございます。県平均は26%でございます。県下でも最も高い値下がり率であったわけでございます。したがって、時価により極端に高い値段で土地を購入しているとしたら、第一勧銀と同じように事件となりかねません。そのような場合にはだれが責任をとるのでしょうか、市長の所信をお伺いをいたす次第でございます。

さらに、資金の運用について。現在までの土地取得総額と、これまでに支払われた元金、利息の合計、そして現在の負債残高について、具体的に御説明を願います。

さらに、MANGA共和国の事業化について、さきの議会で、市長は数社から話があったこと、部長からは22社と接触があったことが答弁なされております。そこで、これらの会社との接触の

中で、事業化の見通しはどのように感じられたのか、その点について感触をひとつ教えていただきたいと思います。

最後に、ウエルネスリゾートパーク事業予測調査の結果が出たようでございます。したがって、施政方針演説の中には、この調査結果により、M A N G A 天国の事業化に進むということになっているわけですが、その内容が私ども議員はさっぱりわからないわけですから、この調査結果の内容を明らかにしてもらいたいと思います。

すなわち、施政方針にも書いてありますように、事業予測、事業の収支、事業化の手法等について、区別して説明を ― ひとつわかりやすく教えていただきたいと思います。こういうことが行われて事業化するんだといっても、内容が私どもちっともわからないわけですから、判断に困るわけですから、この際ここでもって明らかにしていただきたい。

以上、答弁により再質問をさせていただきます。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの辻田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、第1点目の東京湾アクアライン開通によります経済効果について、この御質問でありますが、直接的な効果といたしましては、まず首都圏との時間距離の短縮、交通容量の拡大、これが想定されます。そして、定時性の確保、大量輸送処理によります効率化の可能性が高まると考えられます。また、間接的な効果といたしましては、交流圏の広がりとともに、諸機能の立地ポテンシャル、産業の取引先の拡大、観光客等の増加、これらの多様なビジネスチャンスが生まれるものと考えております。

第2点目の館山自動車道と館山市の活性化対策についての御質問でありますが、活性化の拠点といたしましては、道の駅や観光物産センター等が考えられます。

なお、観光物産センターにつきましては、現在、仮称でありますが、館山観光物産センター検討委員会を設立する準備を進めているところでございます。

第3点目といたしまして、リゾート法により重点整備地区に指定を受けた事業計画の見直しについての御質問でありますが、ゴルフ場開発計画のみなし取り下げや経済状況の低迷によりまして、民間プロジェクトの推進は非常に厳しい状況にあると伺っております。東京湾アクアラインの開通や館山自動車道整備の推進によりまして、南房総地域の発展の可能性が高まってきており、景気の動向、国民ニーズの変化等をとらえつつ、房総リゾート地域整備構想を策定しました千葉県や事業者と引き続き協議をしております。

第4点目のリゾート計画で取得や借り受けをされた土地の現況、これについての御質問でありますが、土地の取引につきましては事業者と地権者との問題でございますので、館山市といた



しましては、土地の現況につきましては把握しておりません。

次に、大きな第2の商工業の振興、この第1点目でございます。館山市の商業の実情に関します御質問でございますが、御案内のとおり、大店法の規制緩和や消費者意識の変化等、既存商店街を取り巻きます環境は厳しい状況にあります。これは、一館山市のみならず、全国的な問題ともなっております。このため、県内商店街の活性化モデル事業といたしまして、県、市及び商工関係団体で組織いたしました魅力ある館山中心商店街づくり推進協議会、ここでの検討を受けまして、昨年度から館山銀座商店街振興組合が実施しております空き店舗対策事業に対しまして、千葉県とともに助成をしているところでございます。今後も県や関係諸団体と話し合いを重ね、商店街の活性化に努めてまいりたいと考えております。

同じ第2点目の大型店の進出と地元商店街についての御質問でございますが、館山市では千葉県とともに、地元商店街に対しまして、商店街共同施設整備事業あるいは商店街にぎわい推進事業、これに対しまして助成しております。さらに、大型店の出店に対応いたしまして、資金の融資を受けた人に対し、利子補給を実施してまいりました。また、中小企業融資制度の融資限度額の拡大、利子補給期間の延長等を図り、利用の促進に努めてきたところでございます。今年度は、新たに館山市商業協同組合が実施いたします南総里見八犬伝を活用した共通商品券利用促進のための統一のぼり作成、あるいはポイントカード研究事業に対しまして助成措置を講じたところでございます。さらに、中小企業者の資金融資の拡大を図るため、中小企業融資預託金を増額したところでございます。

同じく商工業の第3点目、観光物産センターについての御質問でございますが、平成9年3月、館山商工会議所から物産会館建設促進に関する陳情がございました。現在、（仮称）館山観光物産センター検討委員会を設立する準備を進めているところでございます。

大きな第3、ウェルネスリゾートパーク計画とMANGA共和国の事業化の見通しについての第1点目、リゾート計画についての御質問でございますが、ウェルネスリゾートパーク計画につきましては、館山市の持つ特性を生かし、ウェルネスを基本理念とした複合テーマパーク構想でございまして、民間企業も興味を示しているところでございます。厳しい社会経済状況下ではございますが、各企業において蓄積されましたノウハウを活用しました計画に期待しているものでございます。

財産管理審議会の内容につきましては、総務部長より御答弁申し上げます。

ウェルネス計画の用地取得についての御質問でございますが、現在までの用地取得面積は37万194.63平方メートル、用地取得額は11億6,015万5,861円でございます。平成8年度用地取得額は9,615万5,400円で、利子合計は51万5,167円でございます。

このMANGA共和国の事業化の見通しについてでございますけれども、接触のありました企

業につきましては、その後、計画地の現地視察や、民間企業数社でMANGA共和国研究班を設置したところもございます。また、本事業予測基本調査結果の概要につきましては、議会に報告を予定しております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 財産管理審議会についての御質問でございます。

財産管理審議会は対象財産の評価をしないで答申しているのかとの御質問でございますが、審議会での財産の取得に関します答申では、対象となります財産の評価額もその内容となっております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 辻田さん。

◎1番（辻田 実君） 順を追って再質問をいたしたいと思います。

第1点の東京湾アクアラインの開通に伴う点でございますけれども、この点については、今市長さんから時間の短縮とか交通量の拡大とか、定時の自動車の通行の効果と、さらにはビジネスチャンスの拡大というようなことが言われておるわけでございますけれども、この点につきましてはそういうことであろうけれども、現実的には今そういう点については、館山市は従来とほとんど変わらないじゃないか、人口の減少傾向は歯どめがかからなくて、むしろ悪くなるんじゃないかということが言われているわけでございますけれども、その点についてはどのようにお考えになるのか、まずお伺いをいたしたいと思います。

◎議長（山中金治郎君） 企画部長。

◎企画部長（寺嶋 清君） 人口の減少についてというふうな御質問でございますけれども、確かに定住人口につきましては減少傾向にあるわけでございますけれども、私どもの方で大事にしておりますのは、むしろこれからは交流人口の増加ということで、第3期の基本計画におきましても、新たに交流人口の見通しという項目を盛り込んだわけでございますけれども、一応基本計画の中では、現時点では176万人の交流人口でございますけれども、平成12年の目標といたしましては250万人を目標数値としたいというふうなことで、私どもといたしましては交流人口の増加に力を入れていきたい、このようなことで考えております。

◎議長（山中金治郎君） 辻田さん。

◎1番（辻田 実君） そういう御答弁でいいんですけれども、交流人口が増加していけばよくなるのは決まっているわけでございますけれども、いつもそのような答弁だとかそのような発表をしているんですけれども、現実的には観光客の入り込みその他については逆行しておる。しかしながら、この秋東京湾横断道ができれば急速にふえるだろう、こう言われているわけですから、

せめてそれに期待をしたいというふうに考えておりますので、次に移りたいと思います。

今市長は、リゾートの重点地区におきます土地の買収については、企業がやったことでもって、この点については把握しておらない、こういうことでございましたけれども、平成7年度の質疑の中におきまして、ゴルフ場の申請に際しまして、土地の所有者の同意につきまして、私は80%ぐらいいっているのかという質問をしたところが、それに対しまして部長の方からは、土地買収は同意という形で両地区とも90%を超えるということでもって承知をしておりますという答弁をしているんです。承知しているというのが今度になったら承知していないと。どういうことなんですか。

事前審査でもって、県に出すということでもって、かなりのところまで進んでいました。本当は平成7年に — あのゴルフ場の開設に当たりましては、6月の期限まであと二、三カ月しかないけれども大丈夫かと言ったら、今言ったように、もう90%の同意も得ているから間違いないということを言っておったんだけど、結果的には見切りでもって取り消しになってしまって、今日に至っている。大丈夫だと言っていたのが、あとはもうそのまま何もやらなくて今日にちゃっている、こういうことでございます。今回も — あのときは90%までいっていますから、二、三カ月先の期限切れまでには、それはもう大丈夫です、もう全部できていますからということで市で見ているわけです。今の答弁になりますと、全く把握していません、民間のことですから。こんなことではどうにもならないと思います。この点についてどうお考えになりますか。

◎議長（山中金治郎君） 企画部長。

◎企画部長（寺嶋 清君） 御質問の趣旨が、いわゆる土地の取引関係、取得関係についてどうなっているか、その把握がどうなっているかというふうな御質問であったわけでございますので、私どもの方といたしましては、土地の取引、取得関係につきましては承知をしておりますということでお答えをいたしたわけでございまして、同意率の問題が出たわけでございますけれども、この開発許可申請で求められている条件といたしましては、用地の取得ではございませんで、あくまでも地権者の同意を限りなく 100%に近づけることが条件でございますので、私どもといたしましては、この同意率のアップにつきましていろいろと支援をしてきて、先ほど議員さんおっしゃいましたように、90%の同意をいただいているというお話が当時あったかというふうに記憶しております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 辻田さん。

◎1番（辻田 実君） 私が聞くことは、現実的に当時このようなことが言われておりまして、相当広大な土地の同意というんですか、これはもう得られている、こういうことであったわけですか。实际的に現地からのいろんな情報が私どものところに流れてくるわけでございますけれども、

1つは、売られた土地が、企業が撤退しちゃったものですから、そのまま放置されておるということ。それから今度は、同意するに当たって、ゴルフ場ができれば買いますよという仮契約みたいな形で手金が打ってあったわけでございます。そこには契約書が交わされておるものですから、したがってその契約書はまだ生きているものですから、その土地を所有者がどうすることもできないという問題。そして、その買われた土地等については既に銀行の担保に入ってしまったおる。したがって、これを買戻しするにも何するにも、宙に浮いちゃっているから、今後その地域は手を出せない状態にあるよと。これは館山だけじゃなくて、どこでも問題なわけです。

銀行においても、みんなゴルフ場をつくる、リゾートをつくるということでもって、企業の方でもって買い上げた土地というのは80%以上が担保に入って借りているわけです。しかし、実現できないままにみんなそれが棚上げされて、今、日本じゅうどこでも銀行はそういった土地の担保価値の低落とその返済に困って大パニックになっているわけです。館山も同じだということを——市内の有力な支店長に聞きまして、全くこの後始末は大変なんですよ、大から小までいろいろなんですよ、これをやらないと館山の開発はどうにもならないんじゃないですかというようなことを言われて、その点についてよく館山市から聞いて、そういうことを一刻も早く解消して、正常な形でもって土地が利用できるようにしなければ——今宙に浮いて、どうにもなりませんよ、このままでは。

その点は市にも私は責任があると思うんです。重点地区としてリゾート計画を推進していくということであって、そしていろんな——同意書だとか、そういう書類をとって、県へ出して事前協議を進めていったんですから。民間だからもう私らは知らないという態度が前の議会にもあるわけでございますけれども、この点については、やはり市民の財産ですから、それが有効活用できるように市が責任を持っていく必要があると思いますけれども、この点についてはどのようにお考えになるのか、お伺いさせていただきたいと思います。

◎議長（山中金治郎君） 企画部長。

◎企画部長（寺嶋 清君） 先ほど御答弁申し上げましたように、この土地の取引につきまして、あくまでも開発業者と、それから地権者との間で、売買契約と申しますか、今のお話の中に手金というふうなお話もございましたけれども、そういう形で進められたものでございまして、この両者の間には、館山市としてはその取引関係については介入をしてございませんので、その契約条項がどうであったかにつきましても承知をしていないわけでございます。そういうことで、あくまでも土地の取引については——私どもといたしましては、同意率のアップにつきましましてはいろいろと支援をしたわけでございますけれども、あくまでも両者の間で契約条項が調ってのものということで承知をしておりますので、この点を御了解いただきたいと存じます。

◎議長（山中金治郎君） 辻田さん。

◎1番（辻田 実君） 役所はそういうことでもって逃げていますけれども、そんなことでは市民生活はよくなりません。私は、平成6年前後にこのリゾート担当の責任ある人から撤退に際していろいろな泣き事なり嫌みを言われたわけでございますけれども、1つのリゾートの撤退に際して、約70億ぐらいの投資をして、それがもう凍結したまま我々は引き揚げるんだ、このことを、辻田さん、あなたはと思うんですか、我々の気持ちにもなってくださいよ、しょうがありませんからということ言われておった。もう一つの方の — Kという大きな日本を代表する企業でございます。この人も同じようなことでもって、うちは100億ぐらい投資したんだ。この地域のものについてはテレビの特集でもって出まして、1,000億のゴルフ場がどうのこうのということでもって、45分の大特集になって、パニックになったこともあるわけでございますけれども、そこでも、それはもう回収できないんです、しょうがない、我々は、バブルがはじけて、国の政策だからということで泣きを入れています。

しかしながら、それはそれで、大企業ですから、70億とか100億 — 実際数はわかりません。それに近いものがあるだろうということは想像できるわけです。それによって、それがみんな宙に浮いているわけですから、これを解消しなければ — 館山市はこれから海洋性リゾート開発を進めていくという基本方針があるわけですから、こういう土地が棚上げになっていたんじゃ進みませんよ、全然。市がやっぱり乗り出して行って、そういった問題の相談所等を — 現地へ乗り込んで行って、そういう問題について出してください。具体的に相談して、弁護士を頼む方法だとか、いろんな方法でもって解消するというふうなことをやる必要があるでしょう、もう企業はいなくなっちゃったんですから。

つい最近、一月たたない前ですけれども、ある重役と会いました、私は。そうしたら、昔館山にもうちの会社でもって、ゴルフ場をつくろうということでもってえらい資本を投下したそうですけれども — 100億ぐらいやったそうですよと言ったら、そのぐらいあったんですかね、そういう話は聞いていますけれども、私は知らないですよ、今どうなっているかわかりませんけれども、館山だけじゃなくて、全国的でもって大変な負債ですから、大変なものですよ、こういう人ごみみたいな話をしてしまして — ああいうところはみんな責任者がかわっちゃいますから、館山に来た人がそういう話をしていたんですから、これは困ったものだ。人がかわっても、館山の市民、館山の土地は変わっていないんですから、その人はどうしてくれるんだと私は言いましたけれども、お互いに困りますね、こういうことでもって話しておりましたけれども、それじゃ済まされないと思うんです。その点については少し対策を立てる気持ちがあるのかなのか、その点についてお伺いをしたい。

◎議長（山中金治郎君） 企画部長。

◎企画部長（寺嶋 清君） 平成元年に国土庁の承認を受けましたいわゆる承認プロジェクト、

これはまだ生きているわけでございますので — 御案内のように、経済不況ということでもって低迷が続いております。こういう状況の中で、私どもといたしましても開発業者の方には機会あるごとに見直しについての要望をしているわけでございますので、今後もそういった形で、プロジェクトの実現に向けましていろいろと努力をしまいたいというふうに考えております。

◎議長（山中金治郎君） 辻田さん。

◎1番（辻田 実君） そういう答弁は — 私は率直になれと言うんです。今中央でもっている問題 — 厚生省だとか、いろんなところで問題が起きているでしょう。農林省だとか。同じですよ、責任逃れをやっていまして。今出てきた — 大きくは3ないし4つの企業がありますよ、名前は出しませんが。その企業に館山のマリンパークリゾート計画、太陽海岸平砂浦計画の担当室なり担当者がいますか、責任者が。もうそんなのはいませんよ、企業の方には。1つの会社に聞きましたら、そういうものはもうありません、館山云々というのは全部解散しちゃっていますと。どこへ連絡をとっているんですか。大企業です、マンモスの。そういう状況の中でもって、今言ったような答弁でもって、きれいごとでもって、議員がはいそうですかなんていうようなことをやっているから、館山は置き去りにされちゃうし、発展も出てこないんです。そこら辺は本音の話をして、やっぱり本音の政策をやっていかなきゃいけないと思うんです。

その点についてはこれ以上言ってもしょうがありませんから、その点について — 向こうの大企業のどこそこに担当室があって担当責任者がいるとか、そうしたところがあるんですか、今。私は1社に聞きましたら、そういうところはもうありませんと言っていました。とれるんですか、今。

◎議長（山中金治郎君） 企画部長。

◎企画部長（寺嶋 清君） このリゾート計画の進捗状況につきましては、四半期ごとにこの進捗状況を県の方に報告をすることになっておりまして、その都度私どもの方でも連絡をとって、その後の進捗状況を報告しているというふうな実情でございます。

◎議長（山中金治郎君） 辻田さん。

◎1番（辻田 実君） それは役所仕事。それを今行政改革をやらなきゃ日本はだめになっちゃうというあれでもって、自民党の橋本総裁は政治生命をかけて、命をかけてやると言っているんじゃないですか。だめですよ、そんなことを言ったって。館山市ももうそろそろ本音に戻りましょう。私はそのことを指摘いたしまして、次に移りたいと思います。

今の市長の答弁の中でもって、これもちょっと私はあれなんですけれども、物産会館については検討委員会を設置して準備を進めていますということですから — そういう発言というのは非常に言葉がきれいです。そういう今のニュアンスからいって、二、三年のうちにできるような錯覚を起こします。商工会議所の会頭さんほか役員も同じようなことを新聞に書いているんです。

でも、この根幹基本計画を見ていくと、平成9年、8年は検討だけです。平成10年で初めて事業調査に入るんです。それから役所の仕事でいきますと実施設計予算を組んで、それから事業に入っていくということになっていくんです。ですから、そこら辺のところ——その根幹計画というのはこの3月に出したものに書いてあるんです。そのずれはどうかと聞いているわけです。

具体的に今言っている話だと、二、三年内にできるような感触。そして、私もその役員の方から——市長に陳情しましたら、おかげさまでって、今度えらいことでもって、検討委員会をつくってくれまして、すぐやるそうですから、ありがとうございますと言っていましたけれども、私は五、六年先だと思いますよと言ったら、何ですかというようなことで、えらいずれがあったんですけれども、このずれをどのように解消したらいいんですか。責任を持ってここで言えますか、三、四年でできるとか。私は、今の市の計画だと、5年先で精いっぱいできるという計画しかないというふうに踏んでいるんですけれども、その訂正——どっちを訂正するのか、ひとつここでもって明快に答えてください。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 観光物産センターにつきましては、市長の答弁にございましたように、検討委員会——（仮称）館山観光物産センター検討委員会というようなものを——今、行政と、それから会議所等を中心といたしました民間の皆さん方とで設置の準備を進めているところでございます。この検討委員会の役割でございますけれども、当面、平成9年度でございしますが、資料の収集……

（「わかっているんです、それは。いつできるんだと言っているんです」と呼ぶ者あり）

◎経済環境部長（小沼 晃君） 検討委員会を設置しまして、いろんな調査、検討をした中で——この観光物産センターというのは、行政がすべてつくってすべて運営するということでもこれはないわけでございますので、そういう部分をどう調整していくかというようなものは当然あるわけでございます。したがって、いつの時点でこれができる、着手するというふうなことは、現時点ではちょっとお答えできないな、このように考えております。

それといま一つ、根幹事業との絡みでございますけれども、確かに検討、その後事業調査というようなことになっております。こういう一連の作業の進みぐあいによって、またそういういろんな条件が整えば、今御質問で5年、6年先というようなことがございましたけれども、それより先にできる可能性もあるというふうに私は考えております。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 辻田さん。

◎1番（辻田 実君） そういう官庁答弁ではもうどうにもならないです。中だけでなく、外で

もそういうことを言っているんですから、これから大きな問題になります。そのあれは役所がやるんじゃないからといっても、鴨川市の施設はどうですか。三芳村の土のめぐみ館にしたって、富浦町の枇杷倶楽部だって、80%以上が市町村の出資による第三セクターでつくっているでしょう。ほとんど市町村と同じです、職員もそこに責任者が出てやっているんですから。そんなことを言って何とかごまかそうとか、わからないというようなことを言ったってだめ。はっきりしてやらなきゃ——今、館山市民はそれが一番困っています。私は言いにくいですがけれども、この際言っておかないと——きちんとけじめをつけて——物産センターができるんだったら検討次第とか、市がやるわけじゃないからその中でもって決めていきます。計画の中でいけば、5年先にならなきゃどうしてもできないじゃないですか。5年以降の計画ですよとはっきり言ったらいいじゃないですか。そんなことを言ったら商工会議所や何かに怒られちゃうでしょう。二、三年のうちにできると思っていますから、私のところに來た感触では。そういうところを1つ1つきちんきちんとやってください。私はこの点については終わります。

その次に、MANGA共和国の事業化についてでございますけれども、これについて私はまず最初に——今の虫食い状態の用地取得ではどうにもならないです。これは平成11年までにできますか。53%です。この図面を見てください。もうめっちゃくちゃです。何でこんな右左、上下でもって買って行って——例えば、運動公園なら運動公園のところを重点的に買っていくとか、MANGA天国のゾーンはMANGA天国で買って行って、そこだけでも分譲できるというんならいいけれども、ことしの3月に提案されたのだからあっちこっちです。道路をつくるにしたって排水をつくるにしたって何にしたって、何もできないじゃないですか。それでもって、平成11年までにどの程度そういうの見通してつくるんですか。1億そこそこの買収しかない。毎年買収の面積が減っています。私は全部調べました、予算書で。ずっとダウンしています。そうすると、MANGA共和国といったって、土地が確保できていないところにどうして実現できるんですか。今と同じです。少なくとも平成11年まではどうにもなりませんよ、こんなの。今の買収状況でいきますと、5年先でも私は、道路をつくったり排水をつくったり、そういうことについては難しいと思います。大転換をして、部分的に、計画的にゾーンから買っていくとか、そしてこれを2倍、3倍の買収速度で進めない限りはどうにもならないじゃないですか。この点の見通しはどのように考えているのか、まずお伺いしたいと思います。

◎議長（山中金治郎君） 建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） 全体的な土地の見通しということでございますが、先ほど御答弁申し上げたとおり、現在進められております計画内容の具体化とあわせて土地の買収に当たってなかなかならぬ。一応の計画では、平成9年、10年、11年ということで目標を立ててございます。その間に全体の面積29万平方メートルを買わなきゃならぬ、ということで、これからその具体



化とあわせて事業の進みをスピードアップさせていきたい、このように思っているわけでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 辻田さん。

◎1番（辻田 実君） それはそういうことでもってひとつ進めてください。実際に今のままですと、それはもう幾ら言ったって、絵にかいたもちでもってどうにもなりません、土地が確保できていなければ。私はやめなさいとは言いません。まず第一は土地の確保です、これができなきゃどうにもならないわけですから。私は予算をつぎ込んでも — 先ほどの脇田議員の質問じゃありませんけれども、大変厳しい中でもって、これ以上起債をふやすなんていったら、もうパンク寸前ですから — もう13%まで幾つもあります。13%だと指導でもって、15%になりますと国の干渉が入るというようなことが言われているわけですから、館山も危なくてしょうがなく、余り進められませんけれども、とにかくMANGA共和国というのは庄司市長の一つのレッテルですから、これがだめになったらもう庄司市長なんて何だということになっちゃいますから、大変な問題です。その中身がそういう実態ですと、これから3年、4年先にどうなるか、目に見えていると私は思います。ですから、私は市長の立場に立って、このままじゃ大変なことになりますよということを言っているわけですから、ひとつそういう気持ちでもって、職員の方も市長も頑張って土地の確保をして、MANGA共和国にいつでも来てくださいというところに持ってください。その点はきついけど、言っていることを実際やらなければ — できませんよ、土地がないんですから。幾らきれいごとを言ってパンフレットをつくったってだめなんですから。その点について、ひとつきちんとしてください。

さっき市長の答弁の中では、買収は11億 6,000万、これはわかっています。現在、元金は幾ら返済して、幾ら残っていますか。そして、平成8年度に払った元金と利息、これは幾らなのか、教えてください。

◎議長（山中金治郎君） 建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） お答えいたします。

まず、平成3年度から平成7年度までに財産取得を行いましたのは、取得先は千葉県の地方土地開発公社でございます。したがって、その金利は変動金利で毎月変動いたしますが、長期プライムレートから0.2%を引いたもので、10年返還で、これが2.9%となっておるわけでございます。先ほどお答えいたしましたとおり、現在までの用地取得金額が11億 6,015万 5,861円という形になります。そのうち平成7年度までが10億 6,400万 461円、これが千葉県土地開発公社に支払われるわけでございますが、現在までに支払われた元金が4億 2,263万 461円、それに利息1億 3,493万 1,918円、合計いたしまして5億 5,756万 2,379円、このような形で支払われており

ます。今後、この千葉県土地開発公社へ支払う元金が10億 6,400万ですから、4億 2,000万を引いた残りはまだ支払わなきゃならぬということで、支払いの年度が平成16年という形になるわけでございます。そのうち利息が1億 9,264万 5,843円、計算上はこうなるわけございまして、合計が12億 5,664万 6,304円 — これは変動金利を用いますんで、若干は変わると思いますが、これが千葉県の土地開発公社に支払われる金額でございます。

それから、平成8年度に買いました — これは、土地開発基金を使って 9,615万 5,400円を買いました。これも今後 — 平成9年、10年、11年ということになりますと、市中銀行から借り入れて、それも10年返還あるいは15年返還というような形の中でこれを支払っていくということになります。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 辻田さん。

◎1番（辻田 実君） 今この金利負担だって大変なんです。市長が言いましたように、11億 6,000万の元金でもって借り入れたんです。これから利息、元金の返済が10億あるというんでしょう。倍以上返済しなきゃいけないんです。合わせると二十何億です。これからまた買収していくんですから、同じぐらいのを。そんな財政の余裕なんて今館山市にないです。MANGA天国ができなかったといたらどういうことになりますか、その点も真剣に考えてもらいたいと思います。時間がありませんので、これ以上しませんから。

最後に一つだけ聞いておきます。土地の買収に当たって、評価額の — 鴨川市では、山林は一律にリゾートについては 5,000円で買っているそうです、全部。館山市は1万円です。さっき言ったように、評価額はぐっと下がっています、県の公表でもって。ことしの2月にも46%減でもって修正しているんでしょう、宅地については。それでもって、さっき申しましたように、5,000円の土地を1万円でもって買っているというようなことが明らかになったら — 公金でもってそういうことをしたら大変なことになるということは御承知でしょう。NTTの損害額以上ですよ、これは。罪の意識はないかもわかりませんが、その点については今後慎重を期してください。指摘だけでもって終わります、時間がありませんから。

◎議長（山中金治郎君） 以上で1番議員辻田 実さんの質問を終わります。

暫時休憩いたします。

午後3時30分 休憩

午後3時45分 再開

◎議長（山中金治郎君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次、11番議員秋山光章さん。御登壇願います。

（11番議員秋山光章君登壇）

◎11番（秋山光章君） 皆さん、こんにちは。秋山でございます。御苦労さまです。

私は、既に通告をいたしました3点につきまして質問をしていきたいと思いますが、何しろくじ運が悪く、6番目の登板ということで、先輩諸氏が質問をされた問題もあり、重複するところがあるかもしれませんが、お許しをいただきたいと思います。

今、テレビ、新聞を見ますと、今世紀最大のビッグプロジェクトであります、世界でも最先端の土木技術が投入された東京湾横断道路——東京湾アクアライン、木更津人工島海ほたるの話題で持ち切りであります。総事業費1兆4,823億円、工事にかかわった人は延べ400万人だそうですが、この橋が構想から三十余年を経て、本年中に開通する予定であります。

私も、九重地区の各種の団体等で、千葉県の船で海上から、またバスで木更津人工島までと、何回か視察をさせていただき、開通前にしてすばらしいな、大変な工事だったなと実感してきました。お年寄りの方々との話の中で、久里浜のフェリーだって大したものなのに、私たちの目の黒いうちに橋とトンネルを使って横浜や川崎に行けんだのうと大変喜んでいます。

ことしの日本の10大ニュースのトップ記事になるかとは思いますが、沼田千葉県知事は、東京湾アクアラインの海底トンネル下り車線が貫通して、トンネル内で開かれた貫通式で、横断道路は京浜地区と隣接し、首都圏とも近くなり、千葉県の半島性解消になると、アクアラインの経済効果をこう表現して胸を張ったそうであります。また、地元選出の中村正三郎先生のお話を伺ったところ、アクアラインの次は東京湾湾口横断道路として、三浦岬から富津までの道路とアクアラインの間に空港をつくりたいという話を聞き、大変すばらしい構想であり、早期の実現を願っている一人であります。

この道路、アクアラインは、自動車専用道路としては世界最長であり、1メートルつくるのに9,800万円、約1億円かかり、また通行料金も、普通車で今のところ5,050円と、1キロ走るのに334円かかるそうであります。1キロ当たり走るのに25円の東名高速道路の13倍、ちょっと通行料金が高いなと思いますが、これで千葉の県南も首都圏の環状線として位置づけられるわけがあります。

京浜地区と千葉県を比べるのがよいかわかりませんが、安房、君津では、土地の単価はもとより、ゴルフなどは大変安くプレーができるということで、今でもフェリーボートで大勢のゴルファーがやっています。また、私どもが川崎、横浜に行きますにも、館山から木更津を経て、東関東自動車道から湾岸道路を通り、首都高速羽田線を経て、横浜まで早くても3時間がかかります。アクアラインを使えば、2時間で行けるようになると思います。そうしますと、買い物やレジャーの幅が広がり、物の流れも活発になり、夢のかけ橋として、首都圏の皆様がこの南房州にたくさん来てくれると期待をしているものであります。

そこでお伺いをいたします。アクアライン開通に伴い、館山市としての経済効果と今後の産業

の振興についてどのように考えているか、お伺いをいたします。

次に、房総といひましようか、安房、館山にはすばらしい自然がたくさん残されております。日本の道百選に選ばれた平砂浦、鏡ヶ浦の霊峰富士を望んでの夕日、ただいま進行中の人工ビーチ、沖ノ島の釣り海水浴等、国、県、市の施設や、館山市には 31. 有余キロの海岸線があるところから、白砂青松の地等で見どころがたくさんあります。そういうわけで、必然的に自動車ではないと動きにくいところかと思ひます。

そこでお伺ひいたします。東関東自動車道の本更津富津間と高規格道路 127号富津館山間の進捗状況、また、土日、祭日、ゴールデンウィーク、夏休み等到大変交通渋滞を起こす金谷から鋸南町への国道 127号を高規格道路竹岡インター岩井勝山インターの間で供用はできないのか、お伺ひをします。

次の質問に入ります。アクアライン開通に伴ひ、我々も神奈川方面に走って行ってみたいと思ひうし、逆にたくさんのお客様が南房州に来てくれると思ひます。このお客様に館山の産業や観光地の紹介等々をするところがないといけないと思ひます。また、それが館山としての情報発信基地となるところであります。名前はいずれにしても観光物産センターかと思ひます。

館山市の平成11年度までの根幹事業計画の中には、平成9年から10年まで、事業内容の中では検討としか書いてありません。平成11年にやっと事業調査と書いてあります。調査を何年かして、よかったら設計、建設となるのでしょうか。できるのかできないのか、あと何年たつて稼働し、情報の発信ができるのか、後手後手に回っていることがとても心配です。館山市商工会議所からの陳情や、昨年の本橋、宮沢両議員の質問にもありましたが、その後どのように進んでいるか、お伺ひをいたします。

次に、世の中週40時間制が定着して、週休2日でたくさんの方が園芸を楽しんでいると聞いております。また、土いじりをしていると人間ぽけないとも言われているせいでしょうか、京浜地区の貸し農園は大変需要が多いそうです。

そこで、立地的に、アクアラインを使えば、首都圏より短時間で来られる安房の地であります。そして、ここには減反や就農者不足でたくさんの方畑があひています。どうかこれらを有効利用するために、また都会の皆様には泊2日で農業を楽しんでいただき、館山の本当のよさを知っていただき、またこれを機に永住でもしていただければ大変ありがたいなと思ひながら、私は5年前に市民農園について通告をいたしました、時代も変わつております。今、市民農園を館山市でつくる気はありませんか。

また、これからの農業、漁業は、館山市としては、首都圏からの距離が縮まり、短時間で生産物を流通させることで、いろいろな面でビジネスのチャンスがあるかと思ひます。この中でも、観光農漁業も選択の一つと思ひている私です。見てさわつて、味を見て、におひをかいで、感動

してまた来てもらえる、そんな農漁業を提案するわけですが、隣の町にはすばらしい第三セクターの会社があり、すばらしい職員が、農漁業はもとより、地域の発展のために大変役に立っていると聞いておりますが、そんな指導者といいたいでしょうか、ナビゲーターを育てていかないといけないと思いますが、いかがお考えでしょうか。

次に、先ほどよりお話ししていますように、これから館山といいたいでしょうか、安房にはたくさんの方が車で観光に来てくれると思います。しかし、このお客様がホテルや民宿を使って何日か連泊して、お金をたくさん使ってくればいいのですが、今、安近短といって、近いところでお金をかけずにゆっくり二、三日過ごす旅がトレンドとされています。

アウトドアブームであります。館山にもアウトドアの専門店もでき、RV車やキャンピングカーで移動している人がたくさんいます。きのう、おとといの休日にも、127号バイパスを何台かの大きなキャンピングカーが走っていきました。どこでキャンプをしたのかわかりませんが、そのうち館山でもオートキャンプができるよと言ってあげたいような気分でした。

そこでお伺いをしたいと思います。館山市としてオートキャンプ場をつくる考えはありませんか。

次に、通学道路についてお伺いいたします。今、日本じゅうで、いえ、世界じゅうで痛ましい事件、事故が多発しております。その中に子供たちの巻き込まれる事件、事故がたくさんあり、親はもとより、学校現場の先生方も指導や学区の点検で大変かと思います。神戸市須磨区の小学生の事件など、人間として考えられない事件であります。そして、まだ何件かの解決できていない事件があり、人のこと、よそのこととは言っていない昨今であります。

そんな中で、先日、6月7日夕方6時30分ごろ、まだ明るい時間だったのですが、私どもの近くで、酔っぱらい運転の車の追突事故に巻き込まれ、自転車で部活帰りの女子中学生が骨盤骨折と足首の複雑骨折という痛ましい事故が起きました。この子は、学校で教わったとおりの道を、ヘルメットをかぶり、学校で教えたとおりの通学方法で事故に遭ってしまいました。

自転車専用道路でもあったらなと思いながら、私は車で市内の学生の通る道を走ってみました。大部分の道で路側帯が狭く、自転車が安全に走れる道ではありませんでした。これでは通学道路としてはどうかと思うところがたくさんありました。また、街路灯などが1キロくらい全然ないところがあり、日が短くなる秋から冬にかけ、大変危険だと思うところがありました。

そこでお伺いをいたします。館山市として、通学路の安全対策としてどのような取り組みをしていますか、お伺いをしたいと思います。

次に、工業団地についてお伺いいたします。過疎化に悩むこの地に工業団地の話があり、それから何年となく用地買収、地元との話し合い、議会との話し合いをしているうちにバブルが崩壊して今に至るわけですが、景気の先行き不透明感から企業の設備投資が鈍化しているのを

反映して、日本じゅうの工業団地は分譲完了したところが少ないと聞いております。

この中で、千葉県としては新しい工業団地はつくらない方針ということを出しました。この中で、館山工業団地はいまだに進入路がもめていて、このままでは企業進出募集中の館山工業団地が千葉県企業庁からストップと言われなくても限りません。働く場所の少ないこの安房の地にいつときでも早く工業団地の完成を願っているものであります。

そこでお伺いをいたします。館山工業団地の進捗状況を教えていただきたいと思います。

以上質問いたしました、御答弁によりまして再質問させていただきます。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの秋山議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、アクアラインの受け皿についての御質問の第1点目、館山市としてどう考えるか、開通に伴う経済効果についてということでございますが、先ほど辻田議員にお答えしたとおりでございますが、今後の産業振興策につきましては、昨年度実施いたしました産業振興方策策定調査の中で種々の方策が示されておりまして、議会にその概要の報告をする予定でございます。今後とも産業の振興に努めてまいりたいと考えております。

第2点目の東関東自動車道館山線等の現況についての御質問でございますが、館山自動車道の木更津富津間21.6キロメートルにつきましては、道路の中心線測量、土質調査などがほぼ完了し、路線についてより具体的な計画に入っていると伺っております。また、高規格 127号富津館山道路20.4キロメートルにつきましては、路線全体として用地取得については9割以上、工事についてはおおむね6割の進捗状況であり、竹岡インターチェンジから岩井勝山インターチェンジの区間について、早期供用開始を目指して事業が進められていると伺っております。今後も引き続き国、県等へ要望活動等を実施し、路線の早期供用開始に向け働きかけてまいりたいと考えております。

第3点目のアクアライン開通に伴う観光物産センターについての御質問でございますが、さきに辻田議員に御答弁申し上げましたとおり、現在（仮称）館山観光物産センター検討委員会を設立する準備を進めているところでございます。委員の内容としましては、館山市商工会議所、館山市観光協会の中から既に内定しているところでございます。

第4点目、農漁業の振興についての御質問でございますが、東京湾アクアラインや道路網整備により、首都圏からの時間距離が短縮される中で、将来的にはレジャーを兼ねた貸し農園に対する需要も考えられます。しかしながら、このような事業には農業関係者の参画や観光事業との関連が必要であり、今後のニーズの高まり等によりまして検討してまいりたいと考えております。

また、ナビゲーターの育成についてでございますが、情報の受信、発信は地域の振興に重要な

ものと認識しております。今後、道の駅や観光物産センター等の整備とあわせまして検討をしていく課題と考えております。

次に、5点目のオートキャンプ場についての御質問でございますが、オートキャンプ場の整備に当たりましては、周辺環境との共存、騒音、他の宿泊施設との競合など、いろいろな課題や問題点が多いと考えております。したがって、市営のオートキャンプ場の開設につきましては今のところ考えておりません。

大きな第2の通学路の安全対策の問題につきましては、教育長より御答弁申し上げます。

大きな第3、館山工業団地の進捗状況についての御質問でございますが、工業団地区域内の用地につきましては、自然緑地の一部を除いては全部取得いたしました。進入道路につきましては、用地取得とあわせて築造工事を進めているところでございます。稲川排水路整備につきましては、現在千葉県で整備している新田中橋の完成を待って、順次下流より整備する計画となっております。企業誘致につきましては、千葉県企業庁との連携を図りながら進めているところでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 高橋教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） 大きな第2、通学路についての御質問でございますが、各学校において、児童、生徒の通学の実態を把握し、PTAや地域と協力し、安全な登下校をするよう指導しております。館山市全体といたしましては、交通安全担当者会議において各学校の要望を取りまとめ、関係機関との連携をとり、通学路の安全対策を図っているところでございます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 11番秋山さん。

◎11番（秋山光章君） 答弁ありがとうございます。私も、いろんな方が前にいろんなことを言っちゃいましたんで、言うところが狭くなっちゃいましたんですけども、少し聞いていきたいと思います。

館山市の経済効果としてお伺いをしたわけでございますけれども、交通がふえたり対流要素ができる、これはもう当たり前のことですけれども――産業振興方策ですか、根幹計画にも入っておりますけれども、平成8年に実施をいたしました産業振興方策アクションプランですか、これは議会に報告するということですが、いつごろどのような格好で報告できるのか、お伺いをしたいと思います。

◎議長（山中金治郎君） 企画部長。

◎企画部長（寺嶋 清君） 先ほど市長の方から議会に御報告するというふうな御答弁を申し上

げたわけでございますけれども、私どもといたしましては、なるべく早い時期に報告をするように今準備を進めているところでございます。産業振興方策 ― 各産業の分野からいろいろな振興方策の提案が出されておりますので、そういった提案メニューの1つ1つにつきましても問題点、課題点がそれぞれあるわけでございますので、そういったものも具体的に示しまして ― このような形で進めていくというふうに考えております。

方法につきましてでございますけれども、全員協議会を予定しております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 秋山さん。

◎11番（秋山光章君） これはいつごろというのはまだ目安つきませんか。

◎議長（山中金治郎君） 企画部長。

◎企画部長（寺嶋 清君） いくつか日というところまで来ておりませんが、なるべく早い時期にさせていただきたいと思っております。

◎議長（山中金治郎君） 秋山さん。

◎11番（秋山光章君） 言葉はうまく使えばあれですけども、早い時期にということですけども、それこそとしじゅうにその道路、横断道路が開通しちゃうわけで、少なくとも今よりも、観光客の入り込み等、いろんな商売等の関係で広がると思うんです。だけれども、今やってももう既に遅いんじゃないかと思うんです、いろんなことが。もう少し早目にいろんな情報を収集してどんどん発信をしていかないと ― 後手後手に回っているのはもう確かだと思うんで、もう少しいろいろな面を先取りしながらやっていただきたいなと思っておりますけれども、どうなんでしょう。次の9月の議会ぐらいまでかかりそうですか、それとももっと前に出そうですか。

◎議長（山中金治郎君） 助役。

◎助役（小幡清之君） 9月議会前には何とか開催したいと考えております。8月に入りますか、とにかく早い時期ということでございます。

◎議長（山中金治郎君） 秋山さん。

◎11番（秋山光章君） これは平成8年度ですから、3月までに終わっているやつを今まとめているのかと思っておりますけれども、それを早目に出していただいて、市民の皆さんに報告ができればいいなと思うところでございます。

次に、道路についてお伺いをしたいんですが、いろいろな面で働きかけをしていることは確かだと思うんですけども、私も何回かこれについても質問してあると思っておりますけれども、本当に供用できるのはどのくらいというか、橋とかトンネルとかがまだできていないところはあるのかどうかと、いつごろ供用ができるのか、ちょっと教えていただけますか。

◎議長（山中金治郎君） 建設部長。



◎建設部長（鈴木信一君） 木更津富津間21.6キロ、それから富津館山間の高規格 127号富津館山道路、これは約20.4キロあるわけでございます。そのうち、高規格 127号富津館山道路の竹岡インターチェンジから、これは仮称でございますが、岩井勝山インターチェンジまでの間11.5キロについての早期の供用開始を目途として事業が進められておるということでございます。

なお、この間には相当な橋とトンネルがございます。この間に総体的に — 富津館山道路約20.4キロの中には橋梁が38橋ございます。完成が11基、工事中が10基、未着工が17基ということでございます。それから、トンネル部分については、16本トンネルがございまして、完成が7本、工事中が4本、未着工が5本、このように聞いております。

いずれにしても、竹岡インターから岩井勝山インター、この間はできるだけ早い供用開始をお願いをして、交通をさばきたい、このように考えております。これは建設省所管の事業でございますので、要望等を強力にしまして、一日も早い供用開始をお願いをしてまいりたい、このように思っております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 市長。

◎市長（庄司 厚君） この問題は非常に難しゅうございまして、建設大臣も言葉に出さないんです。といいますのは、御案内のとおり、これはかなり用地買収が進んでいますから、金があればどんどん仕事ができるんですけれども、公共投資7%削減とか何とか、こういうのが出ていますから、これは国全体の予算の関係で動きますんで、館山自動車道だけぱっとやるというわけにはなかなかいかぬ。逆に建設省の方から — 私は実はこの建設促進期成会の会長をやっていますんで、逆に大蔵省の方に陳情に行ってくださいと要請を受けているくらいなものでございまして、いつまでにでき上がるということは、この席ではとても申し上げるわけにはまいりませんし、わからないんですけれども、なるべく早期にということで陳情をやっているのは、これは繰り返してやっていますけれども、そういうことで御了解賜りたい。よろしくお願いします。

◎議長（山中金治郎君） 秋山さん。

◎11番（秋山光章君） そうしますと、岩井勝山インターから金谷まではどうなんですか。今は竹岡までのお話がありましたけれども、金谷のフェリーの先ですか、あそこまであれば多少渋滞が緩和できると思うんですけれども、その間でも、建設省へお願いをしてでもだめなんですか。

◎議長（山中金治郎君） 建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） 問題は、保田から金谷の今の一般国道 127号の道路が非常に — その横断道路ができた時点での交通停滞が叫ばれているわけなんです、できるだけ — その場所はちょっと確認はしてございせんが、いずれにしても竹岡から岩井という間の早期の供用開始

を目指す、こういうことでございます。

◎議長（山中金治郎君） 秋山さん。

◎11番（秋山光章君） 金谷から竹岡は結構山がありまして、トンネルとか橋とかがたくさんある。金谷のトンネルは、私も通らせてもらいましたけれども、もう既にできています。そこだけでも通らせてもらえればいいと思うんですが——実は今でも交通渋滞が大変激しく、それこそ私どもが東京へ行っても、410号、山の中を通ってきた方が早いぐらいで帰ってくるんですけれども、もう一本横断道路ができてたくさんの車が入ってきたときに、一回来ただけでうんざりしちゃうと思うんです。逆に房州のイメージダウンにつながるんじゃないかなと思うんで、ぜひ——横断道路、アクアラインはありがたいんですけれども、こっちの道路も一緒にあわせてやっていかないといけないんじゃないか。とりあえず岩井勝山インターから金谷まで抜けられれば、フェリーの待ちのお客が抜けると思うんで、ぜひそっちの方でも要望してってもらいたいと思います。

続きまして、館山市に車が入ってきたときに、都市計画道路青柳大賀線があるわけでございますけれども、あと、このバイパスから——127号があって、文化ホールの前を通っていった先に、八幡高井線ですか、あそこで館山へ少しお客さんも入れるかと思っておりますけれども、それから道路ができちゃいますと、この都市計画道路の青柳大賀線がないと、そのまま白浜の方へ調子のいい車は走ってっちゃうと思うんです。少しでも館山に入ってもらうためには、この都市計画道路青柳大賀線の——館山市内入り口というようなでっかい看板がこのバイパスにつかないと、お客さんは——館山に来たというわけじゃなくて、安房、房州に遊びに来たときに、少しでも館山に寄っていただけるために、やっぱり青柳大賀線も早くつくってもらって、市内に誘導をしたいわけでございますけれども、これの進捗状況を教えていただきたいと思います。

◎議長（山中金治郎君） 建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） 国道410号からのバイパス、それから、途中から都市計画道路青柳大賀線ということでつながるわけでございます。まず、その国道410号の——通常北条バイパスと言われておりますが、これが2.3キロございまして、その計画も一応平成12年を目途として行っておるということでございます。それに合わせて都市計画道路青柳大賀線の約760メートルにつきまして、国道410号北条バイパスから下真倉区域——国道410号までをこの工事は行っているわけでございます。国の緊急地方道の整備事業を受けてこの工事を進めております。平成12年の北条バイパスに合わせたの——一つの目標として工事を進めているところでございます。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 秋山さん。

◎11番（秋山光章君） その中に、先ほど脇田議員からいろいろお話もありましたけれども、

繰越明許費 — 前回土地も買えなかった、工事もしなかったということで、今回 6,500万ばかり平成9年度に持ち越してあるんですけれども、どうなんでしょう。地権者との話し合いはどのような進捗状況でしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 建設部長。

◎建設部長（鈴木信一君） 一部契約が調いまして、もう今行っております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 秋山さん。

◎11番（秋山光章君） とにかく、お金があるないはありますけれども、やはり出すところには出して、なるべく早目に完成をしていただきたいなと思います。

あと、これは建設省の関係かもわかりませんが、国道127号線にバイパスを含めてトイレが1カ所もないんです。このことについて — トイレがないということは、休むところがなく、お客さんはそのまま情報も得ないで真っすぐに白浜の方へ行っちゃうということですと、今館山を通り過ぎたのかななんて思うぐらいのことかと思いますんで、トイレを含めてのそういう施設をつくる気はありませんか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 観光客を対象にしましたトイレにつきましては、船形から、それから相浜の方まで、特に海岸沿いに逐次整備を進めているところであります。船形は今年度ということでございますが、127号のバイパスの方につきましては、特に計画年次等はないわけでございますけれども、なるべくならば館山市内の方に寄っていただきたいという願望もございますけれども、やはり今御質問がございましたような、そういう観光案内とか、いろんな部分も当然、幹線道路ということでございますので、必要性というのはあるかと思います。先ほどいろいろ御質問がございました観光物産センターとか、それに類似するような施設等の検討の中で考えてまいりたい、このように思っております。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 秋山さん。

◎11番（秋山光章君） すばらしいトイレは観光地のバロメーターとも言いまして、トイレがないとだれも寄ってくれないし、寄ればまたいろんな情報も入って、こんなところがあったんかということだと思いますけれども、やっぱりバイパスには一つ何かあってほしいな、大きい看板とすばらしいトイレがあってほしいなと思います。

次に、観光物産センターに — これも辻田議員がいろいろやりましたんで、私も困っているんですけれども、検討委員会ができるということでございますけれども、これは予算措置などは — 私も予算書を見たんですけれども、どこに入っているかわからないんですけれども、予算の

方は措置してあるのでしょうか。そして、検討委員会のメンバーは先ほど――商工会議所、観光協会ということだと思いますけれども、市の方はだれも出ていなくてよろしいのでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） まず、最初の御質問の予算措置でございますけれども、当初予算には計上はいたしてございません。ただ、この検討委員会の活動の過程で必要な予算につきましては、補正等で対応を考えております。

それから、検討委員会のメンバーでございますけれども、いわゆる民間サイドといたしましては、先ほど市長の方から答弁がございましたように、商工会議所を中心といたしまして、物産関係の中には団体もあるわけでございますが、その人たちを含め、さらに観光協会を含めまして、一応4名ということでございます。それから、行政サイドといたしましても同じ4名。8名ということで検討委員会を構成をいたしております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 秋山さん。

◎11番（秋山光章君）きのうもある会議で商工会議所の会頭が物産センターの話をしていて、それこそすぐにでもできるような、つくってもらえるような話をしていたと聞いておりますけれども、この予算措置がしてないということは、つまり検討委員会をつくるにしても、お金がかからずにできると思ってしなかったのか、それとも物産センターのことは予算に入れる中で考えていなかったのかどうか、厳しい言葉ですが、ちょっとお伺いしたいと思います。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） この検討委員会の役割でございますけれども、基礎的な調査というようなものに主眼を置いているわけでございまして、いろいろな資料収集とか先進地の視察というようなことで考えているわけでございます。どういうことを調査するんだということでございますが、例えば立地場所、それから機能、それと建設主体、管理運営主体、採算性というようなものを先進地等を視察することによりまして調査をしてまいりたい。この中で、視察ということになりますと旅費がかかるじゃないかというようなこともございますが、市のバス等を活用して対応していきたい。ある一定のそういう基礎的な調査ができ上がった段階で、次には建設に向けてのそういう組織にバトンタッチをしていきたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 秋山さん。

◎11番（秋山光章君） 後からいろいろつけられるもので――予算措置とかでも、本来なら、やるのであれば初めからびしっとやって、物産センターをつくるんだから、お金はこれだけ予算措置をしたよということで、予算案の中に出していただけた方が本当にやる気があるような気が

したんですけれども、ぜひそういうことで — この物産センターは、それこそ本当の情報の発信の基地だと思います。場所はこれからも検討していくんでしょうけれども、海岸になるのか山の方になるのかわかりませんが、もしビーチの方につくるようであれば、私も前からお話ししてありますけれども、噴水も一緒に上げてくれたらありがたいなと思っています。

続きまして、農漁業のかかわりということですが、県のアクアラインの影響調査で、都市住民の約7割が機会があったら南房総の農山村で余暇を過ごしたいと回答したそうでございます。そして、花と果物をテーマにした — 今、館山といいましょうか、この安房の地は、花と、そしてビワとか、そういう果物、そんな安房であってほしいという — これは県の農林部ですか、調べた調査があったわけですが、私もこれは本当に同感でございます、館山市にそういった花と果物をテーマにした、首都圏のお客様を受けられる施設というんですか、そういう首都圏住民の田舎になるような、田舎としての役割が果たせるような、そんな館山市になってほしいと思いますけれども、部長さん、何かそれについてありますか。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 交流人口をふやすという考え方の中でいけば、当然立地条件、環境等をそんたくいたしますと、将来的にはこういう計画というものは十分考えられるというふうに私ども受けとめております。ただ、先ほども市長の方からございましたように、これはやはり実際にそういうテーマパーク的なものでつくっていくのか、もしくはもう少し農家の皆さんの御参加をいただきながらやっていくのかというような部分も、いろいろとこれまた議論の必要があるか、このように考えております。以前、やはり観光農業ということで、花を栽培している団体の皆さん方とお話をしまして、そういう観光農業的な事業の導入についてどうかというお話をしたことがありますんですが、たまたま館山市の農業形態は、いわゆる生産農業といいますか、そういうふうな方向づけの中で、流れとしては理解できるけれども、今はそういう環境にはないというような、そういう経緯もあるわけですが、したがって、そういう関係者の皆さん方と、決して後ろ向きということではございませんで、話し合いを進めてまいりたい、このように考えております。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 秋山さん。

◎11番（秋山光章君） 今私の言ったことは貸し農園等に当たるわけかなと思いますけれども、今年度イチゴ狩りのお客様が少し減っているやに聞いております。それはどういうわけか、わかったら教えていただきたいと思います。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 先般もイチゴ組合の方とちょっとお話しする機会がございまし

たんですが、これが原因だというようなものはないというのが実情でございまして——ただ、話の過程の中で、いわゆる競争が出てきたと。東金、茂原、それから、規模は小さいんですが、富浦でもイチゴ狩りを始めたというようなことの中で、その辺も一つ原因があるのかということと——ただ、これはやはり期間的な中で、自然現象というか、天候にも左右されるという部分と、それから休日が連休になるかならないかというような部分もございまして、私どもの判断といたしましては、多少そういう競争的な部分もあろうかとは思いますが、この入り込みの変動というのは決して特定の理由があつての変動ではないのではないかとこのように受けとめております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 秋山さん。

◎11番（秋山光章君） このイチゴについては、今度の予算で、野菜産地総合整備事業でイチゴの鉄骨ハウスをことし4棟、そして来年3棟、その次3棟ということで、こういうふうにする気があるイチゴ生産組合だと思いますので、ぜひ協力をしていきたいなと思っております。

次に、オートキャンプのことなんですが、館山市のビーチ利用促進モデル事業の基本構想の中にキャンプ場が、今の下水道処理場ですか、あの前あたりに、地図に載っていたんですけども、その後の基本計画からその地図の中に載っていないんですけども——これはオートキャンプじゃなくてキャンプ場なんですが、載らなくなったのはどういうわけか、教えていただきたいと思っております。

◎議長（山中金治郎君） 企画部長。

◎企画部長（寺嶋 清君） ただいまの御質問でございますけれども、ビーチ利用促進モデル事業の中で、当初計画と申しますか、当初の構想の段階では、おっしゃるとおりキャンプ場というのがございました。東貨健保のちょうど海岸寄りになる位置でございますけれども。その後、事業化に向けましての基本計画を作成するために設置をされております館山港海岸環境整備検討委員会の中で、現時点では立地条件等にいろいろ整わない点があるというようなことで、キャンプ場というのはとりあえずおっしゃるとおり削除されまして、ただいま緑地ということでもって計画をされております。いずれまた、環境の変化あるいは立地条件等によりましては、またどうしても必要ということであれば、県の方にも協議をしてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 秋山さん。

◎11番（秋山光章君） そうしますと、場所がキャンプ場に合わないからということだと思いますけれども、どこかほかを考えたことがありますでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 企画部長。

◎企画部長（寺嶋 清君） ビーチ利用促進モデル事業の中では今のところ考えておりません。

立地条件等の問題があるということで先ほども申し上げましたわけでございますけれども、やはり風紀の問題ですとか、あるいは騒音の問題等々、周辺の環境との共存といいますか、共生といいますか、そういった面でちょっと問題があるというようなことでございますので、今後また検討してまいりたいというふうに考えております。

◎議長（山中金治郎君） 秋山さん。

◎11番（秋山光章君） わかりました。

騒音とかごみだとか、いろいろなものが出るのは確かなんですけれども——それこそ私は毎年ごみのことをやってきたんですけれども、皆さんにそれぞれごみを先にやられちゃいましたけれども、キャンプ場をやれば、やはりごみがいっぱい出るわけなんですけれども、これもちんとした設備を整えておきさえすれば、外にこぼれないようにとか、いろんな設備をやっておきさえすれば——今、キャンプの人口は大変ふえておりまして、公営キャンプ場が大変ふえております。これは国から——建設省ですか、3分の1か何かの補助が出るわけです。建設省、運輸省、農水省、林野庁、環境庁ですか、そういうところから補助が出て、結構安くできるんで、ぜひやってもらいたい中で、私がずっと言ってきましたごみ——先ほども脇田議員のお話がありましたけれども、ごみのポイ捨て禁止はまだ館山でなされないわけでございますけれども、南房黒潮観光協会——千倉と白浜と館山でやっているその協議会と安房郡市環境衛生部会でやったと思いますけれども、その中の内容などが——何で館山だけできないのか、教えていただきたいなと思います。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 館山だけできないということではございませんで、さきにも秋山議員さんの御質問にお答えしましたように、やはり一定の広さを持つ地域の中で実施をする方が実効性が高いだろうというようなことで、先ほどお話のございました安房郡市の環境衛生担当課長で組織しております環境衛生部会でございますが、そこで、既に3市町が先行しているわけでございますけれども、まだ制定していない市町村も含めまして、やはり安房という一つの広がりの中でそういう条例を制定して取り組んでいくということは大事だという認識があったわけでございます。その中で、それぞれの市町村がそれぞれの事情の中で順次その条例を制定をしていくということでございます。したがって、富山町さんは6月ということでございますが、そのほかの町村におきましては9月、来年の3月、さらにはまだ未定というような、そういう町村もございますが、基本的な認識の中では、そういう条例を整備をしていくということではコンセンサスを得ていると。館山市につきましても、先ほど脇田議員さんの御答弁で、遅くとも年度内というようなことで御答弁申し上げてございます。いろんなほかのところも参考にしながら、また館山市としてのそういう事情等も含めた上で、条例の制定に向けて進めていきたい、このように考えております。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 秋山さん。

◎11番（秋山光章君） 房日新聞のコラムの中に館山市の人が、鴨川市では4月からごみのポイ捨てに対して罰金制度が実施される、館山市の一市民として非常に関心が高いところだと書いているんです。今、9月にそのポイ捨て禁止条例をやるところもあるやに聞いておりますけれども、どうでしょうか。この議会で上程できないでしょうか。それこそ本当にみんなが関心のあることだと思うんです。新聞のコラムにもいろいろ出ています。まして、館山市の人が鴨川はうらやましいな、こういうふうな房日新聞に出ているんです。それで、もう9月からやるところがある、年内にやるところがあるということなんで、ぜひ館山で早目にやってもらいたいと思いますけれども、いかがでしょう。

◎議長（山中金治郎君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） なるべく早い機会にということで、努力はいたします。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 秋山さん。

◎11番（秋山光章君） そんな返事じゃ当てにならないけれども、しょうがない。

それでは、通学路についてお伺いしますけれども、交通安全対策会議でいろいろ通学路について調べているということでございますけれども、その内容と対策、ひとつあったら、1個でいいですけれども、教えていただけますか。

◎議長（山中金治郎君） 教育長。

◎教育長（高橋博夫君） この安全対策につきましては、今までは各セクションで別々にやっておりましたけれども、なかなかその連絡が密になりませんので、昨年度からは一緒にいたしまして、学校、それから町内、警察、それらが一緒になりまして、それぞれ学校別に、標識類、カーブミラー、ガードレール、ガイドパイプ、路面標示、道路照明、その他という項目で、それぞれの学校の地域で問題点は何であるかということを明示し、それを協議し、そしてそれを運動化していく。そして、即刻やれるものについては学校内で、それからある程度年度をかけるものについては、またそれぞれの機会に、それから長期的なものについては、いろいろの関係機関でどのような展開を全体計画の中で立てていくかということで、現在は実施しているところでございます。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 1カ所訂正させていただきます。

先ほど館山自動車道の富津から鋸南にかけましてのあの道路の促進問題につきまして、ちょっ



と一言多かったものですから。陳情問題から国の機関の名前を挙げましたけれども、ちょっと多かったものですから、あれを訂正させていただきます。御了解賜りたいと思います。

◎議長（山中金治郎君） 以上で11番議員秋山光章さんの質問を終わります。

次に、6番議員鈴木順子さん。御登壇願います。

（6番議員鈴木順子君登壇）

◎6番（鈴木順子君） 本日最後の質問になります。本日最後ですので、お疲れでしょうけれども、静かにきょうは閉じさせていただきたいと思いますので、いましばらくお時間をいただきたいと思います。

通告いたしました5点につきまして質問をいたします。通告順に従いまして、1つ目にはN T T株の損失の処理について、2つ目にはデイサービスの充実について、3つ目には窓口での各種証明書の入手方法につきまして、4つ目には小中学校児童生徒の校外での過ごし方について、5つ目には古紙回収の現状と今後についてを伺ってまいります。

まず、1点目の質問なんですが、N T T株損失の処理について伺います。N T T株不正購入が発覚以来1年以上がたちましたが、さまざまな議論がこの議場におきましてされてきましたことは御承知のとおりでございます。また、昨年11月には、株の購入をしながら報告をしなかった元収入役1人を除いて、2人の株の購入を行い、市に多大な損害を与えた元収入役を市が告発をいたしましたことは御承知のとおりであります。その後の捜査状況がどうなっているのかは、今は私どもの知るところにはないわけですが、心配をする市民にとりましては、事の成り行きを見守る以外にはないのでしょうかというような声を多くお聞きをいたします。

一方で、このことで発生をいたしました損失について、昨年9月議会におきまして庄司市長は、株の損失分につきましては8年度決算で処理をすると答えていらっしゃいます。8年度分は既に出納閉鎖がされているわけですが、どうなるのかという市民からの問い合わせも非常に多くございます。多大な損害を与えた市民に対して、庄司市長は知らせる義務があるわけでありませう。この件について、どう処理をなさるおつもりなのか、具体的にお聞かせをいただきたいと思ひます。

次に、2点目ですが、開始以来、利用者から非常に喜ばれておりますデイサービス事業ですが、利用者のもっと利用回数をふやしてほしいという要請に対しまして、市として、行政としてどう考えているのかを伺いたひと思ひます。

このサービス事業が一番喜ばれておりますのは、入浴サービスを受けられるということにあるかと思ひます。ところが、現在の2週間に1回のペースでは、到底満足を得られないことは当然ではないでしょうか。私もかねてよりこの場におきまして言っておりますとおり、人の助けをかりなければ入浴ができない人たちにとりましては、本人の体の調子と介助者の体調のよいときが

合致しなければできない作業であります。入浴の介助をする人が無理をして入浴をさせますと、どんな事故に遭うかわからない状況が生まれかねないわけであります。その心配を考えますと、つつい体をついでだけで終わってしまうのが現状であります。これからの暑い季節を前にいたしまして、いつも思うことですが、デイサービスの回数をふやしてほしいという要望はいつかなえられるのか、率直にお答えをお聞かせをいただきたいと思います。

次に、３点目といたしまして、役所窓口での各種証明書の入手について伺います。以前にも、この問題につきましては他の議員より質問を受けていた経緯がございました。社会状況も年々変わっておりますので、改めての質問をさせていただきます。

現在ではコンピュータ社会と言われまして、そのコンピュータの機種も年々よくなってきているということでもあります。また、一般家庭におきまして、ファクス機能のついた電話機をお持ちの方も非常に多い社会になってまいりました。鴨川市では、市民課窓口業務が市内約12カ所ほどこで行われておりまして、各種証明書類を自宅の近くで手に入れることができると伺っております。また、市川市では、この４月からコンビニで鴨川と同様に証明書類を手に入れることができるとも伺っております。

ところで、我が館山市では、御存じのとおり、混雑をいたしますときには、車の駐車スペースが少ないために、皆さんは大変な思いをなさっております。また、市内の遠いところから１日に何本も出ていないバスを利用してやっと来るお年寄りにとっては、大変きついという声もございます。

そこで伺いをいたしますが、近くの公民館などで証明書類の入手ができないだろうか、この市民の要望に対しましてどうお応えになられるでしょうか、お伺いいたします。

また、館山市では、行政区での職員に依頼をする方法、あるいは郵送で入手をする方法などございますが、役所の職員の方にただ頼むのは申しわけないというお考え、あるいは郵送では急ぐ場合は間に合わないなどの御意見もあることを一言申し添えておきたいと思っております。

次に、小中学校児童生徒の校外での過ごし方について伺ってまいります。現在の社会の中で、小中学校の子供たちが伸び伸びと過ごしていくには非常に困難が多く、塾通いはもとより、家の中でのファミコンゲームなどでの遊び——家にこもりがちだったり、余り健康ではない状況にあると言われております。子供たちが伸び伸びと動き回って遊ぶには社会的な環境が整っていないということも、一方にはあるとも言われております。非常に残念ではありますが、こういう社会背景によりまして、現代のいじめ問題があったり、犯罪に巻き込まれたりということが起きているのではないかと危惧をしております。館山市内の小中学校の児童生徒たちの校外での過ごし方につきまして把握をしておりますでしょうか、調査などを行った経緯があるのでしょうか、お聞きをいたします。

校外での子供たちの行動は、地域住民とのかかわりなしには考えられないと思うのですが、地域とのかかわり方について、教育委員会としては具体的にどうお考えになっていますでしょうか、お伺いをいたしたいと思います。

最後に、館山市で行っております古紙回収についてでございますが、紙余りということが言われている昨今、古紙回収が行えないという自治体があると言われておりますが、館山市では大丈夫なんだろうかと思うことも——冗談では済まされない深刻な状況ではないかと思いますが、不用になったもののリサイクル化ということで、この間ペットボトルにまで及ぶに至っておりますが、再利用のために回収を自治体や一部企業及び団体などで行っておりますが、再利用品として利用をされなければ、パンク状態になることは目に見えていたはずであります。リサイクル法を打ち出しました国の方針も、そこに不十分さがあったのではないかと思いますを得ないわけであります。

そんな折に、学校での教科書に再生紙が使われるのではという報道が最近ございました。私たちがふだん利用しているものにも再生紙が出回ってはいますが、紙ざわりや、値段が高いのではと、つつい敬遠してしまうようであります。しかし、当初言われておりましたような質や値段の問題は、普通のものとはほとんど変わりなく、誤解を受けているのが実情のようであります。館山市でも古紙の回収をしておりますが、今後の見通しはどのようなのでしょうか、お伺いをいたします。

また、市の庁舎を初め、学校、あるいは他の公共施設などで再生紙の利用がされているのかどうか、お伺いをしたいと思います。

以上御質問を申し上げましたが、御答弁によりまして再質問をいたします。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの鈴木順子議員の御質問にお答えいたします。

第1、NTT株損失の処理についての御質問でございますが、NTT株取得によりまして生じた損失につきましては、歳計現金による取得分、財政調整基金による取得分、ともに平成8年度決算で欠損処理をいたします。

大きな第2、デイサービスについての御質問でございますが、館山特別養護老人ホームに併設されておりますふれあいの郷、ここにおきましては、利用者1人当たり月2回程度の利用となっております。このほか、デイサービスと内容がほぼ同じ三芳村の老人保健施設のデイケアにおきましては、1人当たり月五、六回程度利用されていると伺っております。また、本年秋に市内に開設されます老人保健施設では、1日当たりの利用者数は20人規模で計画されておりますので、今後利用者の拡大が図られるものと考えております。

第3の窓口での各種証明書の入手方法についての御質問でございますが、現在行っております、最寄りの郵便局で手続ができる館山メール、あるいは近隣の館山市職員がかわって手続をいたします市民れんらく便等の制度のさらなる周知を図りまして、引き続き住民サービスの向上に努めてまいりたいと考えております。

第4、小中学校児童生徒の校外での過ごし方の問題につきましては、教育長より御答弁申し上げます。

第5、古紙回収についての御質問でございますが、館山市におきましては、平成2年9月から新聞、雑誌、段ボールの古紙回収を実施しております。平成8年度には、新聞 841トン、雑誌 472トン、段ボール 101トン、合計 1,414トンの古紙が回収され、再資源化がなされております。今後も引き続き古紙回収に努め、再資源化を図ってまいります。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） 大きな第4、小中学校児童生徒の校外での過ごし方についての御質問でございますが、校外での過ごし方につきましては、家庭がその責任を負うのが原則でございますが、今後とも家庭、学校、社会との融合化の中で指導体制や啓発活動とともに努力していく考えでございます。その具体策の一つといたしまして、マイスクール事業や社会人活用を推進してまいります。

◎議長（山中金治郎君） 6番鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） それでは再質問させていただきますが、NTT株の損失の件につきましてまずお伺いをいたします。

ただいまの御答弁によりますと、歳計、財政調整基金で欠損処理をするというふうにお聞きをいたしました。私がまずお聞きしたいのは、株を買ったときの金額がございましたよね。その額をここで出すということでの判断でよろしいんですか。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 欠損処理で減額いたします金額でございますけれども、おっしゃいますとおり、歳計現金1億200万円、それから財政調整基金から2億7,350万円、それぞれ株を購入した金額でございます。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） それで、一つここで気になるのが、例えばこの数字の部分について、何のためにこれが減額になっているのかという — 注釈と言ったらいいのかな、そういったものは当然おつけになりますよね。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 決算書にその旨明記いたします。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） その辺は了解いたしました。やはり後々になりまして、これは何のためなんだろうというのをちゃんとつけていただかないと、残るものですから、その辺はきちんとしておいていただきたいというふうに思います。

これは8年度の決算ですから、9月議会で決算の認定というような作業があります。そこで決算審査をされるわけなんです、5月31日出納閉鎖をされた段階で、まず市としてどのように考えているのかという意味で、やはり市はこれだけ多大な損害を与えてしまって、怒りやら御心配やらおかけをしている市民に対してきちっと返していくということを私はしなければならないというふうに思っております。そういう意味も含めまして、今議会であえてお聞きをしているわけです。

あと、渡辺元収入役からのいわゆる寄附と言われております任意弁済の分の扱い、これはどういったところに記載をされているんでしょうか、その辺をちょっとお伺いをいたしたいと思えますのが1つ。そして、NTT株を昨年売りました。この扱いもどうなさるのか。その2点をちょっとお伺いしたいんですが。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） まず、渡辺収入役から収納いたしました1,500万円でございますが、これは現金を寄附金として収納いたしております。決算上もそのような形で出てまいります。

それから、株を売却いたしました収入でございますけれども、1億2,993万850円でございますが、諸収入として収納いたします。

以上でございます。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 手法的なことがちょっとわからないのでお尋ねしたいんですが、1,500万円の寄附として載せるということですが、そこには注積はつきませんか。例えば、これは任意弁済の一部ですというような注積はつかないんですか。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） この1,500万円につきましては任意の寄附ということで、特段の注積は考えておりません。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 私はまだまだこだわっているんです。この寄附で、ずっとそれが末代まで残ってしまうのは非常に腹立たしい思いがするわけです。だから、それを何とか解消していた

だけたらというふうに思うんです。

これは手法的に — 注釈をつけて任意弁済の一部であるというようなことは、してはいけないんでしょうか。どうなんですか。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 特段、決算書上にその旨を記してはいけないということはないと考えておりますが、寄附採納にかかわります各種の書類は当然決算書類と一緒に残るわけでございますので、今後どのような記載にするか、株の購入によりまして滅失いたしました現金については、それぞれ記載するという事で一応の結論を得ておりますけれども、この寄附金についても同様な取り扱いにするか、検討させていただきたいと存じます。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） してはいけないということでないのであれば、やはり今御答弁いただきましたように、そういったことを踏まえまして、ぜひ前向きにこれは検討していただきたいということを強くお願いをしておきたいというふうに思います。

それから、山田元収入役から同じく住宅、宅地 — これも一部寄附と言われているんですが、私はあえて任意弁済と言わせていただきますが、これの扱いはどうなっていますでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 土地と、それからそこに建っております住宅及び物置でございますけれども、これらにつきましては、今後一般競争入札により処分を予定しております。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） これは入札によって処分というふうに今御答弁いただいたんですが、いつの時期にそれをなさるのかをひとつお聞きしたいということと、こういった見通し — こういう不景気の世の中でどうなんだろうかなというふうな部分と、あわせてお聞きをしたいと思いますが。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 正直なところを申し上げまして、こういう市有物件の競争入札によります処分ということにつきまして、私どもの方はそれほど経験があるわけではございません。慎重にその手法等を検討しているところでございますが、今後数カ月のうちには入札の運びになるのではなかろうかというふうに考えております。ちょっと時期についてははっきりいたしません、それほど遅くない時期ということで御了解いただきたいと存じます。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 数カ月のうちということですから、きょうあしたという話ではないわけなんです、そこがあいている状況でしょう、今ずっと。そういう状況のままあけておくのは

もったいないんです。何か利用するような考えはないですか。

◎議長（山中金治郎君） 総務部長。

◎総務部長（鈴木完二君） 確かに空き家を管理しますのは、しょっちゅう行きまして空気の入れかえとか、いろいろ手間がかかります。それで、有効な利用が図ればよろしいとも考えておりますけれども、これは市役所内部の関係各課にも照会をして、有効活用が図れないかということで聞いてもみたんですが、適当な利用方法、中長期にわたります活用方法がございませんものですので、現在はただ物件として管理しているという状況で、一般競争入札を待つ状態にございます。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） やはり何もない——空気だけが中にあるわけです。それをあけておくのは非常に私はもったいないなと。一応有効活用ができないかということでお聞きをしたようではありますが、また皆さんの方で、発想の転換をしていただきながら、再度有効活用をしていただければと。その間でももったいないというふうに思っております。

それで、市長にぜひこれはお伺いをいたしたいんですが、庄司市長、この件が発覚してからというとならというよりも——庄司市長は常々、いろんな問題が起きたとき、市民にすべてを明らかにしていこうということはおっしゃっております。それで、今回の処理の問題を含めまして、昨年の夏に市民に対して広報で説明をなさいました。この間、途中経過なり——まだ終わっていないですから、報告とはならないかもしれませんが、そういうことを市民に対して私はお知らせをする義務があるのではないかなというふうに思うんですが、その辺のことはどうお考えになっているんでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） このN T T問題は、事実が判明いたしましたから、直ちにこれを市民に発表いたしました。広報等でもありのままの監査報告を発表してございます。そして実態を明らかにする、これが第一義的な問題で、絶対条件でございますので、それをやって今日まで来ております。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 私がお聞きをしたいのは、今回の——例えば、今は出納閉鎖されたばかりですから、これから9月に向けての作業に入るかと思えます。決算に向けての作成する作業に入るかと思えますが、皆さん一様に——心配なさっている方はまだまだ多いんです。決して市民の皆さんは忘れていないわけじゃないんです。あれはどうなっているんだろうかという声を多くお聞きをするということを踏まえまして、庄司市長はそういった市民の声に対しましてどういうふうにそれをお知らせするのかと。例えば、早急に広報を使って今の現状はこうですと言うのか、

あるいはすべて事が終わったときにこういう結果になりましたという報告で済ませるのか、その辺をお聞きをしたかったわけです。

◎議長（山中金治郎君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 当時の — 当時といいますか、問題の収入役の件につきましては、司法の手に渡っておりますから、これはもう一切当局にお願いしてあるということでございますし、9月決算の結果につきましては、ありのままを報告いたします、このように処理したと。これが責任といいますか、当然のことかと、こう考えております。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） それでは、今回のことは9月決算終了後に広く市民の皆さんにお知らせをするんだということを今お聞きをいたしましたので、その後のまた市民の反響があるかと思いますが、それはまたそのときにお伺いをしたいと思います。そして、この問題につきましては、9月議会に決算が提案されるわけですので、またそのときに議論ができたらいいなというふうに思っております。

次に、デイサービスの問題なんです、私も実は対象者でありながら知らなかったんですが、三芳の施設、そこを今併用で利用なさっている方が非常に多いんだ、そういうことができるんだということをうかつにも知らなかったわけなんです、ぜひそれは利用させていただきたいなというふうに思うんですが、今こういうデイサービスを利用する人たちというのは結構高齢の方が多いいです。今ちょっとうちでも議論しているんですが、ほかの今までと違ったようなところに行くのを非常に嫌がるんです。それを説得するのにかなり時間がかかるというような現状もあります。でも、何とかこれは本人のためにもわかってもらわなくちゃならないなというふうには思っておりますが、この間、ほかの近隣の市町村でもいろんな施設ができます。また、できたところもあります。そういったことでいえば、今私たちが、皆さんが利用しているセンターの利用者が若干緩和してくるのではないかなというふうに私は思っているんですが、これで要望に本当に足りるのかどうなのか。足りないというふうに言うしかないんですが。

そこで一つお聞きをしたいんですが、現在デイサービスを受けたいが受けられないというふうな待機をしている方がいらっしゃいますでしょうか。それから、例えばこういうことを知らないでいた方に対しての — 月2回では少ないから、ほかのところが受けられないかというようなことに対しての相談、そういった対応はあるんでしょうか、どうでしょうか。具体的にお聞かせをいただきたいと思います。

◎議長（山中金治郎君） 市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 現在デイサービスを受けていない方はどうか、いわゆる待機者ということでしょうか、現在おりません。回数は少ないんですけども、希望に応じて全員受け



ているという状況でございます。

それから、相談のとき、最初は — ふれあいの郷の利用ができればいいんですけれども、利用できない場合には、先ほど議員さんがおっしゃった三芳の光栄館、そちらの方を利用するようにという指導をしております。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 待機している人がいるかどうかということに対して、ないということだったんですが、私の頭の中では待機だらけだと。数が足りていないわけですから、私は待機だらけだというふうに判断をしております。

これは、実際に介護をしている方なんかは特によくわかると思うんですが、半身不随の方などというのは非常に — 固まっちゃって、腕あるいは足なんか本当に動かないわけです。そういったときに、わきの下とか、あるいは足、もものつけ根とか、そういったところがただれちゃうんです。こういったことは、ふいても治らないんです。やはりおふろに入れることが第一なんです。ところが、実際に家庭でそういった方々をおふろに入れるというのは、先ほども申しましたように至難のわざなんです。障害者というのは、普通の人の体重よりも非常に重く感じるんです。やはり体がきかない分、一生懸命それを支えようとしますから、介助する人も非常に体力を使うというようなことがあって、なかなか家庭ではできないというのが現状であります。

これからのことで、赤門さんがつくられる老人保健施設ですか、そこが1日20人対応して下さるということであるならば、今のデイセンターよりも5人多いわけです。そういった中で、やはり私は当座はここを利用させていただきながらやっていくしかないのかなというふうに思うんですが、これはすればするほどまた利用者はふえると思いますので、今後またこれ以外のこと — 赤門さんでつくられる、9月から始められる老人保健施設以外で対応なさるようなお考えは、ほかには今のところないのでしょうか。

◎議長（山中金治郎君） 市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 先ほど半身不随というお話がありましたけれども、このデイケアといいますのは、通所のリハビリテーションということでまた別に言われております。このいわゆるデイケア — 西岬に近々オープンされます20人の施設が確保される。そのほかにはという御質問でございますけれども、この近隣には、当面は特別養護老人ホーム、これは併設はデイサービス事業でございます。そういった状況の中で、今の時点ではデイケアの事業の計画は聞いておりません。将来の問題だと思います。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 私は、ホームヘルパーさんの問題もそうなんです、このデイサービス

あるいはデイケアサービスの問題が非常にこれから重要視されてくるのではないかなというふうに思います。今後の課題といたしましてお考えいただくということですので、ぜひこれはよろしく願いをいたしたいと思います。

窓口業務の件なんですが、先ほど鴨川で約12カ所というふうなことを言いましたが、鴨川には鴨川の原因がありまして、旧町村の合併の折の約束事があったというようなこともお聞きをしています。また、市川市で始めたコンビニに関しましては、公的なものを民間のところで行うわけですから、プライバシー問題が県でも指摘をされているというふうにもお聞きをいたしました。それでもやっぱり市川市は行政として市民の要望にこたえてやっているわけです。

私、先ほど公民館の利用はどうかというようなことで提言をしたんですが、公民館といいますと、管轄は教育委員会になるわけですね。そうすると、市の業務を教育委員会の施設でできるのかどうなのかという問題が生じるのかどうなのか、お答えを願いたいんですが。

◎議長（山中金治郎君） 市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 公民館の利用は施設の管理上できるかどうかということでございますけれども、今の時点では — 教育長さんのお考えはどうか。要は、公民館といいますのは教育施設というとらえ方をしているわけです。地区によっては、公民館をそれ以外の業務ということで鴨川みたいに活用しておりますけれども、そういったことで、今後の検討課題だと思います。

いずれにしても、公民館を利用しなくとも、先ほど市長が答弁した館山メール — これは、各地区にあります郵便局、12カ所ございますけれども、そこで受け付けをして、そして郵便をもってお互いに連絡し合い、最終的には郵便で届くという制度で、大分好評を得ております。そういったことで、公民館を利用しなくとも、今の制度で十分対応できるんじゃないかというふうに考えております。

以上です。

◎議長（山中金治郎君） 鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） それは館山の売りであることは承知です。だけれども、急ぎのときはそれはとても間に合わないわけです。それをさっき言ったわけです。そして、あと一つなんですが、職員の対応、これに関しても、利用する方が申しわけないと言っているんです。それは何人か頼まれた方はいらっしゃるようです。申しわけないと言う方もいらっしゃるということです。こう言っちゃ何ですが、年配の方が特にそうなんです。

そういったことを踏まえて、私はやっぱり、時代がここまで変わっているんだから、できるんじゃないかなというふうに思うんです。教育委員会のさっきの関係、公民館との関係なんですが、今や空き教室の利用ですら — 前はかなりうるさかったです。でも、今はその枠がとれて、いろ

んなものに利用するようになっていないですか。できないことないと思うんです。だから、やはり遠くの方にいらっしゃる方——畑の方とか、西之浜ですか、西岬の方の方とか九重の奥の方の方、そういった方々にとっては——非常につらいとおっしゃる方もいるわけですから、その辺の配慮もしていただきたい。先ほどほかの議員さんからも御質問があったように、市の駐車スペースの関係もやはり緩和にはなるというふうに思います。

私が言っているのは、近くの公民館でそういうことが可能であるならば、耕運機を運転しながらそこへ行ってとれるというような状況をつくっていただきたい、それだけのことなんです。だから、それはぜひこれから——そうおっしゃらずに、時代に取り残されないように前向きに考えていただきたいなというふうに私は思います。

次に移りますが、小中学校の子供たちの休日あるいは下校後の過ごし方なんですが、先ほども申しましたように、これは大人にも責任の一端があるのかもしれないけれども、非常に殺伐とした社会であるという中で、私どもの周りにいるお子さんたちを見ている、塾通いや——中学生は部活がありますよね。部活から帰ってきても塾通いとかで追いまわられているという状況の中で、本当にこの子たちがゆとりを持って子供らしく伸び伸びと過ごしているかといったら、そうではないというふうに思います。これは私どもだけじゃなくて、社会全体で考えていかなければ、大きな問題になるかと思うので、またこれは視点を変えてお話しするケースがあるかと思いますが、そのときはまたよろしく願いをいたしたいと思います。

最後の古紙回収の件なんですが、リサイクルということで名を打って古紙を回収しても、それが利用されなければ何にもならないわけです。国の方針はそこが抜けているんです。今回初めて——これも定かではありません。文部大臣が話しているのをちらっと聞いただけですから、定かではありませんが、もし学校の教科書が全部古紙で賄われるとしたら、こんなにいいことはないなというふうに思います。せめて自治体でそういう再生紙の利用であるとかを行っていただきたいなというふうに思いました。

それで、実際に私もちょっとこの間聞いたんですが、館山市では古紙回収に関して民間委託をしております。その中で、非常に安いお金で請けているというふうに聞いております。これは、新聞、段ボールなんかは今是一緒なんだそうです。私は、新聞は新聞、段ボールは段ボールで価格が違うのかと思ったら、今は何か一緒だというふうなこともお聞きをいたしまして、本当にびっくりしちゃったんですが、今それこそ民間の方々——請けたはいいいけれども、それをきちんと問屋さんに持っていても、問屋さんの方でも置く場がないとかというようなこともお聞きをしていますので、ぜひこれは強力にあらゆる面で、あらゆるところで、再生紙の利用であるとか、リサイクル品の利用を自治体が進んでやっていただきたいというふうに、強く要望をしておきたいというふうに思います。

以上で終わります。

◎議長（山中金治郎君） 以上で6番議員鈴木順子さんの質問を終わります。

以上で通告者による一般質問を終わります。

散 会 午後5時24分

◎議長（山中金治郎君） 本日の会議はこれにて散会といたします。

なお、明17日は議案調査のため休会、次会は6月18日午前10時開会とし、その議事は、各議案の質疑を行います。

この際、申し上げます。一般議案及び補正予算に対する質疑通告の締め切りは6月17日正午でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問